

金沢工業大学 御中

令和2年度 授業調査 報告書

2021.7.20

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	16
<4>学部・学科別の分析	22
<5>科目区分別の分析	32
<6>同一学生群の分析	38
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	44
<8>遠隔授業の評価の分析	49
<9>全体のまとめ	56

<1>本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が16年目となるため、16年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査開始は平成14年度)
- 今回(令和2年度)はコロナ禍の対策として、すべてWebで実施した。また、「遠隔授業」に関する質問を3問加えている。

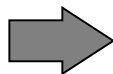
2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容						
有効回答数	有効回答数 61,658件(1年次:26,251件、2年次:20,449件、3年次:13,560件、4年次:1,398件)						
年別回答数推移	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票	
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票	
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055		
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917		
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494		
	年度	前学期	後学期	全回答数	調査票	新調査票	
	平成21年度	42,446	43,962	86,408			
	平成22年度	48,541	48,175	96,716			
	平成23年度	53,166	49,870	103,036			
	平成24年度	47,317	46,666	93,983			
	平成25年度	47,317	45,003	92,320			
	平成26年度	45,014	50,767	95,781			
	平成27年度	48,882	43,421	92,303			
	平成28年度	47,946	41,113	89,059			
	平成29年度	46,988	39,594	86,582			
	平成30年度	47,659	40,416	88,075			
	令和元年度	41,011	46,990	88,001			
	令和2年度	29,365	32,293	61,658			
	対象科目	783科目(シラバスコードの件数)					
	実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施期間:各学期の第14週目から学期最終日の1週間後まで実施した。 ● 実施方法:記名式.Web入力。 ● Web入力を科目担当の教員より周知すると共に、学生ポータルにて通知した。 					
調査主体	学校法人 金沢工業大学						
集計	有限会社 アイ・ポイント						

3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度、一部は平成14年度から)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

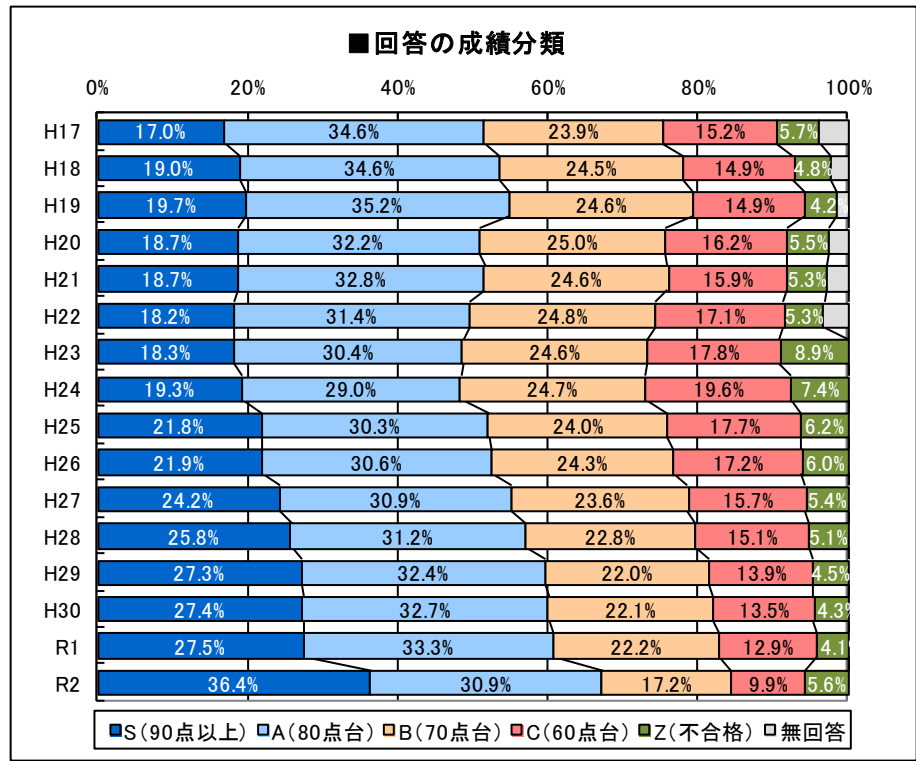
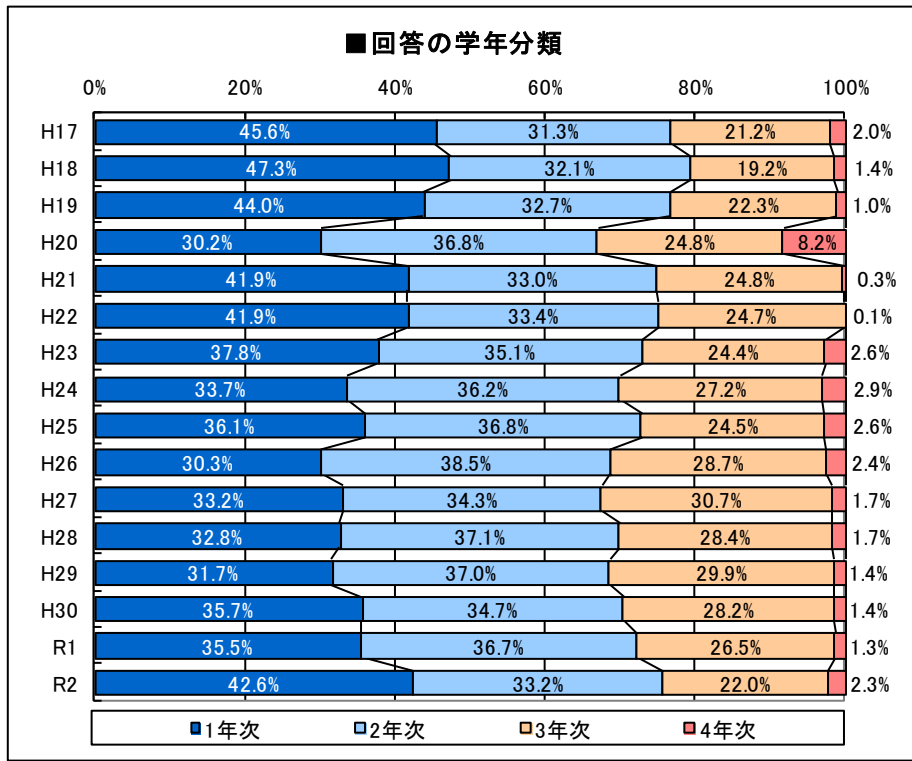


	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。 ※平成27年度の後学期より選択肢を変更している。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合評価

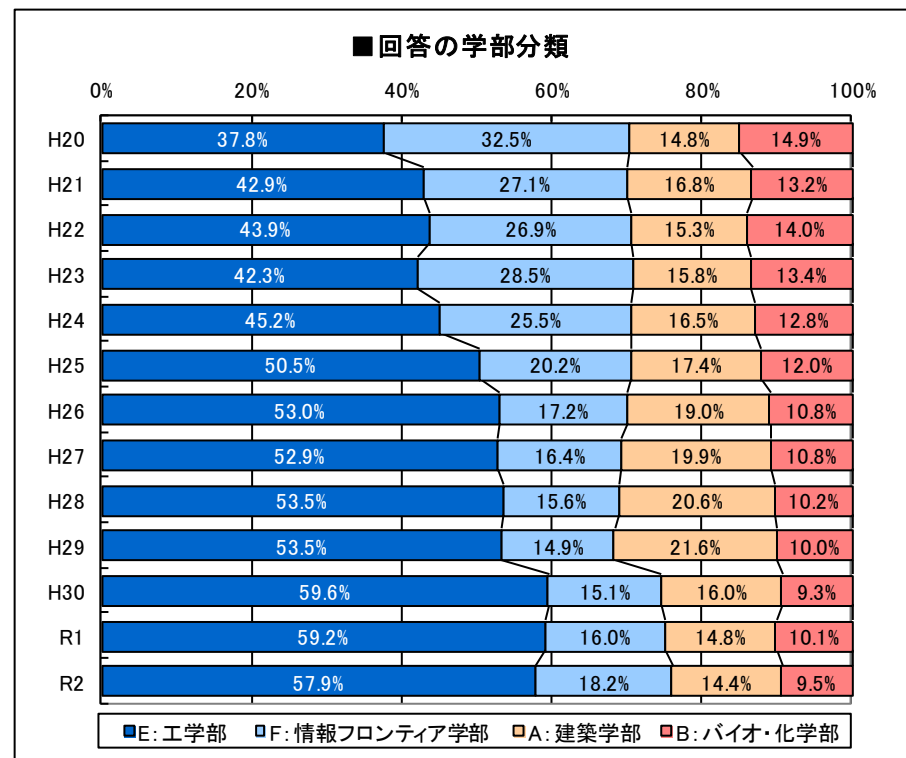
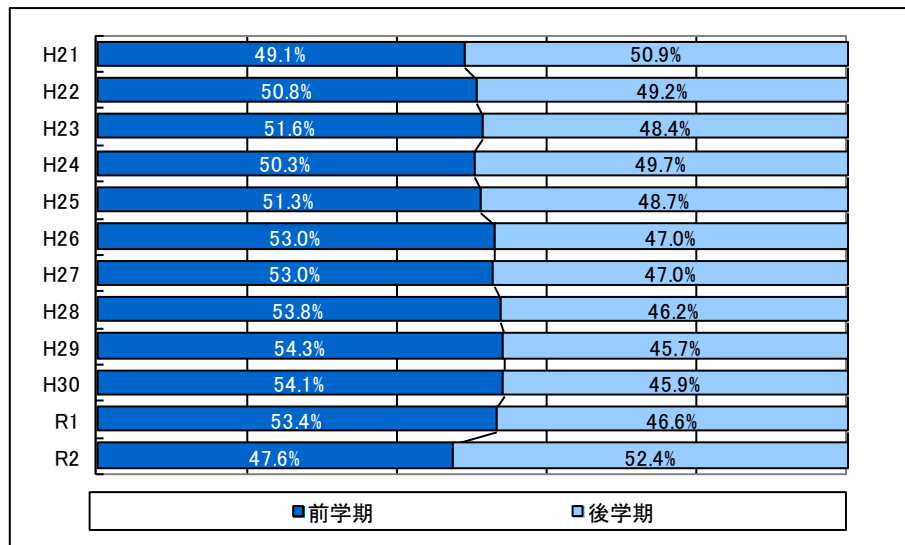
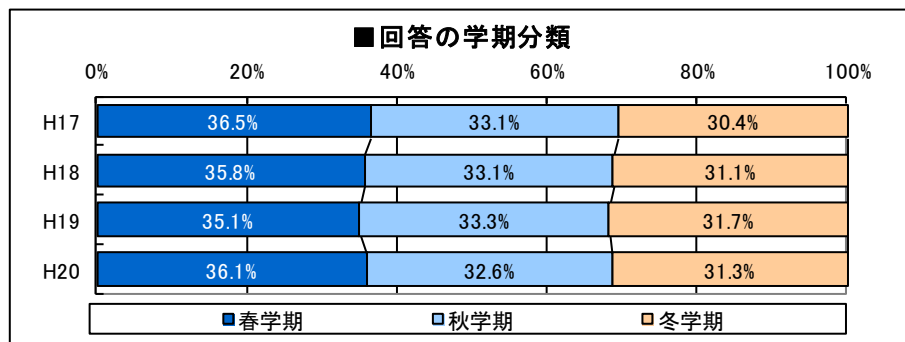
4) 集計に関して

- 平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」の設問は平成14年度より、「K」の設問は平成15年度より内容が同じなので、これらの4つの設問についてはそれぞれの期間に渡って比較を行っている。それら以外の設問は変更後の平成17年度以降で比較を行った。
- 平成27年度の後学期より、設問D(1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。)の選択肢を変更している。これまでは「1. 2時間以上、2. 1～2時間、3. 1時間程度、4. 30分程度、5. 学習は特にしなかった」の5択であったが、後学期からは「1. 3時間以上、2. 2～3時間、3. 1～2時間、4. 1時間程度、5. 30分程度、6. 学習は特にしなかった」の6択とした。これは2時間以上を選択する学生の実態を、より詳細に分析するための変更となる。
- 報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」なども、このルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。

- 学年別の回答割合を見ると、「1年次」が42.6%、「2年次」が33.2%、「3年次」が22.0%、「4年次」は2.3%であった。
- 成績の割合を見ると、「S」は継続的に増加が続いて36.4%となっており、前回は8.9ポイントと大きく上回った。そして、「A」が30.9%、「B」が17.2%、「C」が9.9%、「Z」が5.6%となっていた。



- 2学期制となったH21年度以降で学期ごとの回答数を比較すると、今回は「前学期」が減少して47.6%、「後学期」が52.4%となっていた。
- 学部・学科構成はH29まで4学部14学科であったが、H30以降は4学部12学科となっている。今回の回答割合は「E:工学部」が57.9%、「F:情報フロンティア学部」が18.2%、「A:建築学部」が14.4%、「B:バイオ・化学部」が9.5%となっていた。

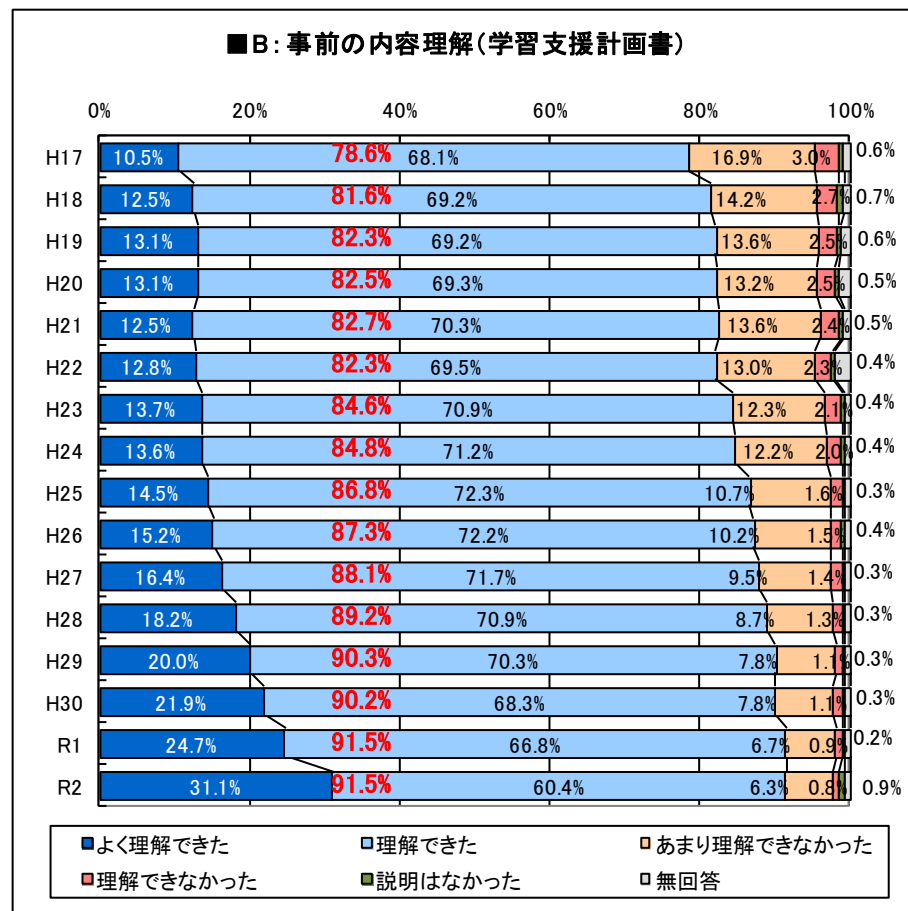
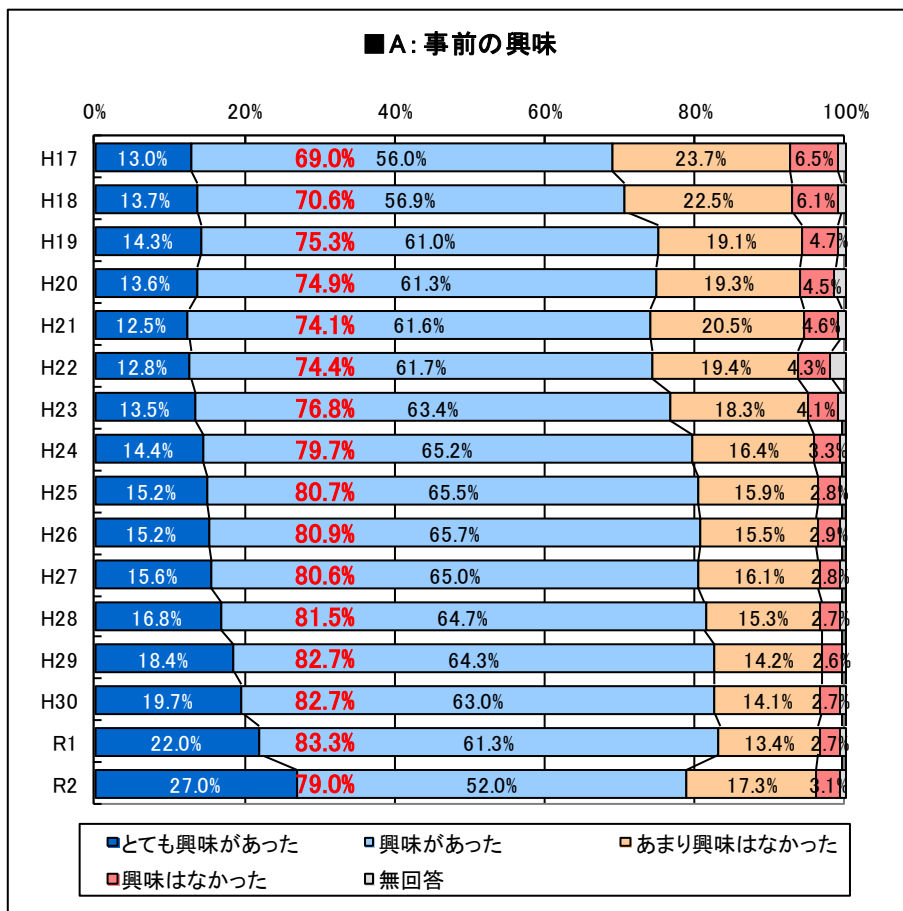


※H30に4学部14学科から4学部12学科に変わり、各学部に含まれる学科が異なっているため、学部ごとの構成比にも大きな変化が出ている。

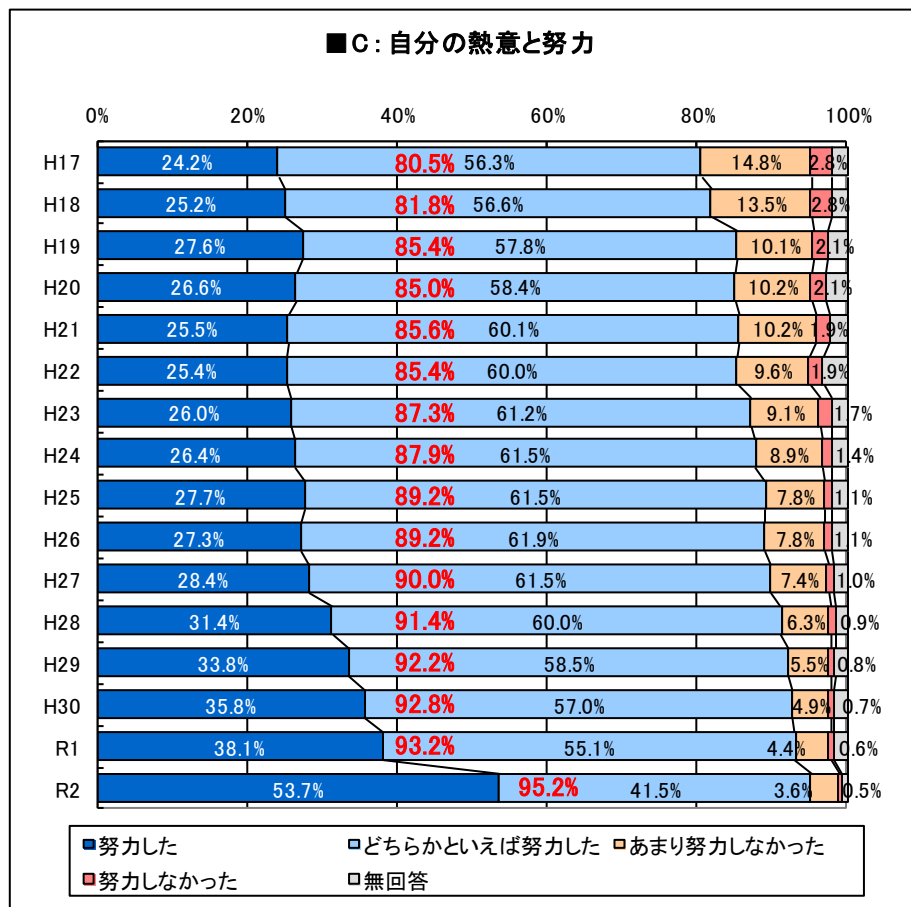
<2> 基本的な分析

- 単純集計のグラフでは肯定的な意見の合計をピンク色の文字で示しており、「無回答」の数値は表示していない。また、注意書きにあるように、合計値には誤差が含まれる場合もある。
- 「A:事前の興味」では「とても興味があった」が前回は5.0ポイント上回って過去最高の27.0%となっていた。ただし、「興味があった」が大きく下回って52.0%となり、肯定的な意見の合計は前回は4.3ポイント下回って79.0%となっており、H24以来の8割未満となった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」では、「よく理解できた」が前回は6.4ポイントと大きく上回って過去最高の31.1%となっていた。そして、肯定的な意見の合計は91.5%で、こちらも前回に続いて過去最高となっていた。

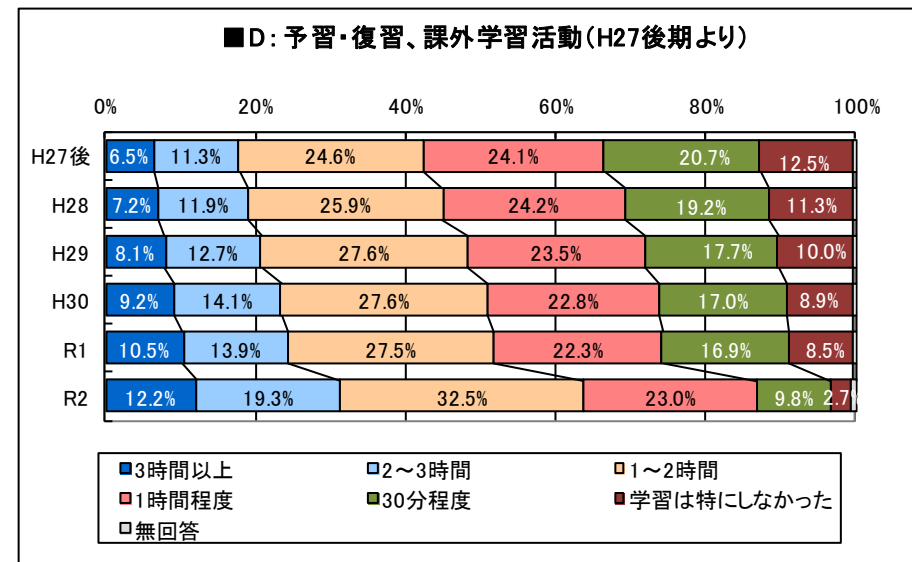
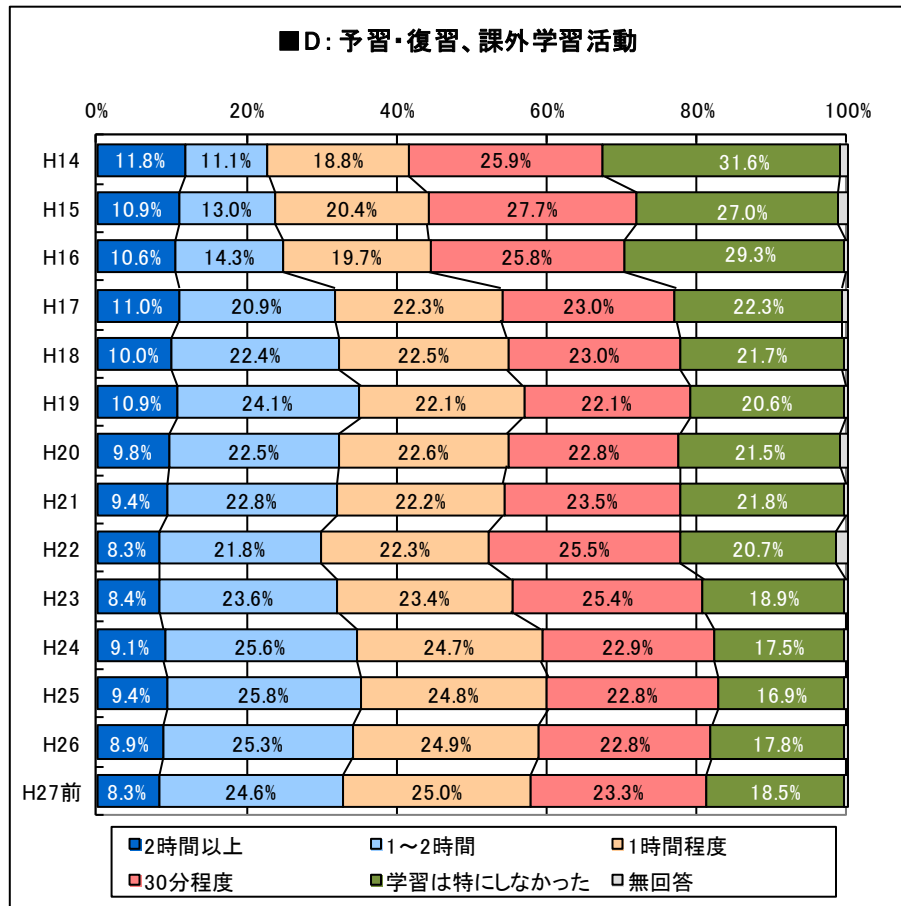
※報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」なども、このルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。



- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問文であるが、「努力した」は前回を15.6ポイントと大幅に上回って53.7%となっていた。これはもちろん過去最高であり、H24頃の倍の値であった。そして、「どちらかといえば努力した」が41.5%であり、肯定的な意見の合計も過去最高の95.2%となっていた。



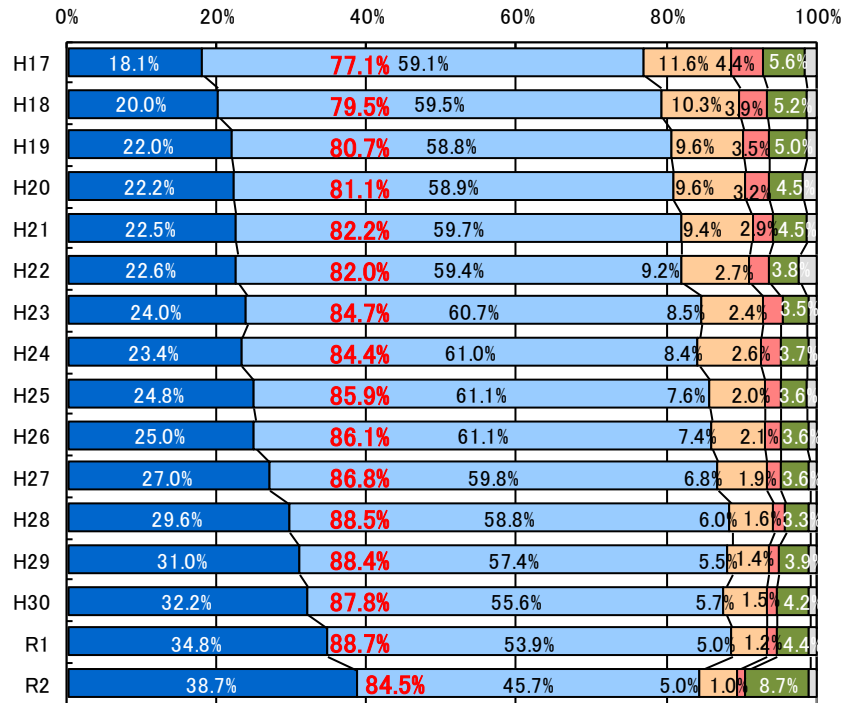
- 「D: 予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか?」という質問であるが、H27後学期(H27後)以降は選択肢を変更したため、別のグラフで比較をしている。
- 今回は「3時間以上」が12.2%、「2～3時間」が19.3%、「1～2時間」が32.5%であり、ここまでの3項目はすべて過去最高で、学習時間をしっかりと確保する学生が増加していると言える。
- 一方、「学習は特にしなかった」は2.7%で、過去と比較しても少なさが目立っており、ほとんどの学生が学習時間を確保していた。また、「30分程度」も過去最低となっていた。



※H16までの設問文は「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか?」であった。
 ※H27後学期から選択肢が変わったが、設問文は変わっていない。

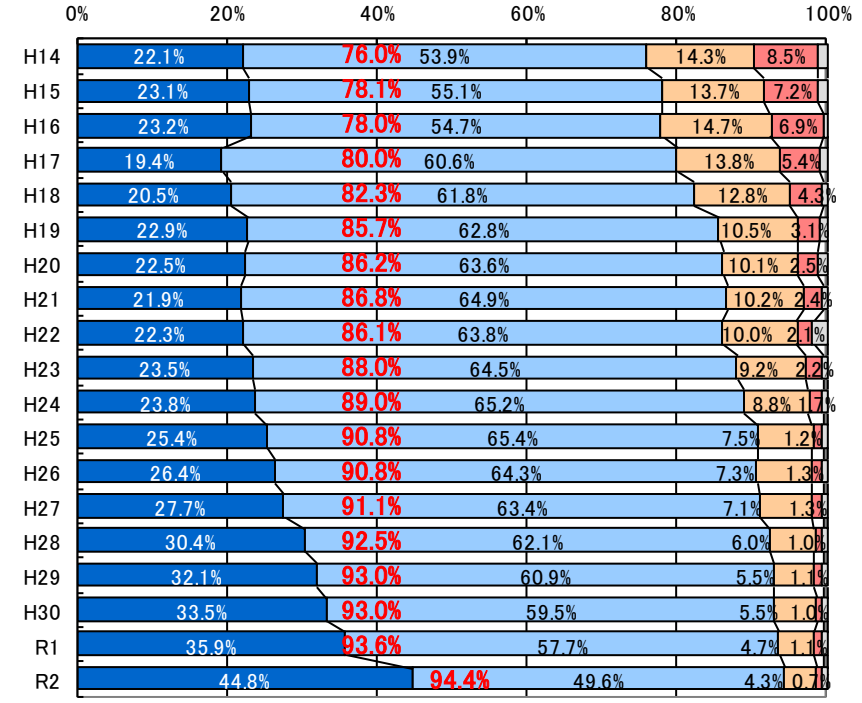
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」は前回は3.9ポイント上回って過去最高の38.7%であった。そして、「まあ適切だった」が45.7%で、肯定的な意見の合計は前回は4.2ポイント下回って84.5%となっていた。そして、今回は「教科書・指導書はなかった」が8.7%と多い点が特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」は前回は8.9ポイント上回って半数近い44.8%となっていた。そして、肯定的な意見の合計も前回は0.8ポイント上回って過去最高の94.4%となっていた。

■E:教科書・指導書の適切さ



■ 適切だった □ まあ適切だった □ あまり適切ではなかった
■ 適切ではなかった ■ 教科書・指導書はなかった □ 無回答

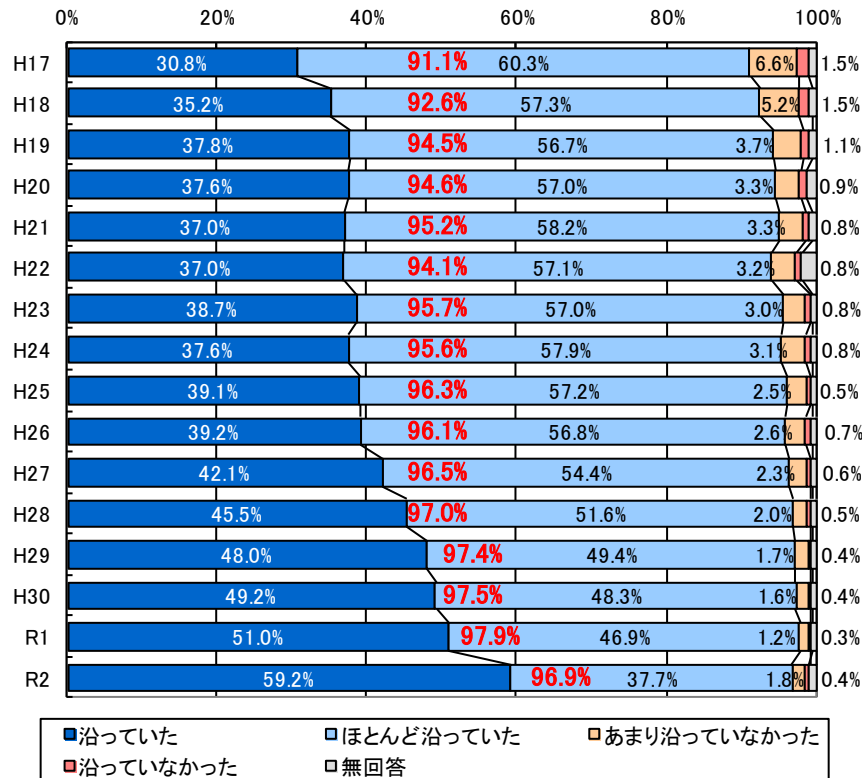
■F:課題・レポートの適切さ



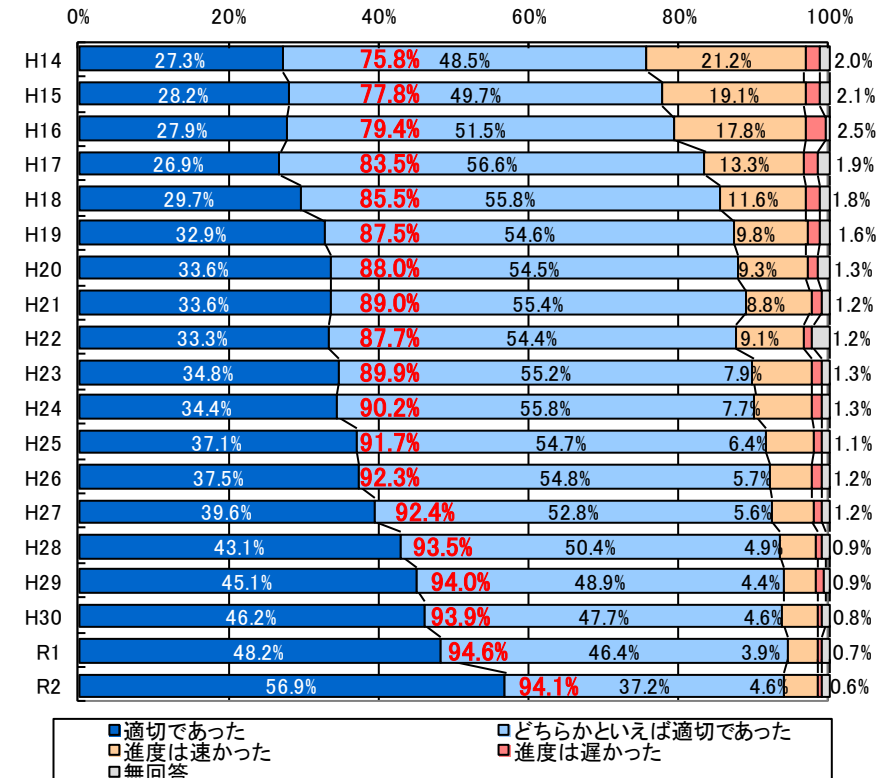
■ 十分役立った □ 役に立った
■ あまり役立たなかった ■ 課題またはレポート等はなかった
□ 無回答

- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」は前回は8.2ポイント上回って過去最高の59.2%であった。そして、「ほとんど沿っていた」が37.7%で、肯定的な意見の合計は前回は1.0ポイント下回って96.9%となっていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」は前回は8.7ポイント上回って過半数の56.9%になり、過去最高となっていた。そして、「どちらかといえば適切であった」が37.2%で、肯定的な意見の合計は前回は0.5ポイント下回って94.1%となっていた。

■ G: 学習支援計画書との一致

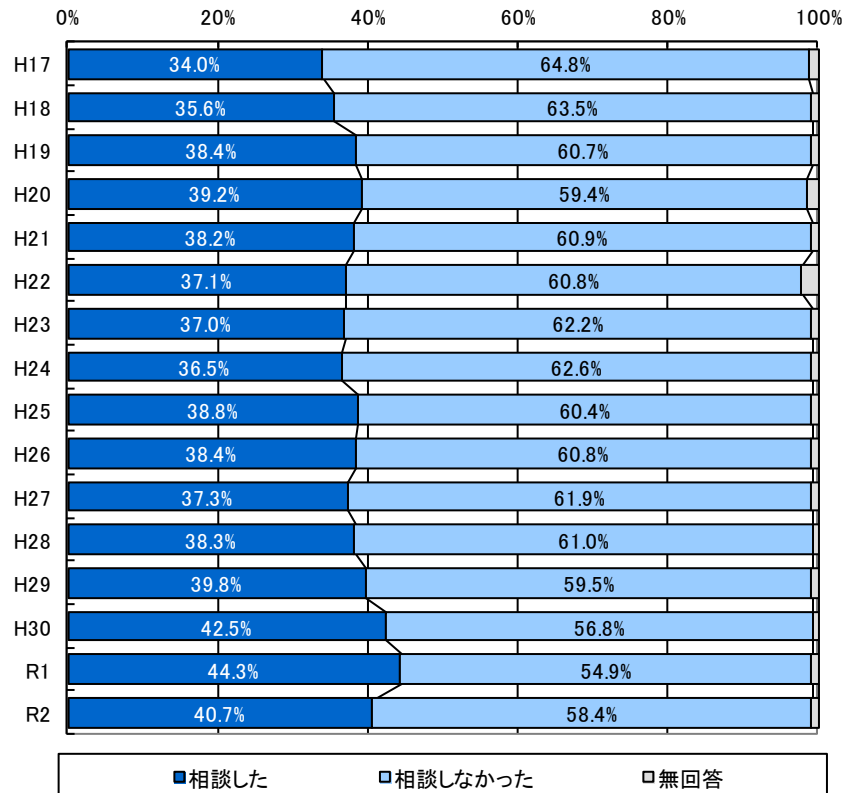


■ H: 授業の進度の適切さ



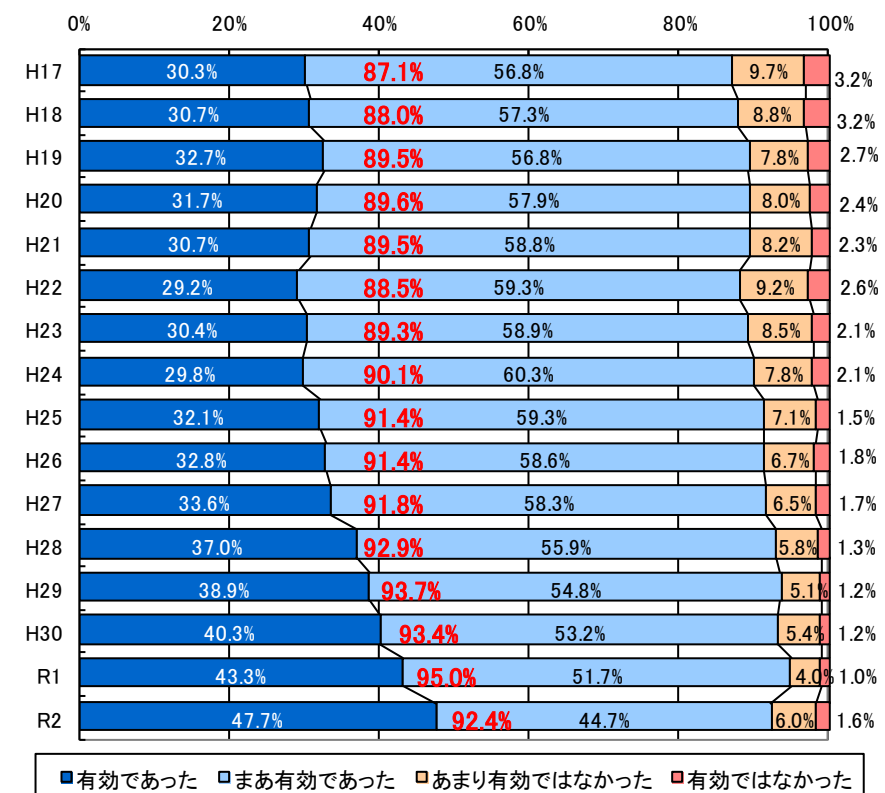
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問であり、「有効であった」～「有効ではなかった」という内容の評価と、「相談しなかった」という5つの選択肢で聞いている。
- 「有効であった」～「有効ではなかった」の4段階の評価で回答した学生を「相談経験者」として「学習相談の有無」を見ると、「相談した」は前回は3.6ポイント下回って40.7%となっており、H27頃からの増加傾向が止まっていた。そして、「相談しなかった」は58.4%であった。
- 相談経験者の有効性に関する回答を見ると、「有効であった」が前回は4.4ポイント上回って過去最高の47.7%となっていた。そして、「まあ有効であった」が44.7%であり、肯定的な意見の合計は前回は2.6ポイント下回って92.4%であった。

■ 学習相談の有無

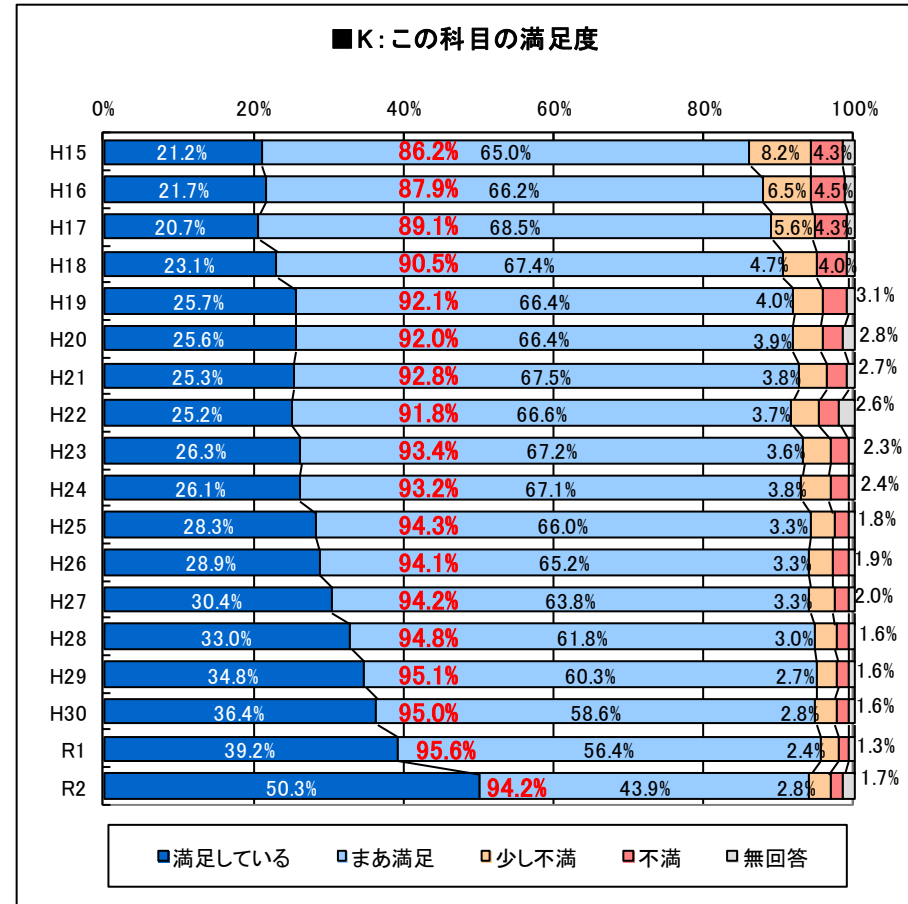
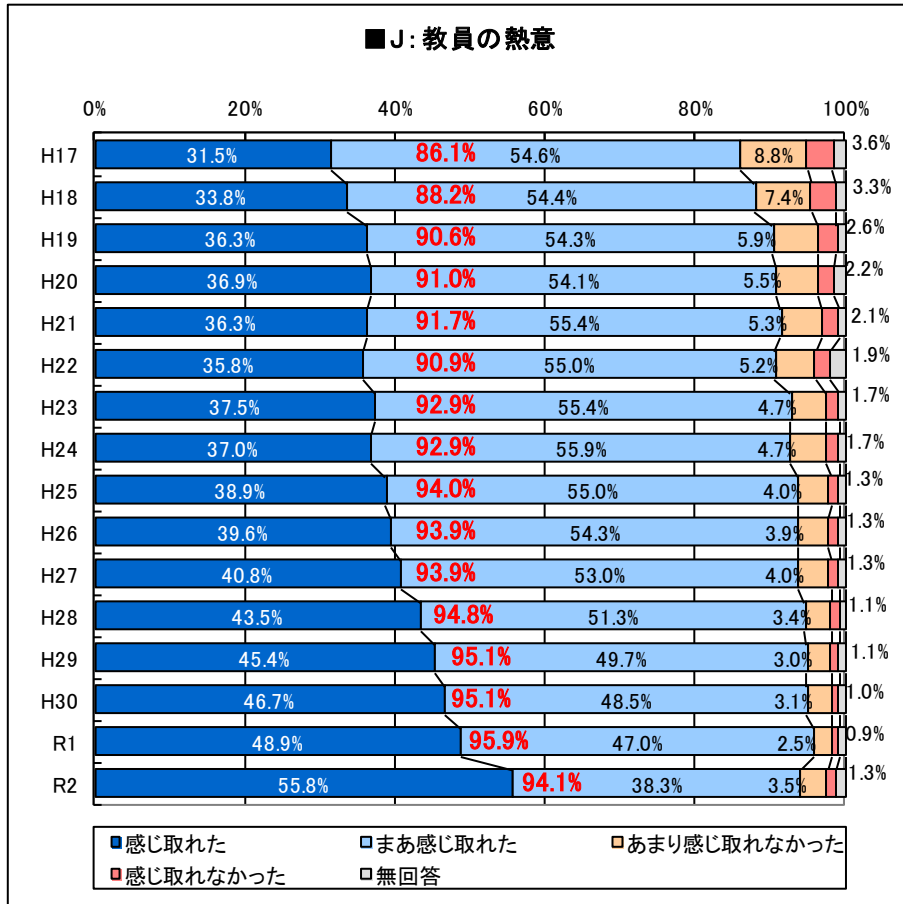


■ I: 学習相談(OH、チューター)の有効性

※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」は前回は6.9ポイントと大きく上回って過去最高の55.8%であった。そして、「まあ感じ取れた」が38.8%で、肯定的な意見の合計は94.1%となり、前回は1.8ポイント下回っていた。
- 「K:この科目の満足度」では、「満足している」が前回は11.1ポイントと大きく上回って過去最高の50.3%となっていた。「満足している」の割合はH22から継続的に増加が続いているが、今回は一気に5割を超えるまでになっており、非常に満足している様子がうかがえた。そして、「まあ満足」は43.9%であり、肯定的な意見の合計は前回は1.4ポイント下回って94.2%であった。



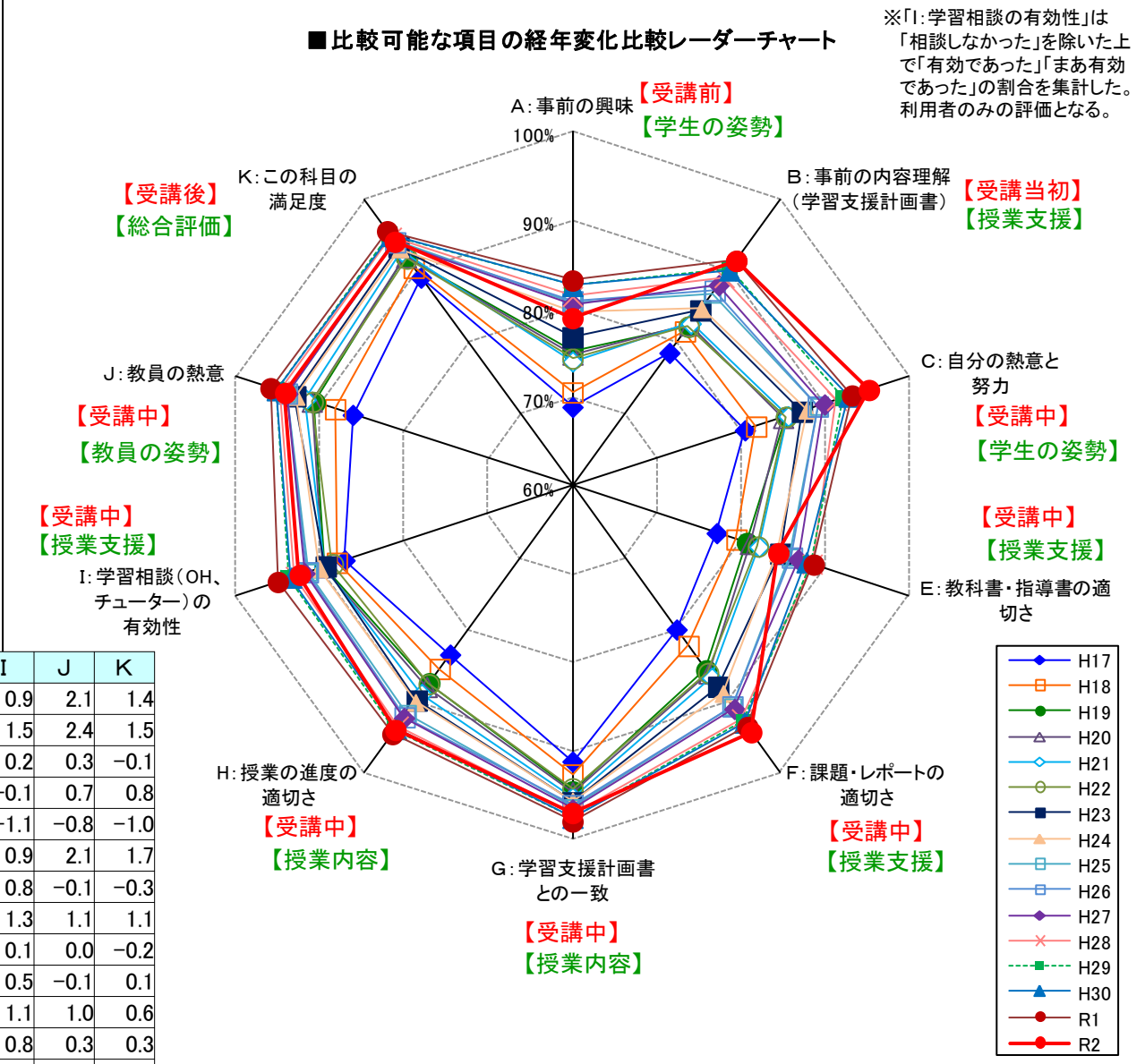
<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 肯定的な意見の割合(%)をレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 比較のできない「D: 予習・復習、課外学習活動」は除外し、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
- 今回の肯定的な意見の合計を見ると、「C. 自分の熱意と努力」と「F. 課題・レポートの適切さ」は前回は上回って過去最高となり、「B: 事前の内容理解(学習支援計画書)」は前回と同じで、こちらも過去最高であった。
- 上記の3項目以外はいずれも前回は下回っていた。ただし、ここまでに見てきたように、「満足している」などの強く肯定する意見は多くが過去最高になるなど、授業の評価としては決して低いものではなかった。

■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

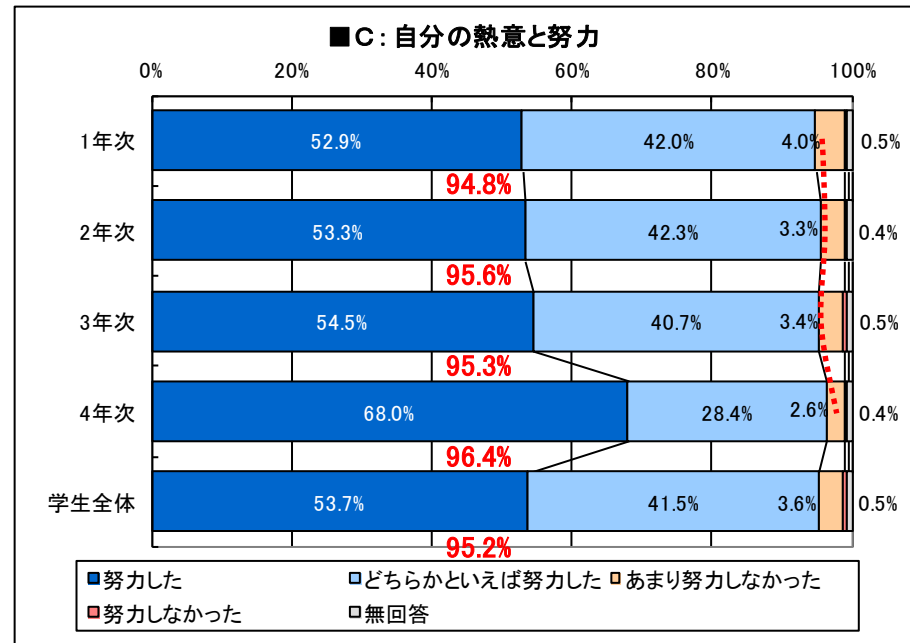
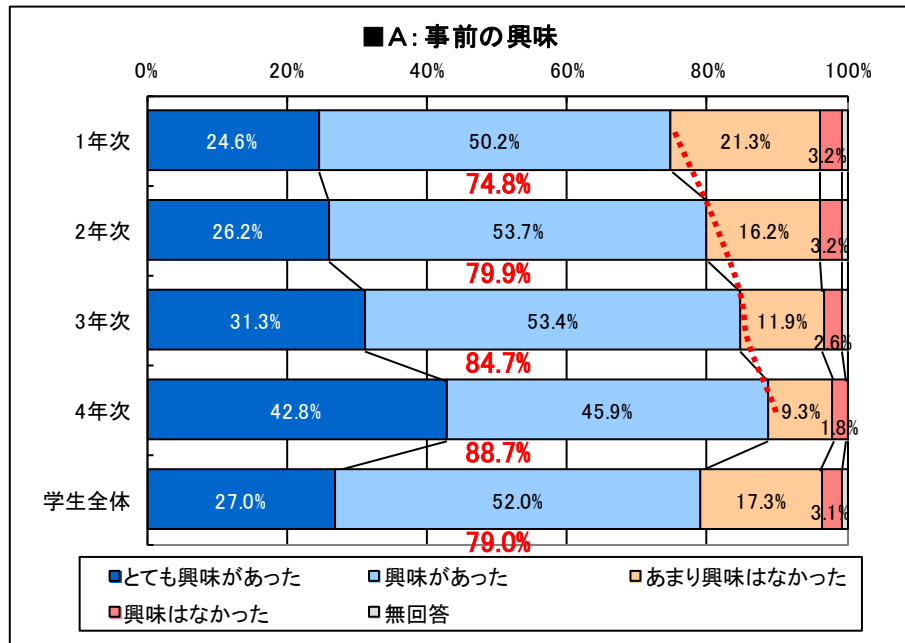
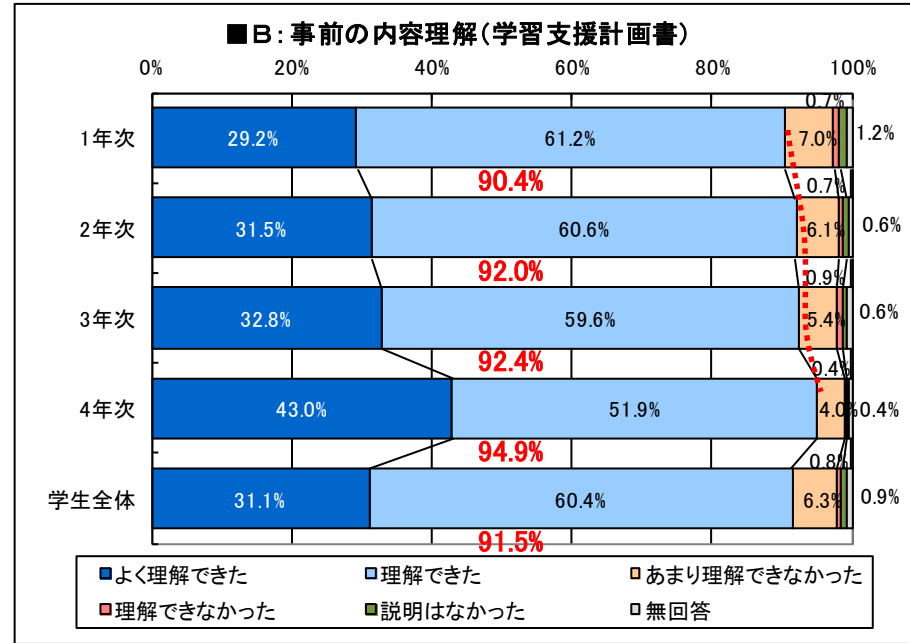
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24	2.8	0.2	0.6	-0.3	0.9	-0.2	0.3	0.8	-0.1	-0.3
H24からH25	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1
H25からH26	0.3	0.5	-0.1	0.2	0.0	-0.3	0.6	0.1	0.0	-0.2
H26からH27	-0.3	0.7	0.7	0.7	0.4	0.5	0.1	0.5	-0.1	0.1
H27からH28	0.9	1.0	1.4	1.7	1.4	0.5	1.1	1.1	1.0	0.6
H28からH29	1.3	1.1	0.8	0.0	0.5	0.4	0.5	0.8	0.3	0.3
H29からH30	-0.1	-0.1	0.6	-0.5	0.0	0.1	-0.1	-0.3	0.1	-0.1
H30からR1	0.6	1.3	0.4	0.9	0.6	0.4	0.7	1.6	0.7	0.7
R1からR2	-4.3	0.0	2.0	-4.2	0.7	-1.0	-0.6	-2.6	-1.7	-1.4

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

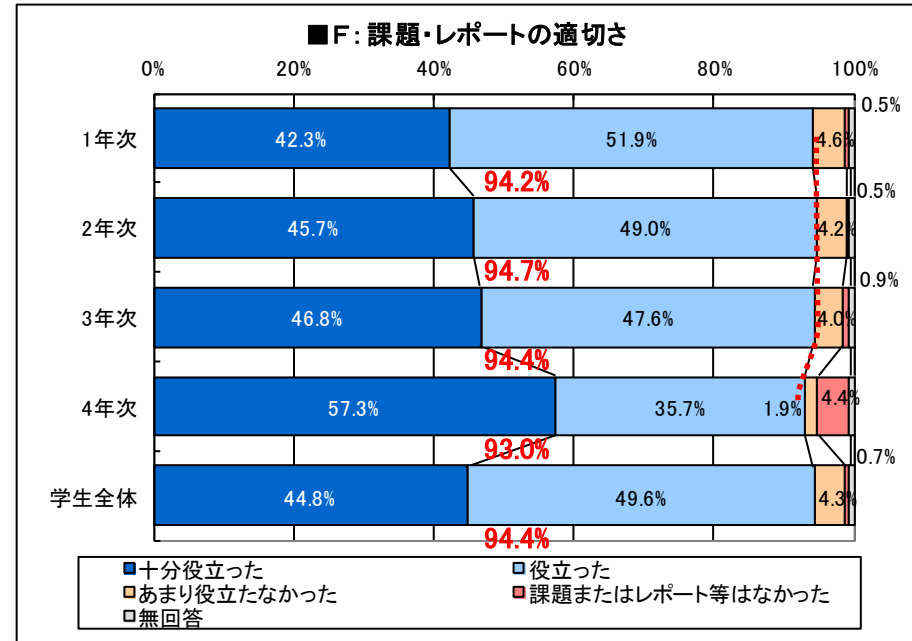
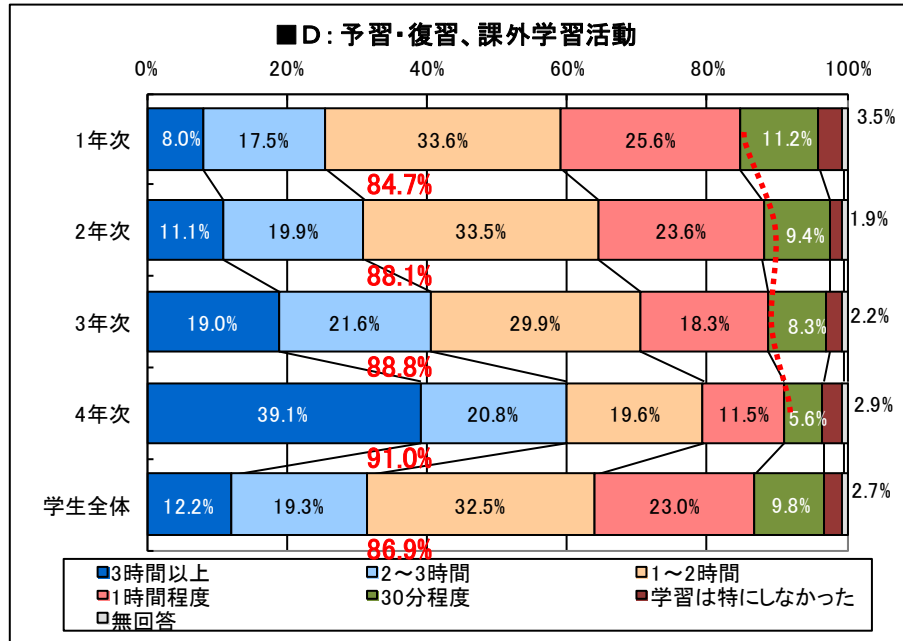
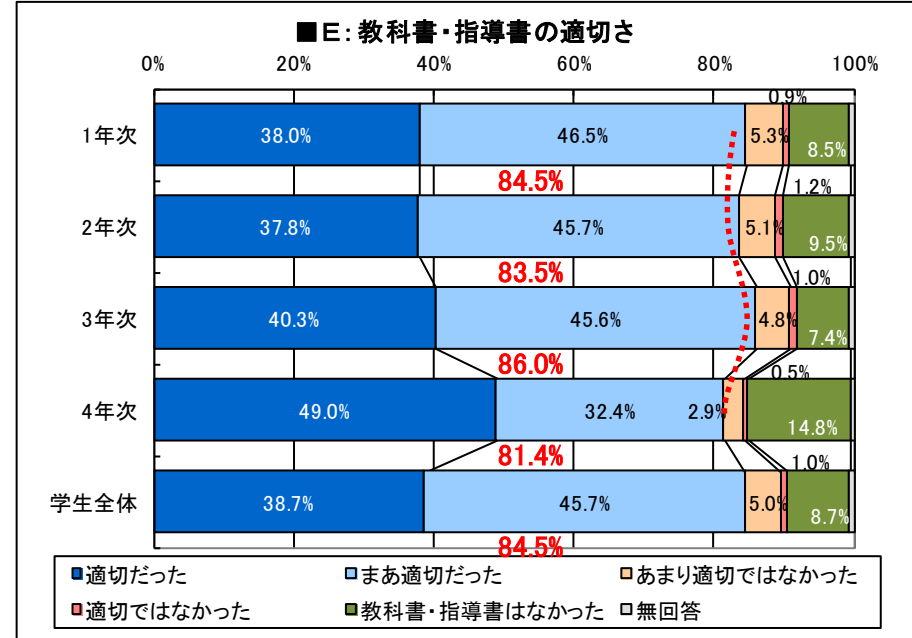


<3> 学年別の分析

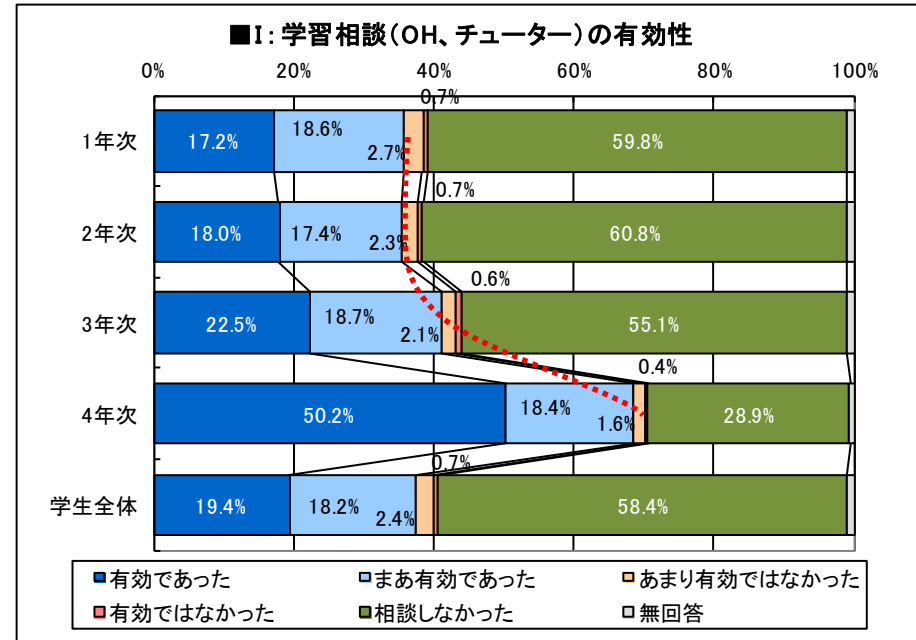
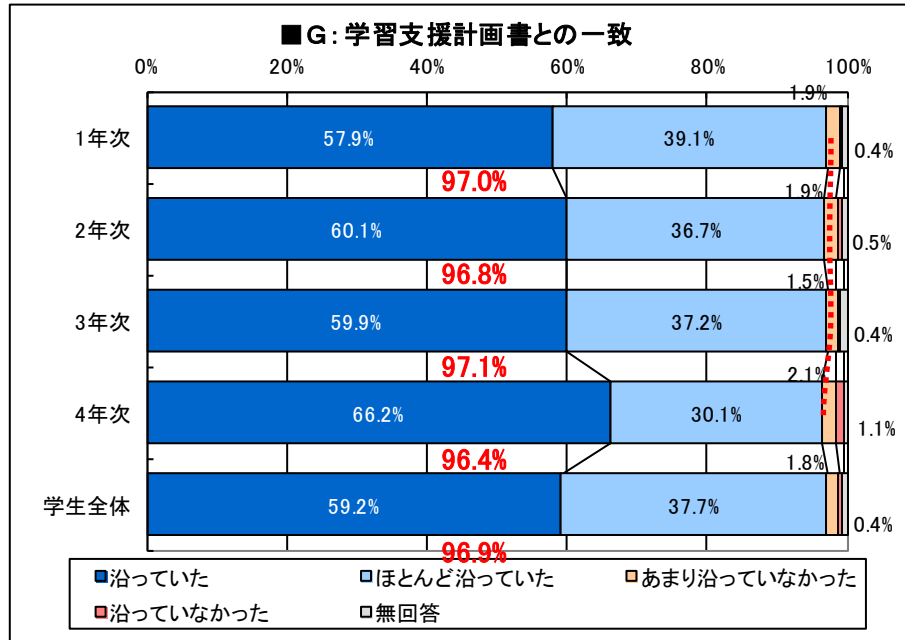
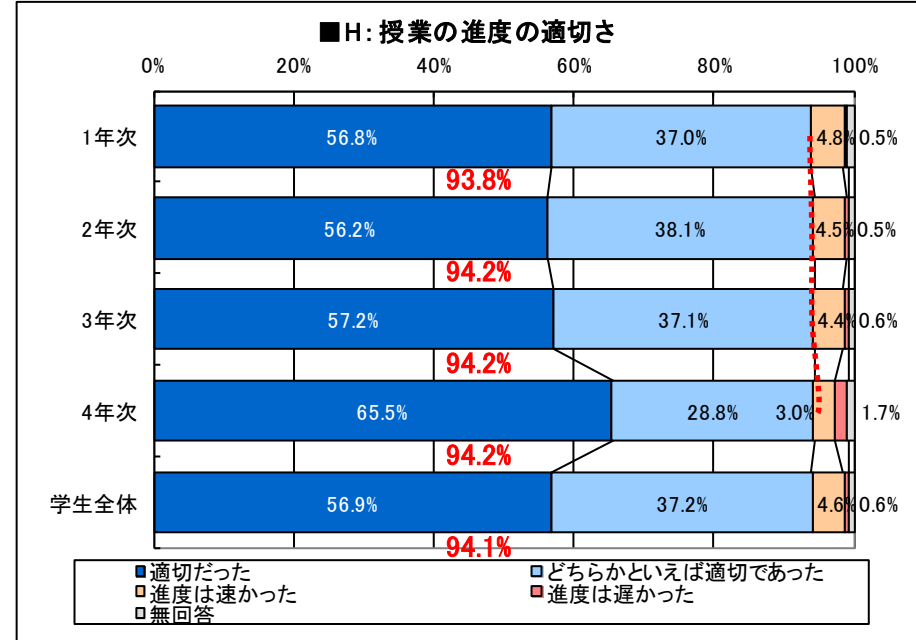
- 学部別の比較グラフでは、肯定的な意見の合計を赤文字で示している。
- 「A: 事前の興味」では、高学年ほど肯定的な意見が多くなっており、最も少ない「1年次」と最も多い「4年次」の差は13.9ポイントであった。特に「4年次」では「とても興味があった」が42.8%と目立って多い点も特徴的であった。
- 「B: 事前の内容理解(学習支援計画書)」でも高学年ほど肯定的な意見が多かった。ただし、「1年次」が90.4%、「4年次」が94.9%で、差は4.5ポイントと大きくなかった。そして、ここでも「4年次」は「よく理解できた」が43.0%と目立って多かった。
- 「C: 自分の熱意と努力」でも、肯定的な意見が最も多かったのは「4年次」の96.4%であり、「努力した」も68.0%と目立って多かった。次いで、「2年次」が95.6%、「3年次」が95.3%と続いており、最も少なかったのは「1年次」の94.8%であった。ここでも差は最大で1.6ポイントとわずかであった。



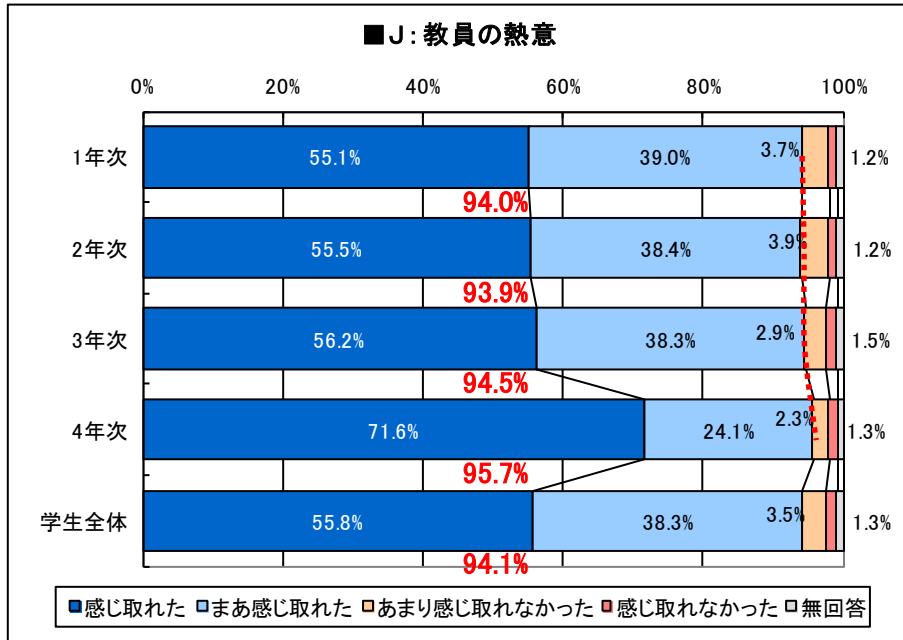
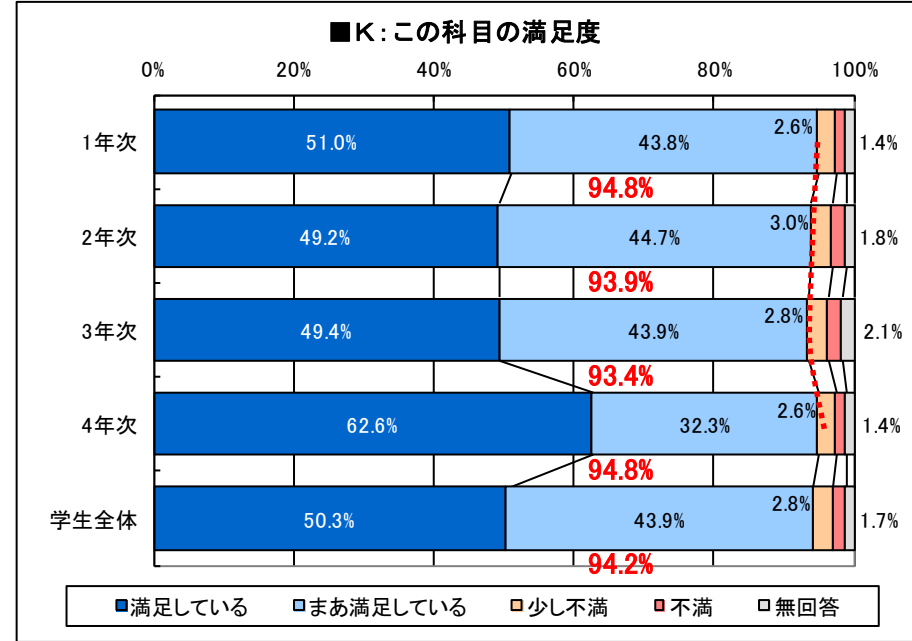
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計(赤太文字)を学年別に比較したところ、「4年次」が91.0%で最も多く、低学年ほど少なくなっており、最も少なかったのは「1年次」の84.7%であった。また、内訳を見ても低学年ほど勉強時間が短くなっており、「3時間以上」は「1年次」と「4年次」で31.1ポイントと非常に大きな差がついていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「3年次」の86.0%であった。次いで、「1年次」が84.5%、「2年次」が83.5%と続いており、最も少なかったのは「4年次」の81.4%であった。内訳を見ると、「4年次」は「適切だった」と「教科書・指導書はなかった」が多い点特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」で肯定的意見が最も多かったのは「2年次」の94.7%であり、次いで、「3年次」が94.4%、「1年次」が94.2%、「4年次」が93.0%となっており、ここでも学年との相関関係は見られなかった。また、内訳を見ると、「4年次」は「十分役立った」と「課題またはレポート等はなかった」が多い点特徴的であった。



- 「G:学習支援計画書との一致」で肯定的な意見が最も多かったのは「3年次」の97.1%であった。次いで、「1年次」が97.0%、「2年次」が96.8%、「4年次」が96.4%であり、学年との相関関係は見られず、学年間の差は最大でも0.7ポイントと小さかった。そして、「4年次」で「沿っていた」が多かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」の肯定的な意見は、「2年次」「3年次」「4年次」が94.2%で同じであった。そして、「1年次」が93.8%であり、学年間の差は0.4ポイントと非常に小さかった。そして、「4年次」で「適切だった」が多かった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」を見ると、「4年次」で「有効であった」が50.2%と非常に多く、「相談しなかった」が28.9%と非常に少ない点が特徴的であった。他の学年を含めてみると、「有効であった」は高学年ほど多くなる傾向が見られた。また、「相談しなかった」は「1年次」「2年次」が多く、低学年が学習相談を利用していない傾向が見られた。

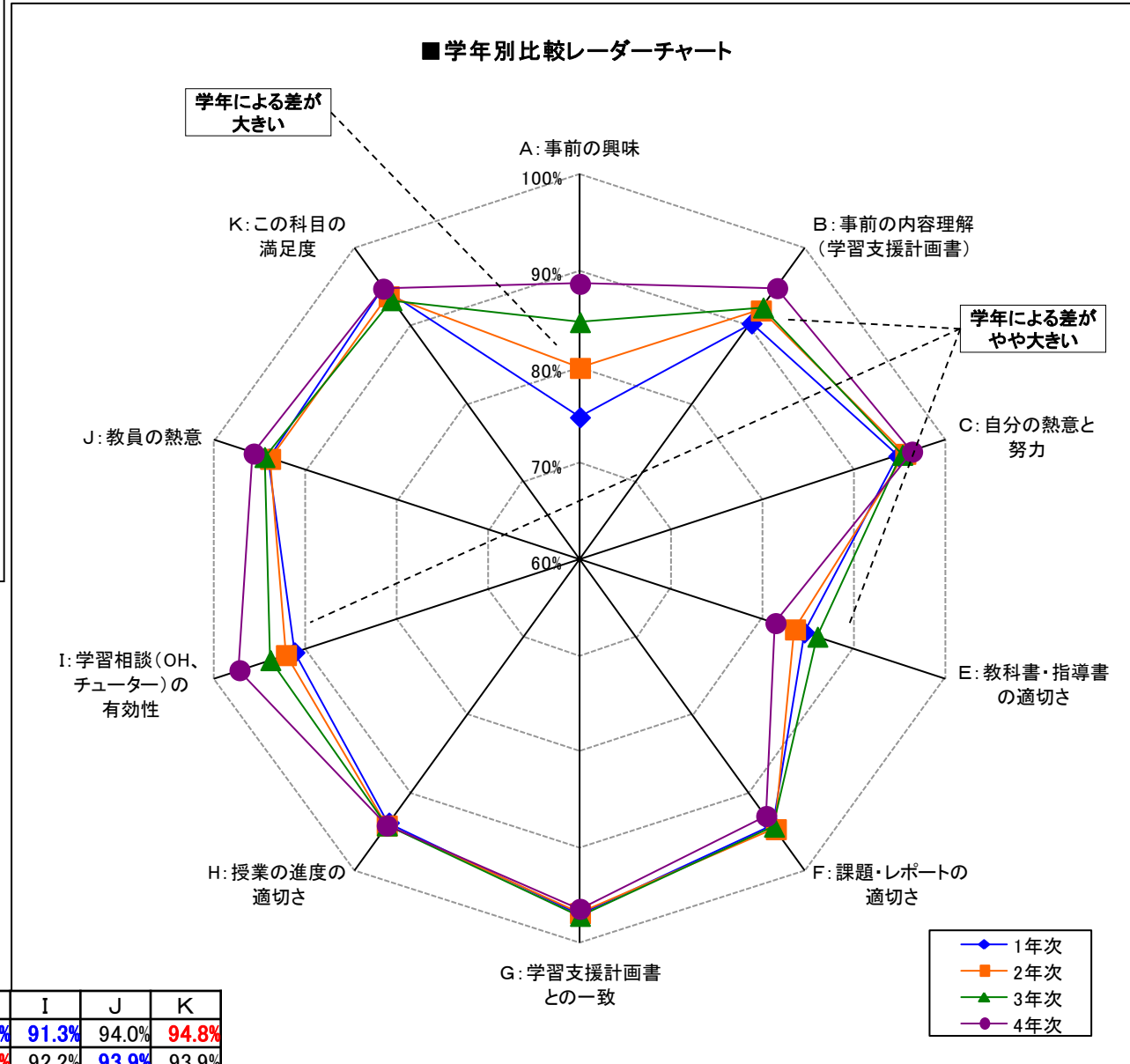


- 「J:教員の熱意」で肯定的な意見が最も多かったのは「4年次」の95.7%であった。また、「4年次」は「感じ取れた」が71.6%と非常に多く、他の学年と15ポイント程度の差がついており、教員の熱意を強く感じている様子がうかがえた。そして、「1年次」と「2年次」はほぼ同じ傾向であり、差は小さいものの低学年は教員の熱意を感じるという意見が少ない傾向が見られた。
- 「K:この科目の満足度」の肯定的な意見の合計は「1年次」と「4年次」が94.8%で同じであり、「2年次」が93.9%、「3年次」が93.4%となっており、差は最大でも1.4ポイントと小さく、学年による満足度の差は見られなかった。ただし、「満足している」だけを見ると、「4年次」が62.6%と目立って多く、他の学年とは10ポイント以上の差がついていた。



<3-2> 肯定的な意見の学年別比較

- 肯定的な意見の割合を学年別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 学年による差が目立っていたのは、「A: 事前の興味」であり、明らかに高学年ほど強い興味を持っている傾向が見られた。
- 上記ほどではないものの、やや差が見られたのは「B: 事前の内容理解(学習支援計画書)」 「E: 教科書・指導書の適切さ」 「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」であり、「B」と「I」の2項目は高学年ほど肯定的な意見が多い傾向が見られた。
- 肯定的な意見の合計で見ると、特定の学年が全体的に高かったり、低かったりという傾向は見られなかったが、ここまでに見た各項目の個別分析を見ると、「4年次」で強く肯定する意見が目立って多く、授業に関して充実している様子が見える。

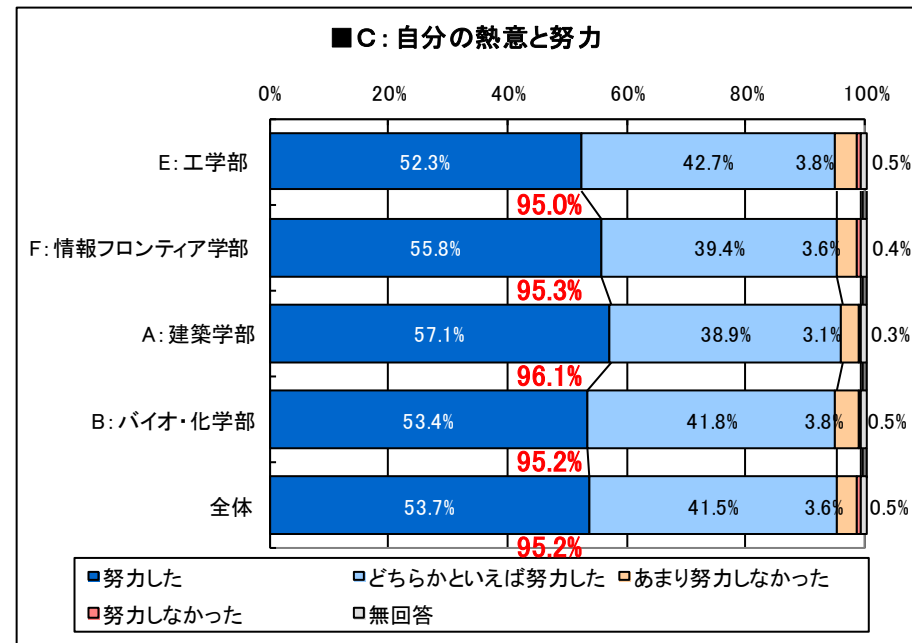
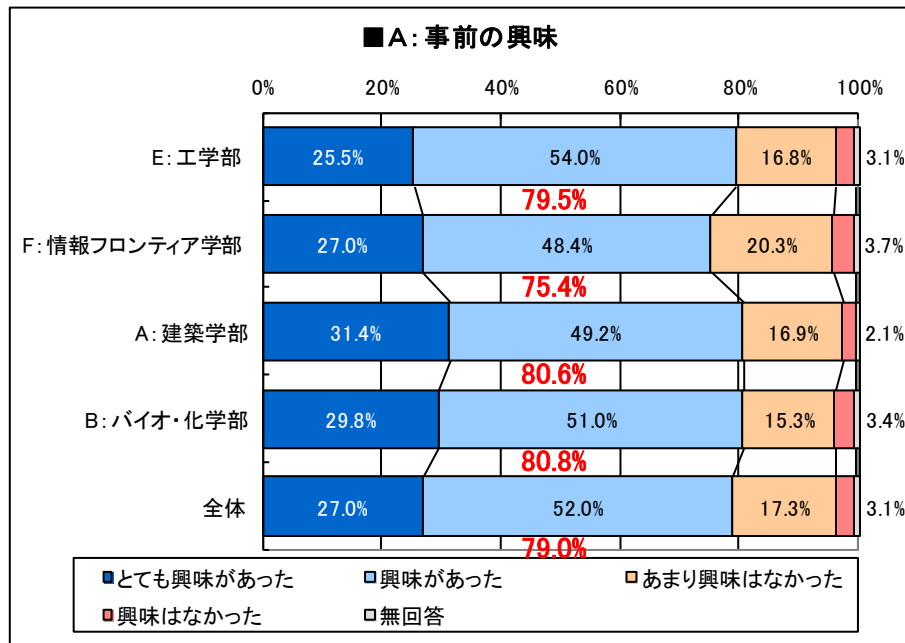
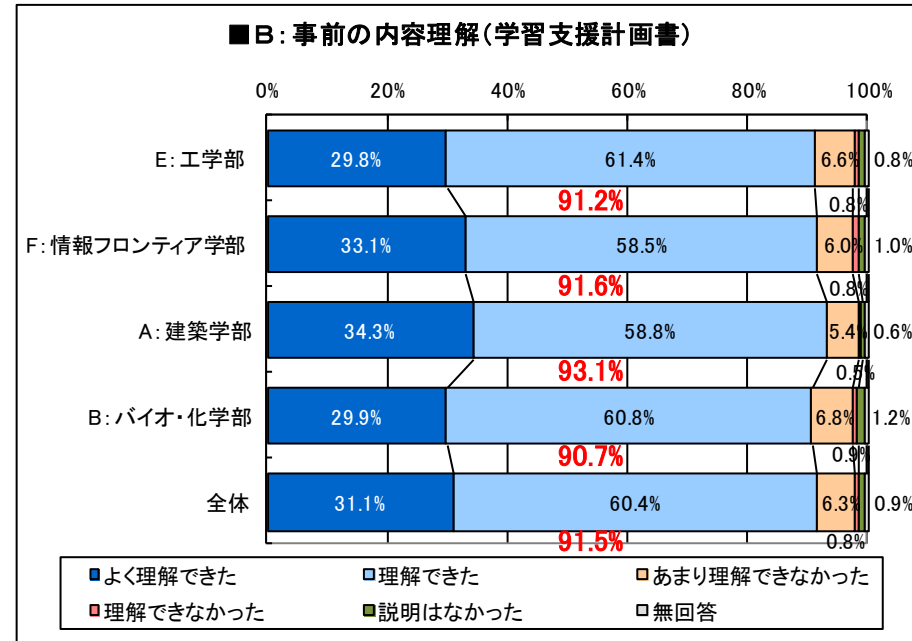


■ 学年別比較

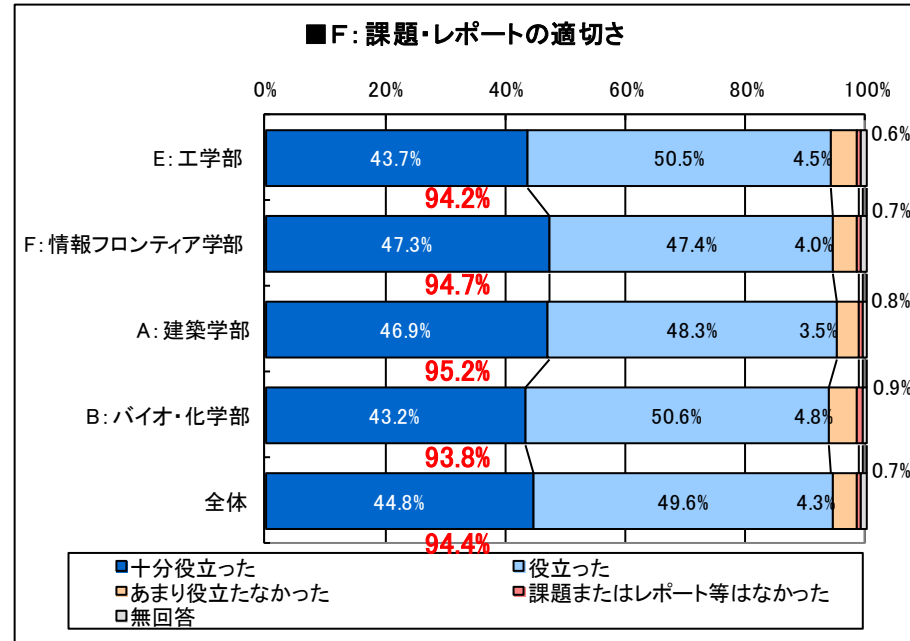
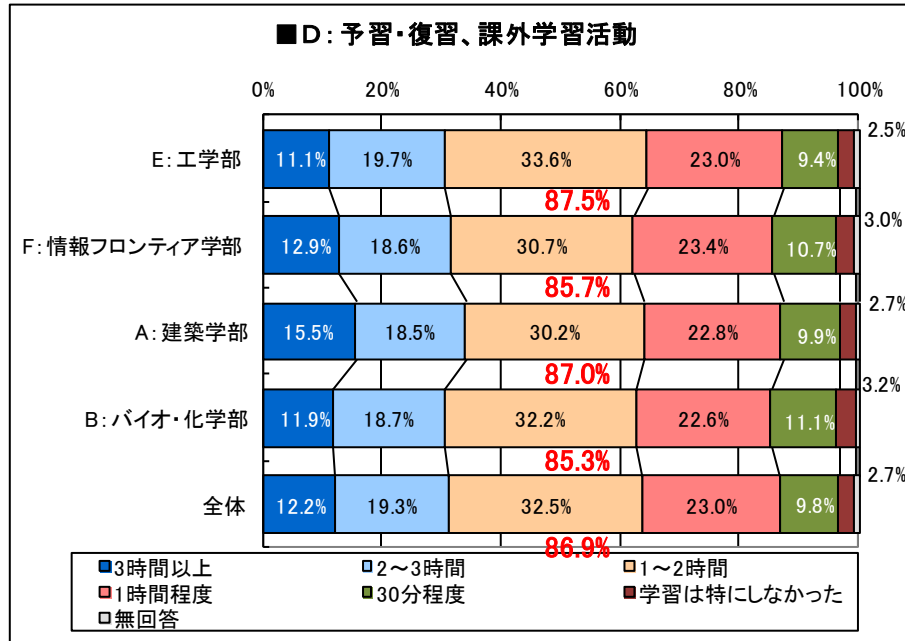
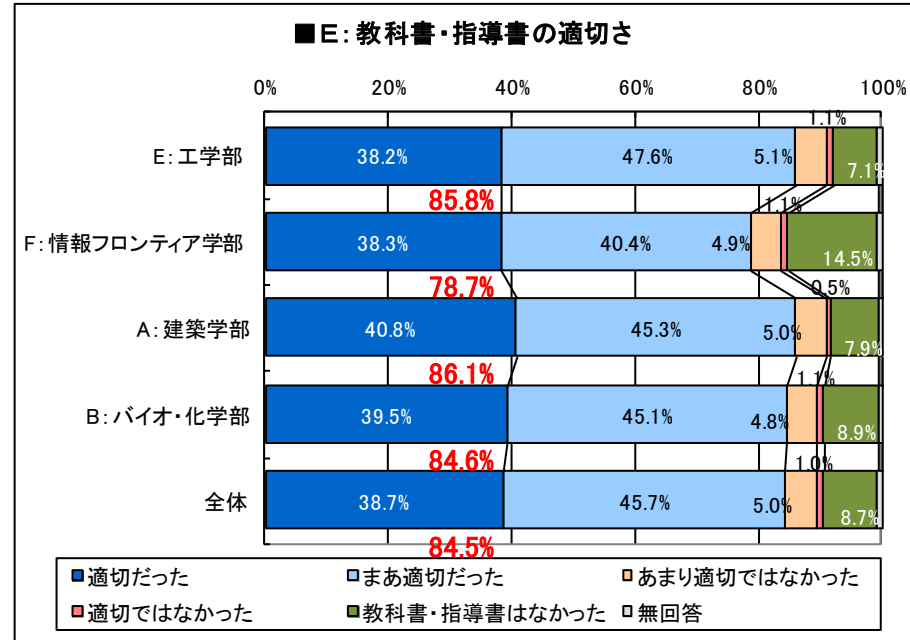
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次	74.8%	90.4%	94.8%	84.5%	94.2%	97.0%	93.8%	91.3%	94.0%	94.8%
2年次	79.9%	92.0%	95.6%	83.5%	94.7%	96.8%	94.2%	92.2%	93.9%	93.9%
3年次	84.7%	92.4%	95.3%	86.0%	94.4%	97.1%	94.2%	93.9%	94.5%	93.4%
4年次	88.7%	94.9%	96.4%	81.4%	93.0%	96.4%	94.2%	97.3%	95.7%	94.8%

<4> 学部・学科別の分析

- 学部別の比較グラフでは、肯定的な意見の合計を赤太文字で示している。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見が最も多かったのは「B:バイオ・化学部」の80.8%であり、次いで、「A:建築学部」が80.6%、「E:工学部」が79.5%と続いており、3学部の差は最大で1.3ポイントと非常に小さかった。そして、最も少なかったのは「F:情報フロンティア学部」の75.4%で、「B:バイオ・化学部」との差は5.4ポイントであった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の93.1%であり、次いで、「F:情報フロンティア学部」が91.6%、「E:工学部」が91.2%、「B:バイオ・化学部」が90.7%と続いており、差は最大でも2.4ポイントと小さかった。
- 「C:自分の熱意と努力」でも肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の96.1%で、次いで、「F:情報フロンティア学部」が95.3%、「B:バイオ・化学部」が95.2%、「E:工学部」が95.0%と続いており、いずれの学部でも95.0%以上が熱意を持って努力したと答えていた。また、「努力した」は全学部で5割を超えていた。

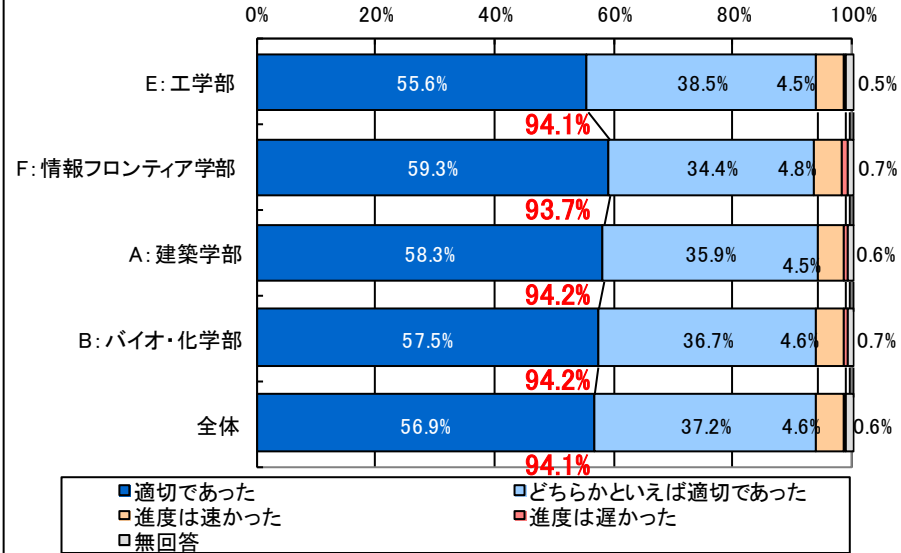


- 「D:予習・復習、課外学習活動」のグラフは「1時間程度」までの合計を赤太文字で示している。最も多かったのは「E:工学部」の87.5%であり、次いで、「A:建築学部」が87.0%、「F:情報フロンティア学部」が85.7%、「B:バイオ・化学部」が85.3%と続いており、学部による差は最大でも2.2ポイントと小さかった。また、内訳を見ると、「A:建築学部」で「3時間以上」が15.5%とやや多かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の86.1%であった。次いで、「E:工学部」が85.8%、「B:バイオ・化学部」が84.6%と続いていた。最も少なかった「F:情報フロンティア学部」は78.7%と低さが目立っており、「教科書・指導書はなかった」が14.5%と多い点も特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の95.2%であり、「F:情報フロンティア学部」が94.7%、「E:工学部」が94.2%、「B:バイオ・化学部」が93.8%となっていた。差は最大でも1.4ポイントと小さく、内訳を見ても学部による差は小さかった。

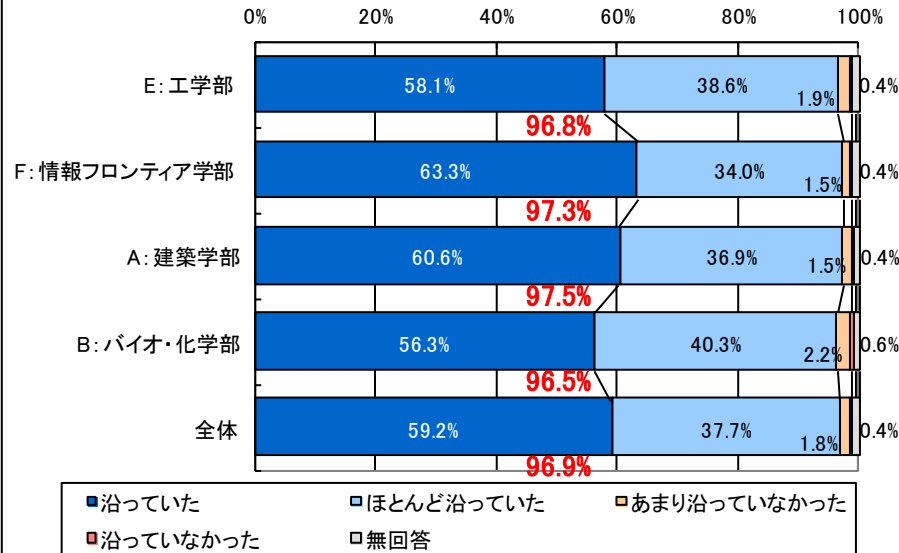


- 「G:学習支援計画書との一致」は全学部で肯定的な意見が96.0%を超えており、非常に高い評価で、差は最大でも1.0ポイントと学部による差は小さかった。内訳を見ると、「沿っていた」は「F:情報フロンティア学部」が63.3%とやや多かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」では全学部で肯定的な意見が94.0%前後で、学部間の差は最大で0.5ポイントであり、ほとんど差はなかった。内訳を見ると、「適切であった」は「F:情報フロンティア学部」が59.3%とやや多かった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「F:情報フロンティア学部」が62.8%で最も多く、最も少ない「A:建築学部」の52.3%との差は10.5ポイントであった。そして、利用者の評価を見ると、「A:建築学部」では「有効であった」が22.9%と多く、高い評価となっていた。

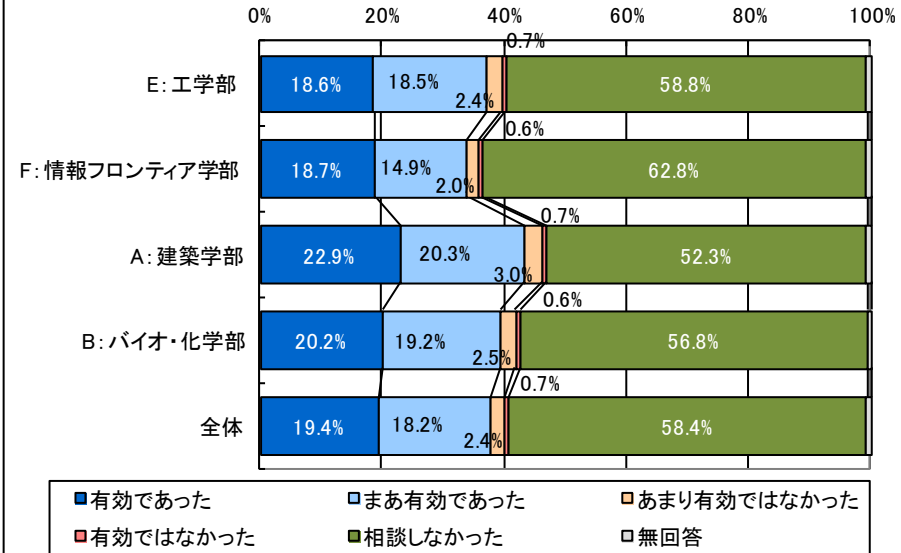
■H: 授業の進度の適切さ



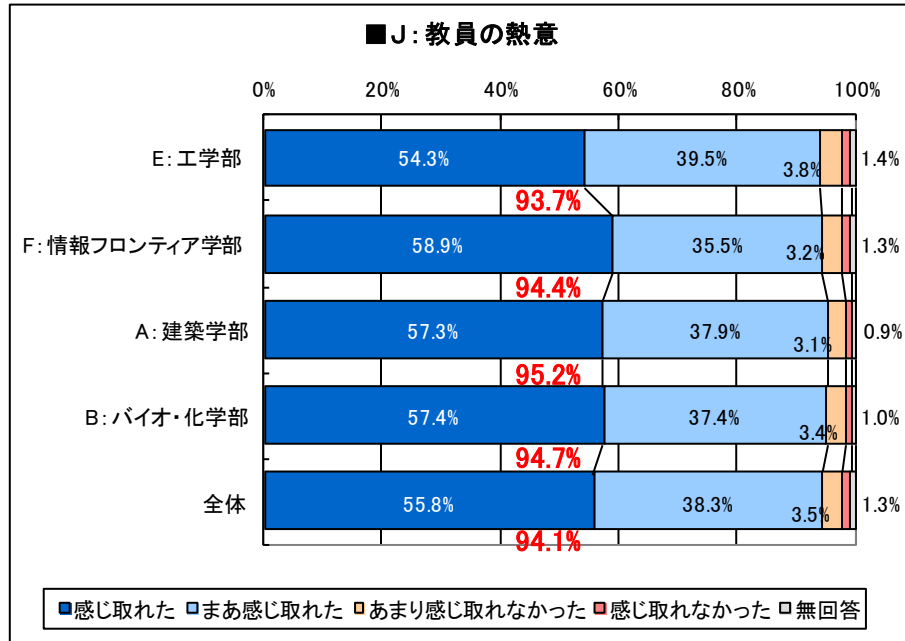
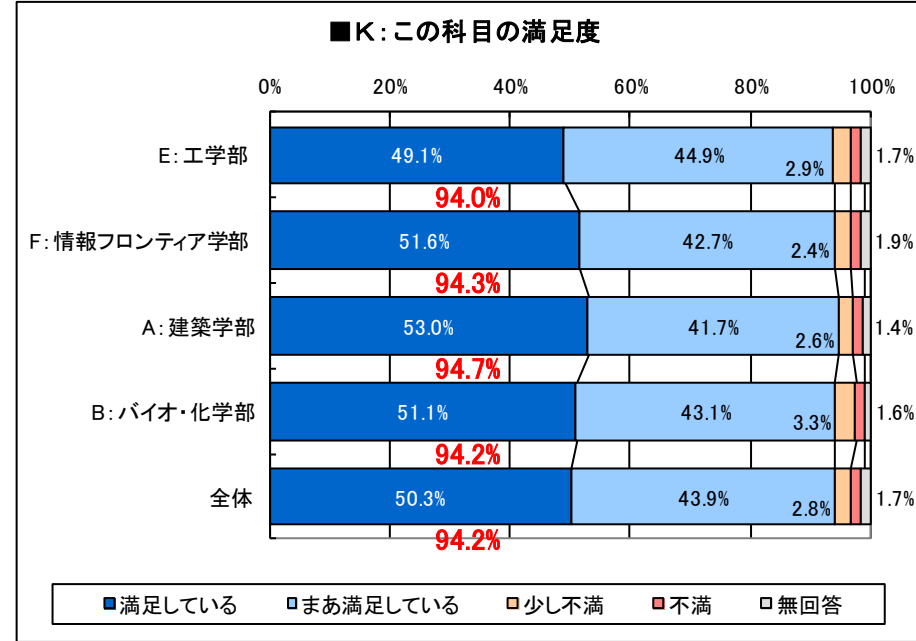
■G: 学習支援計画書との一致



■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



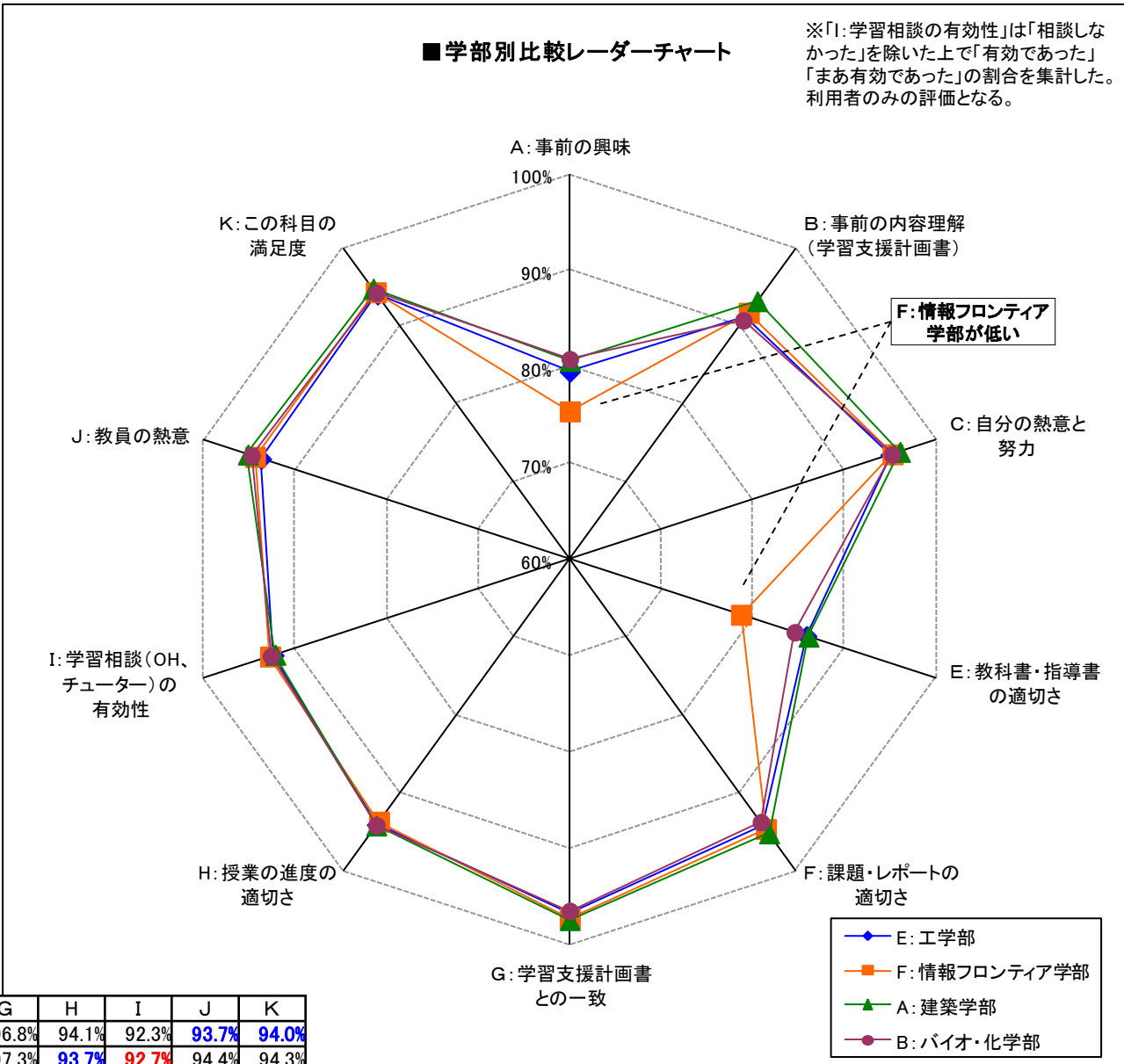
- 「J:教員の熱意」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の95.2%であり、次いで、「B:バイオ・化学部」が94.7%、「F:情報フロンティア学部」が94.4%、「E:工学部」が93.7%と続いており、いずれも93.0%以上が肯定的な意見で、学部間の差は最大でも1.5ポイントと小さかった。また、「感じ取れた」は「F:情報フロンティア学部」が58.9%と多かったが、他学部でもすべて5割を超えており、いずれの学部も教員の熱意を強く感じているようであった。
- 「K:この科目の満足度」は全学部で肯定的な意見が94%台であり、最も多かったのは「A:建築学部」の94.7%で、最も少なかった「E:工学部」の94.0%との差はほとんどなく、いずれの学部も高い満足度であった。また、内訳を見ても「満足している」は「A:建築学部」が53.0%と最も多く、最も少ない「E:工学部」との差は3.9ポイントであった。



- 肯定的な意見の割合を学部別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 全体的に学部による差はそれほど大きくなかった。表の数値を詳細に見ると、「A: 建築学部」が8項目で最も高かったが、ほとんどの項目で差はわずかであった。
- 例外は「A: 事前の興味」と「E: 教科書・指導書の適切さ」であり、この2項目では「F: 情報フロンティア学部」の低さが目立っていた。

■ 学部別比較レーダーチャート

※「I: 学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	79.5%	91.2%	95.0%	85.8%	94.2%	96.8%	94.1%	92.3%	93.7%	94.0%
F: 情報フロンティア学部	75.4%	91.6%	95.3%	78.7%	94.7%	97.3%	93.7%	92.7%	94.4%	94.3%
A: 建築学部	80.6%	93.1%	96.1%	86.1%	95.2%	97.5%	94.2%	92.2%	95.2%	94.7%
B: バイオ・化学部	80.8%	90.7%	95.2%	84.6%	93.8%	96.5%	94.2%	92.6%	94.7%	94.2%

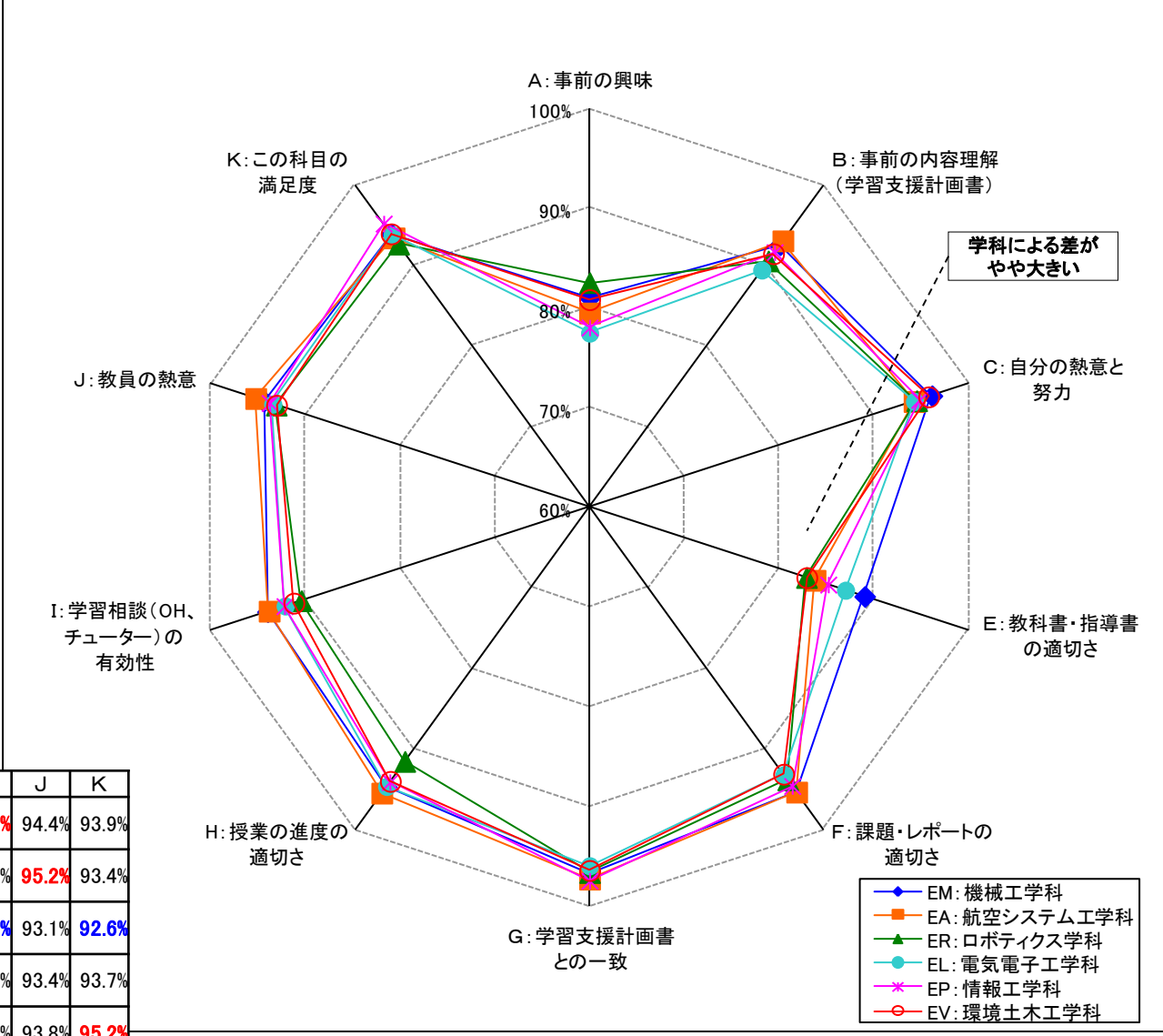
Legend for the radar chart:

- ◆ E: 工学部
- F: 情報フロンティア学部
- ▲ A: 建築学部
- B: バイオ・化学部

<4-3> 肯定的な意見の学科別比較

- 学科数が多いため、学科別集計は学部毎に分けて比較をした。
- 「工学部」の各学科の特徴を見ると、全体的に差は大きくなく、特定の学科が高かったり、低かったりという特徴は見られなかった。
- 表の数値を詳細に見ると、「EA:航空システム工学科」が4項目で最も高く、「EM:機械工学科」が3項目、「EP:情報工学科」が2項目、「ER:ロボティクス学科」が1項目で最も高かった。
- 一方、低いものを見ると、「ER:ロボティクス学科」が4項目、「EL:電気電子工学科」と「EV:環境土木工学科」が3項目、「EA:航空システム工学科」が1項目で最も低かった。ただし、いずれも差は小さく、目立つものではなかった。
- 項目別に見ると、「E:教科書・指導書の適切さ」は学科による差がやや大きく、「EM:機械工学科」と「EL:電気電子工学科」の評価が高めであった。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

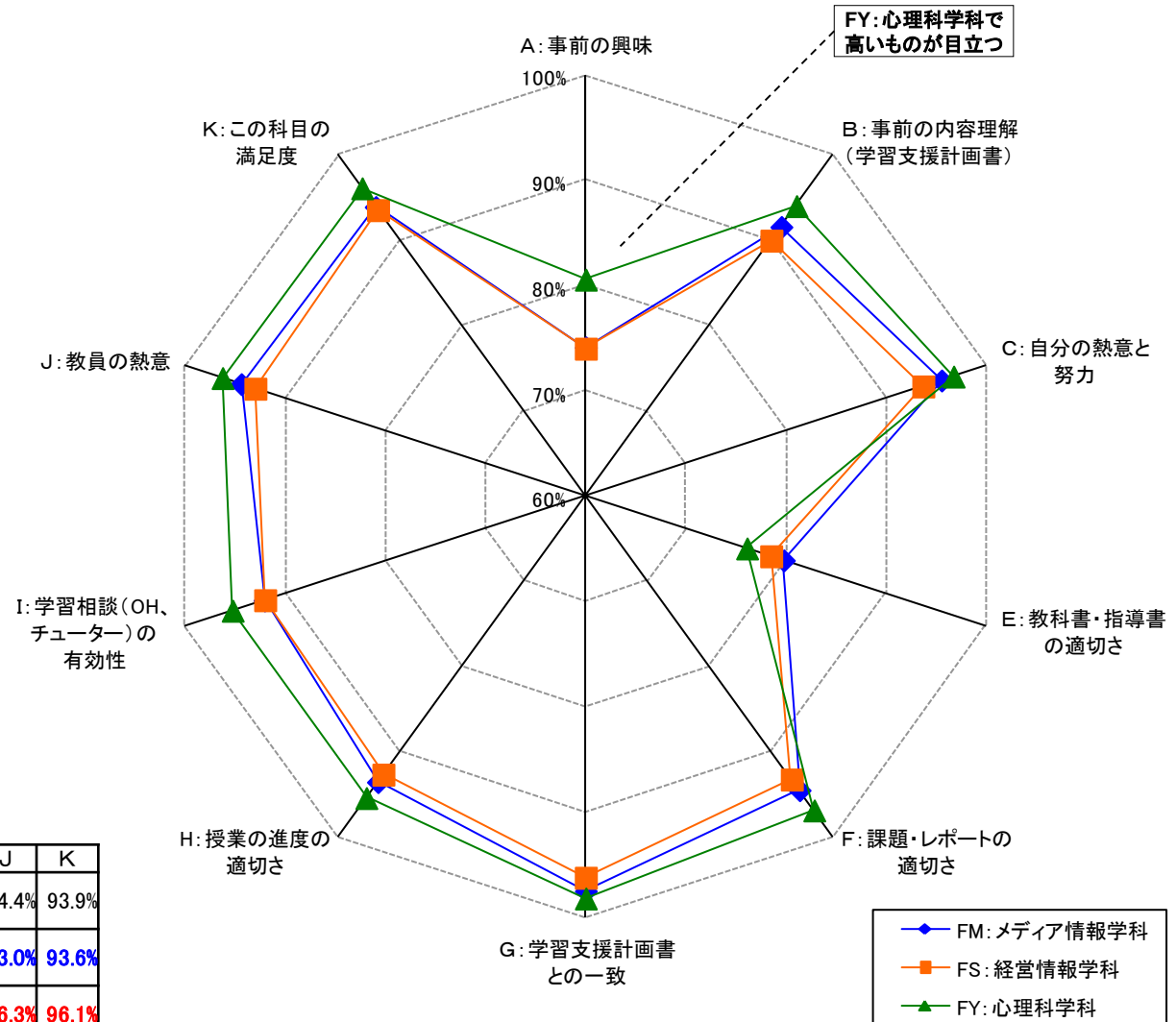


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	81.0%	92.5%	96.1%	89.0%	95.3%	96.8%	94.7%	94.0%	94.4%	93.9%
EA: 航空システム工学科	79.5%	93.0%	94.2%	83.8%	95.4%	97.3%	95.5%	93.8%	95.2%	93.4%
ER: ロボティクス学科	82.5%	90.5%	94.5%	82.9%	93.8%	96.7%	91.6%	90.4%	93.1%	92.6%
EL: 電気電子工学科	77.5%	89.4%	94.3%	87.0%	93.2%	96.0%	94.7%	92.1%	93.4%	93.7%
EP: 情報工学科	78.0%	91.6%	94.8%	85.2%	94.6%	97.5%	94.1%	92.2%	93.8%	95.2%
EV: 環境土木工学科	80.8%	91.4%	95.8%	82.9%	93.1%	96.5%	94.0%	91.2%	93.0%	93.9%

- 「情報フロンティア学部」では1項目を除いて「FY:心理科学科」の評価が最も高く、「A:事前の興味」など、他の学科との差もやや大きかった。
- 一方、「FS:経営情報学科」は10項目中の9項目で最も低かった。ただし、「FM:メディア情報学科」との差はそれほど大きくなく、目立って低いものは見られなかった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

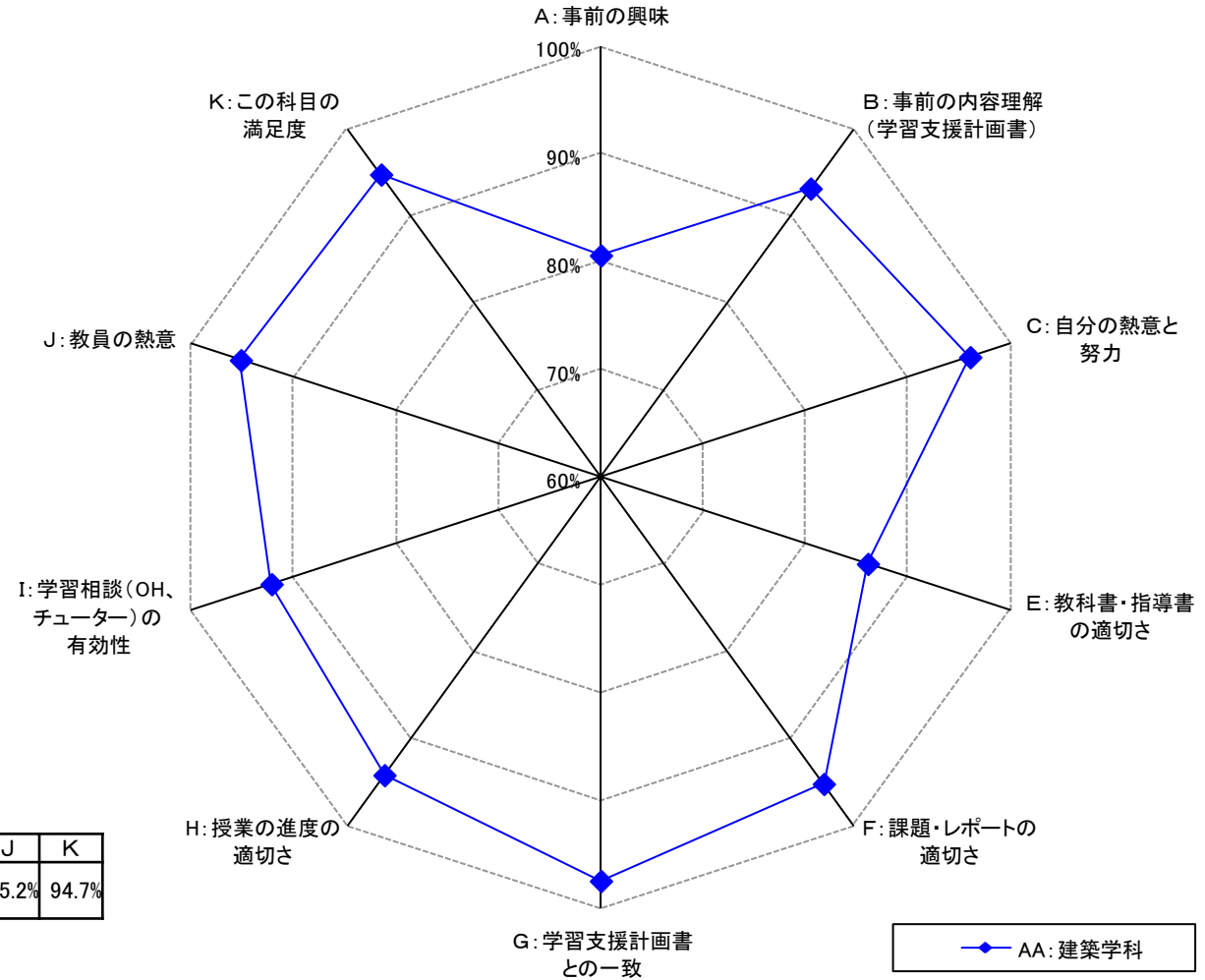


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	74.1%	91.6%	95.5%	79.8%	94.5%	97.5%	93.6%	92.1%	94.4%	93.9%
FS:経営情報学科	80.6%	94.0%	93.7%	78.5%	93.3%	96.3%	92.7%	92.0%	93.0%	93.6%
FY:心理科学科	96.7%	96.7%	96.7%	76.1%	96.9%	98.2%	95.5%	95.3%	96.3%	96.1%

- 「建築学部」は「AA:建築学科」だけなので、比較は行っていない。

■ 建築学部 学科別比較レーダーチャート

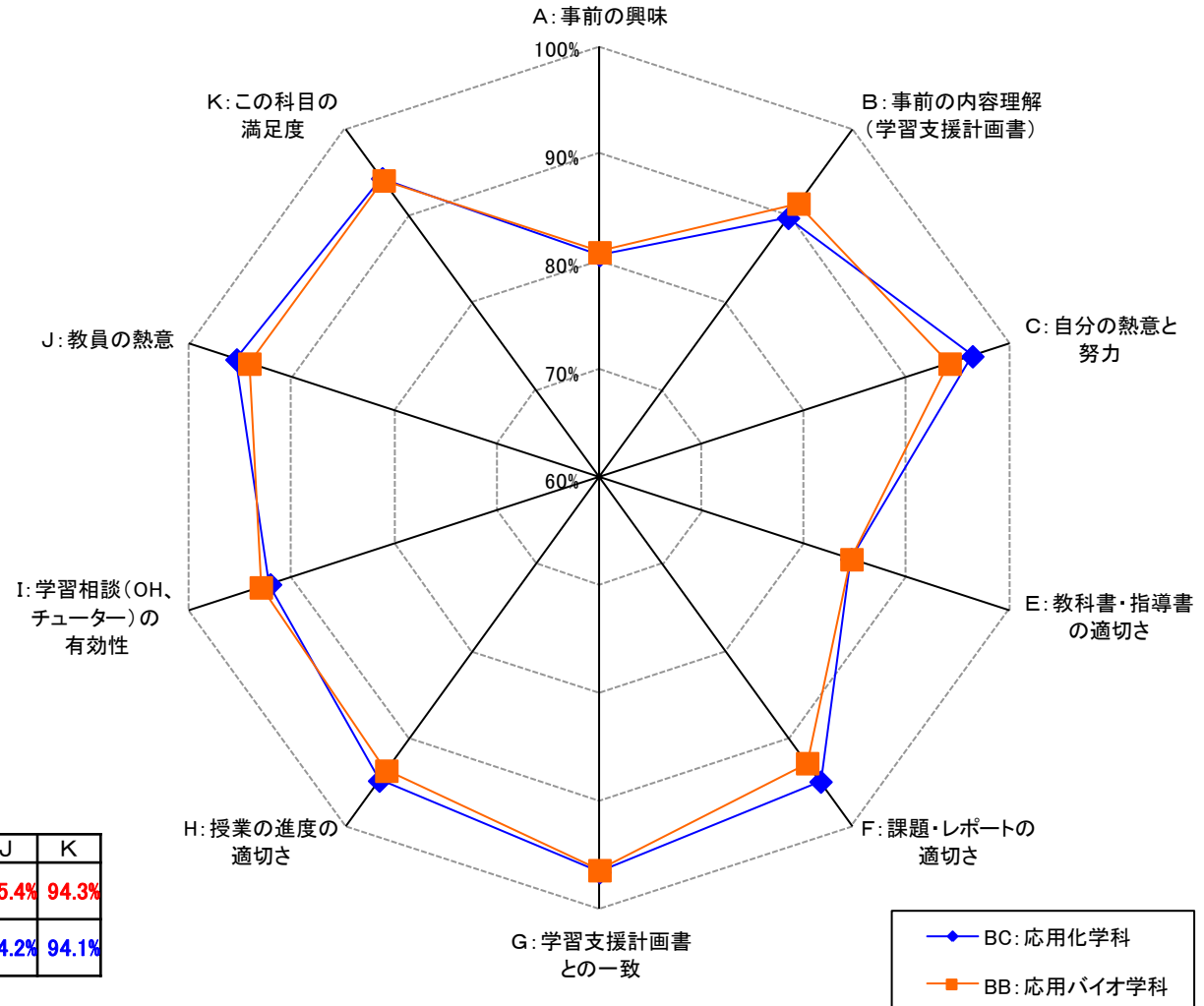


■ 建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
AA: 建築学科	80.6%	93.1%	96.1%	86.1%	95.2%	97.5%	94.2%	92.2%	95.2%	94.7%

- 「バイオ・化学部」は2学科の比較になるが、全体的に差は非常に小さく、目立った特徴は見られなかった。
- 表の数値を詳細に見ると、「BC:応用化学科」は6項目で高く、「BB:応用バイオ学科」は3項目で高かった。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



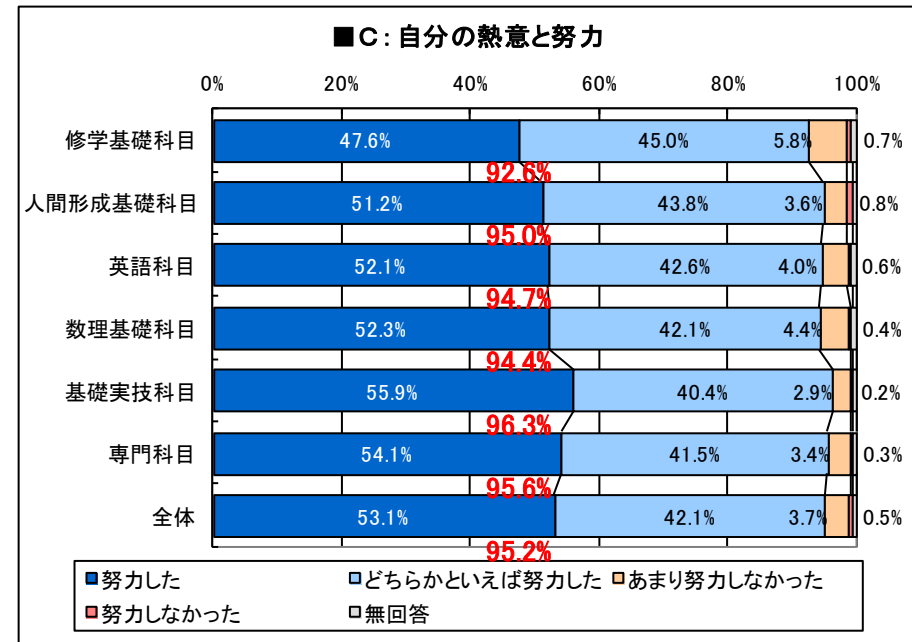
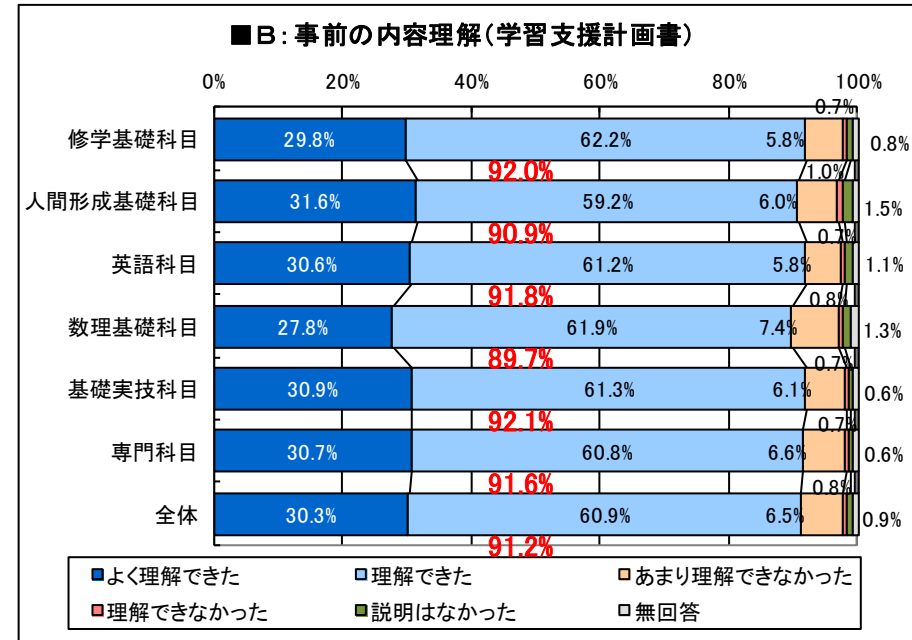
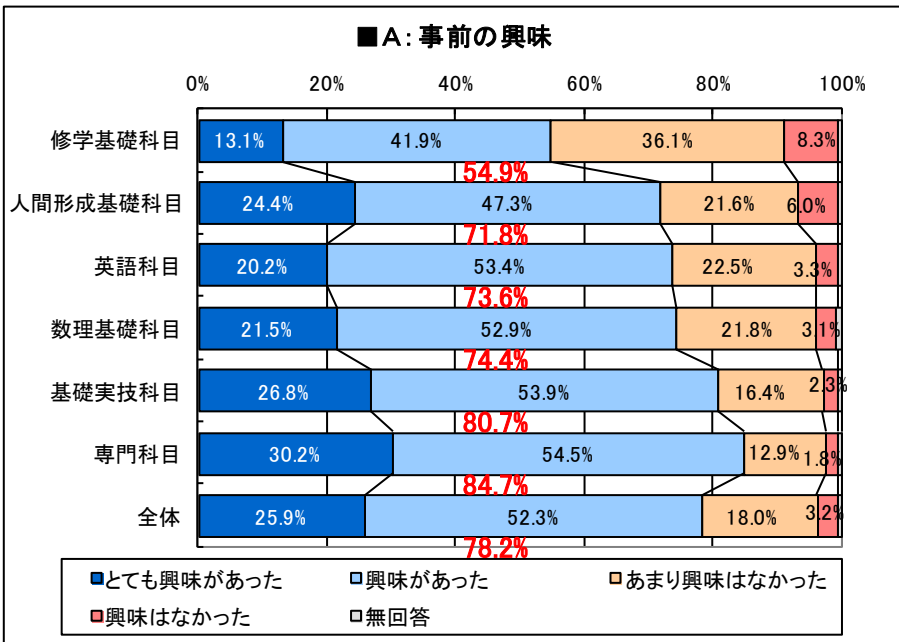
■ バイオ・化学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC: 応用化学科	80.6%	89.8%	96.4%	84.6%	94.9%	96.6%	94.8%	92.1%	95.4%	94.3%
BB: 応用バイオ学科	80.9%	91.4%	94.2%	84.6%	92.8%	96.5%	93.7%	93.0%	94.2%	94.1%

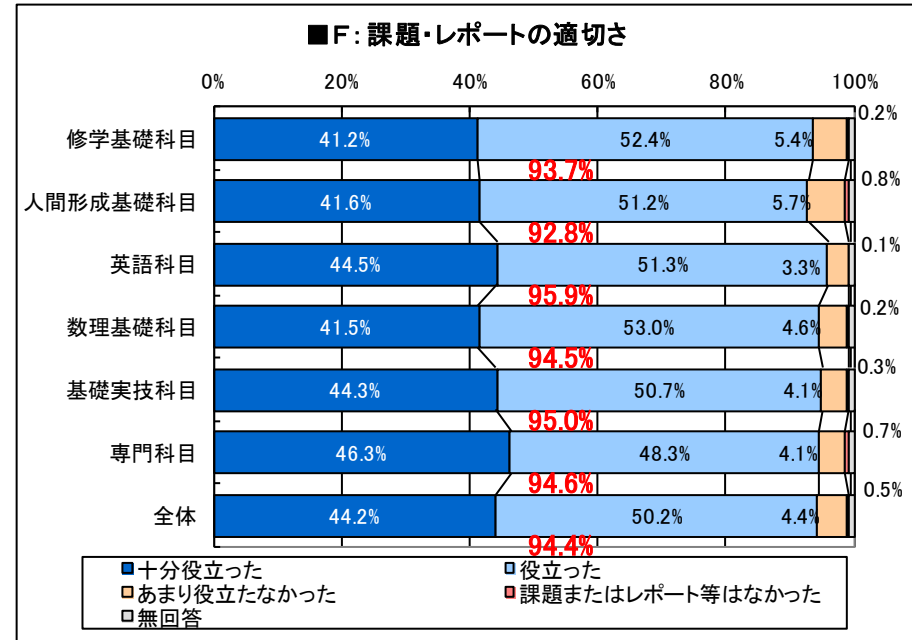
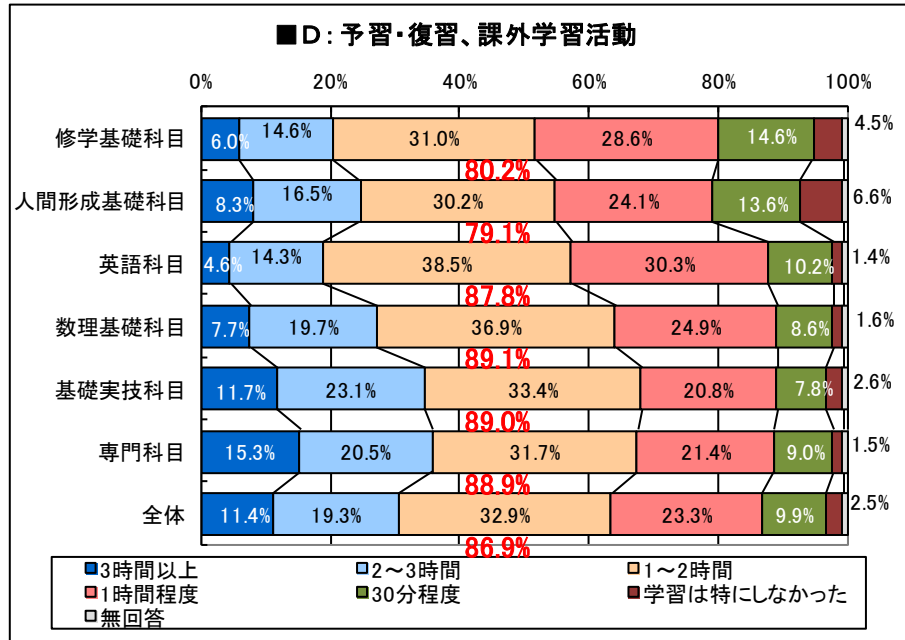
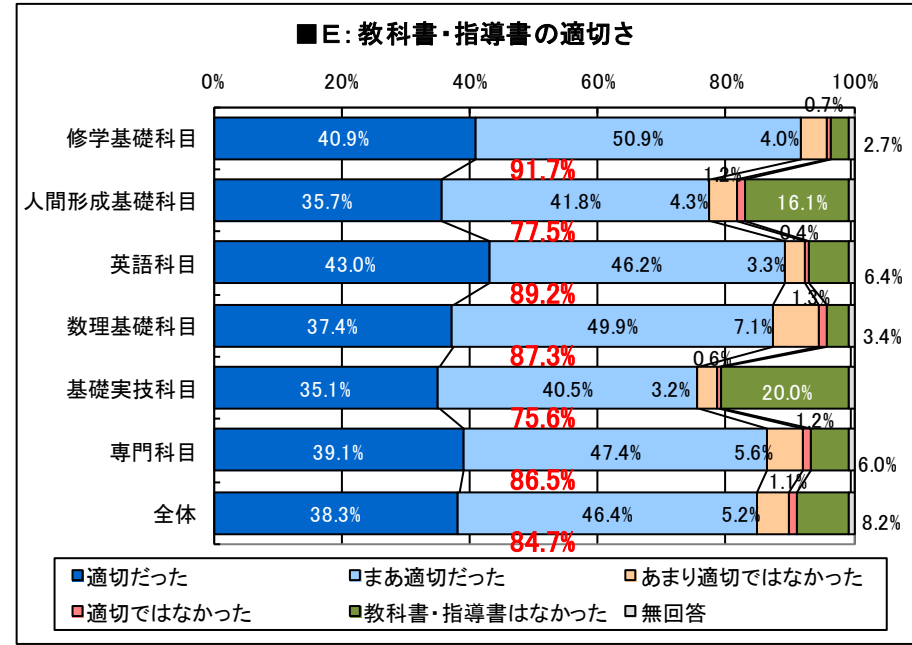
<5>科目区分別の分析

<5-1>科目区分別の比較

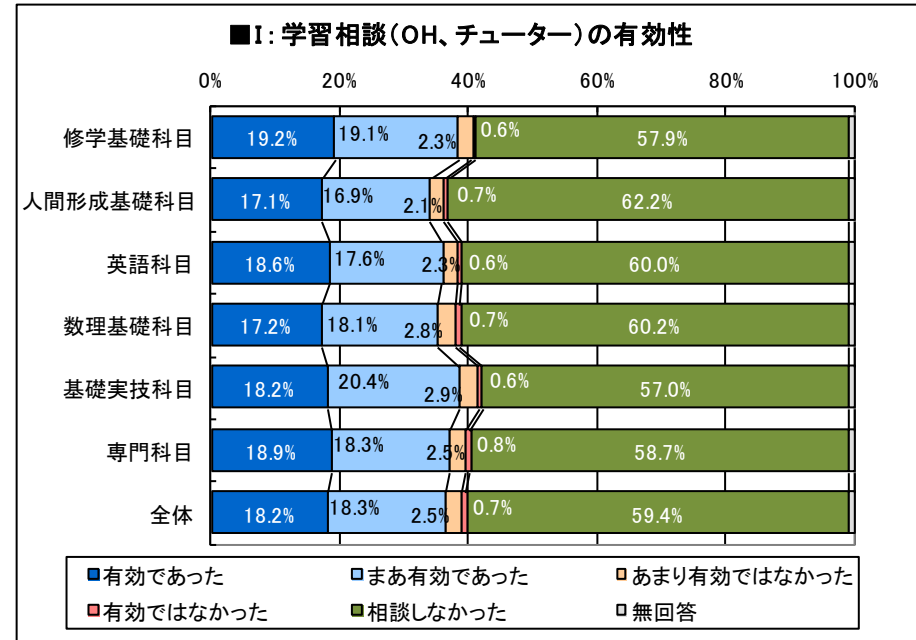
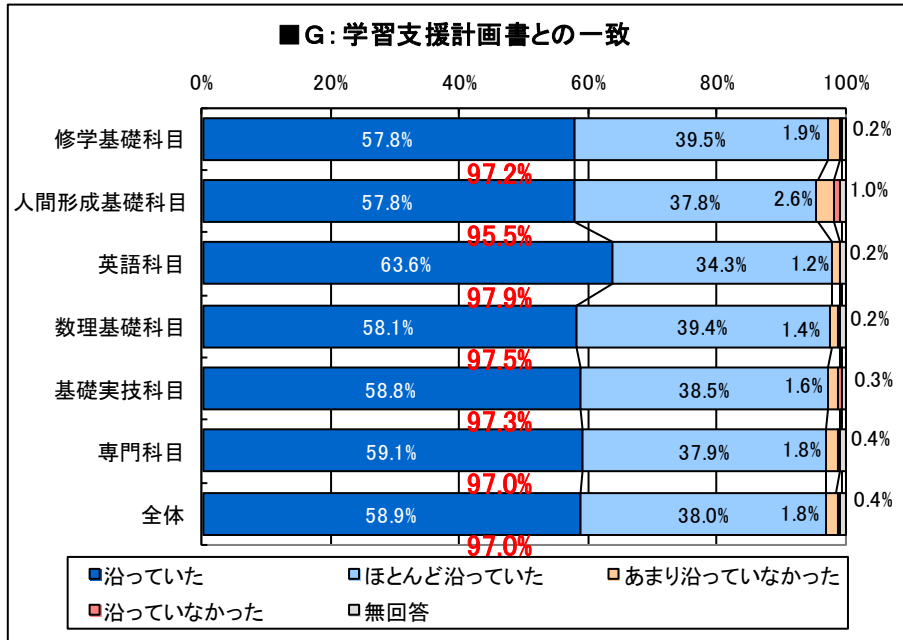
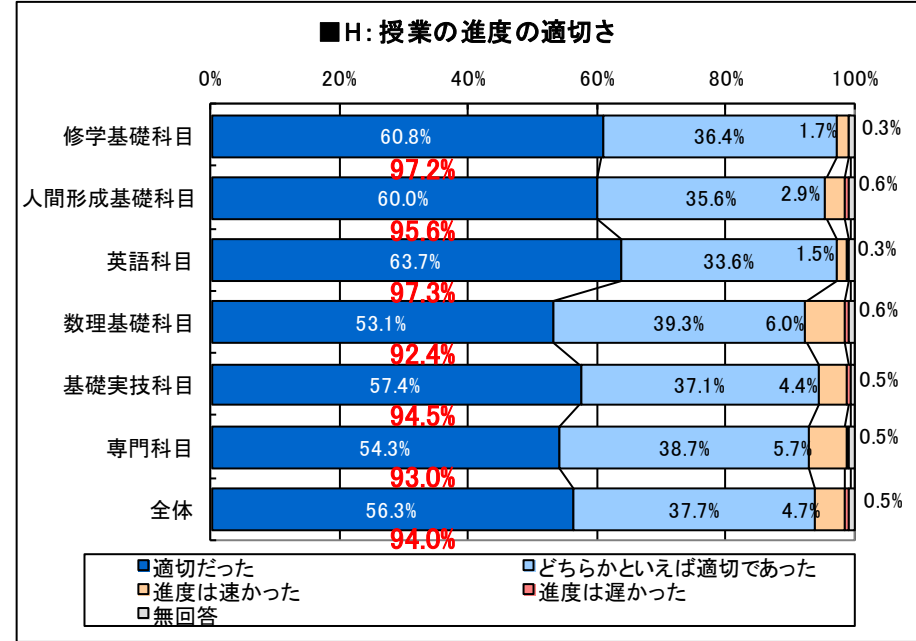
- 授業を6つの科目区分で分けて、その評価を比較した。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見が最も多かったのは「専門科目」の84.7%であり、「基礎実技科目」が80.7%、「数理基礎科目」が74.4%で続いていた。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の54.9%であり、他の科目区分と比べると低さが目立っていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」では、1つの科目区分を除く5科目で肯定的な意見が9割以上を占めていた。ただし、最も少ない「数理基礎科目」でも肯定的な意見は89.7%であり、決して低い評価ではなかった。また、科目間の差は最大でも2.4ポイントと大きくはなかった。
- 「C:自分の熱意と努力」ではすべての科目区分で肯定的な意見が9割以上を占めており、熱意と努力を持って授業に取り組んでいるようであった。最も多かったのは「基礎実技科目」の96.3%であり、「専門科目」が95.6%、「人間形成基礎科目」が95.0%で続いていた。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の92.6%であり、「基礎実技科目」との差は3.7ポイントと大きくはなかった。



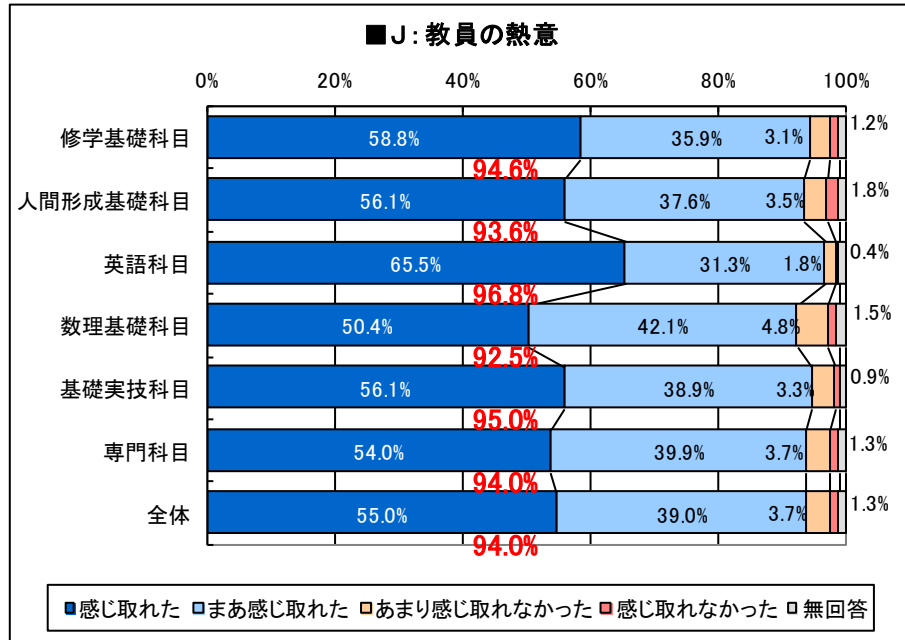
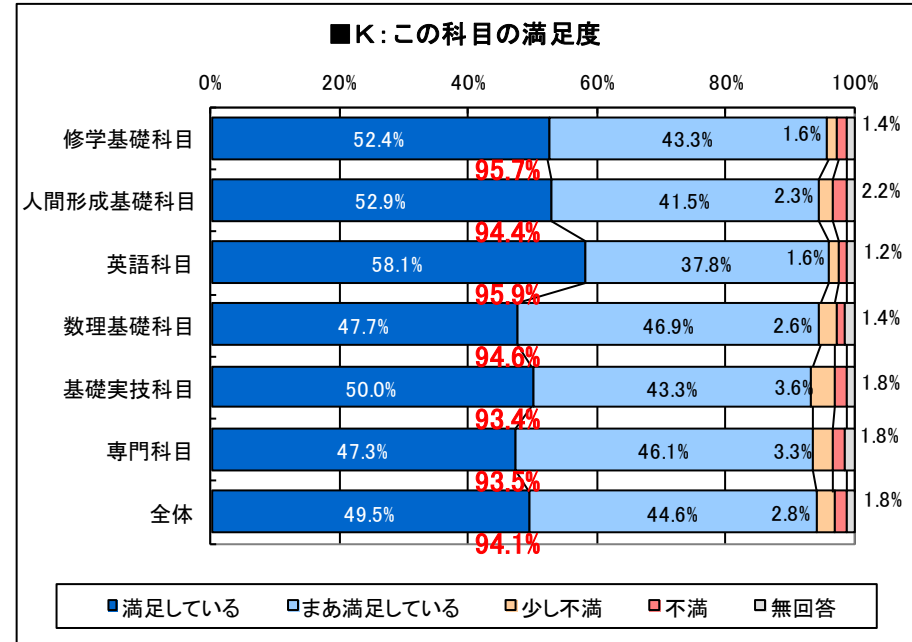
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で、「1時間程度」までの合計が最も多かったのは「数理基礎科目」の89.1%であったが、「基礎実技科目」が89.0%、「専門科目」が88.9%、「英語科目」が87.8%と続いており、この4つの科目区分の差は少なかった。ただし、内訳を見ると「3時間以上」は「専門科目」「基礎実技科目」で多く、「英語科目」で少ないという差が見られた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「修学基礎科目」の91.7%であった。次いで、「英語科目」が89.2%、「数理基礎科目」が87.3%、「専門科目」が86.5%と続いており、この4つの科目区分の差は少なかった。一方、少なかったのは「基礎実技科目」の75.6%、「人間形成基礎科目」の77.5%であり、この2つの科目区分では「教科書・指導書はなかった」が多い点が特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」はすべての科目区分で肯定的な意見が9割を超えており、非常に高い評価であった。そして、最も多い「英語科目」(95.9%)と最も少ない「人間形成基礎科目」(92.8%)の差は3.1ポイントと少なかった。



- 「G:学習支援計画書との一致」では、すべての科目区分で肯定的な意見が95%を超えており、非常に高い評価となっていた。最も多かったのは「英語科目」の97.9%であり、特に「沿っていた」が63.6%と多い点が特徴的であった。最も少なかったのは「人間形成基礎科目」であったが、肯定的な意見は95.5%であり、高い評価であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も全体的に評価は高く、すべての科目区分で肯定的な意見が9割を超えていた。肯定的な意見が最も多かったのは「英語科目」の97.3%であり、「適切だった」が63.7%と多かった。そして、最も少なかったのは「数理基礎科目」の92.4%であった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「人間形成基礎科目」の62.2%から「基礎実技科目」の57.0%に収まっており、差は5.2ポイントと大きくはなかった。そして、利用者の評価に関しても、否定的な意見はいずれも少なく、評価としては高いものであった。

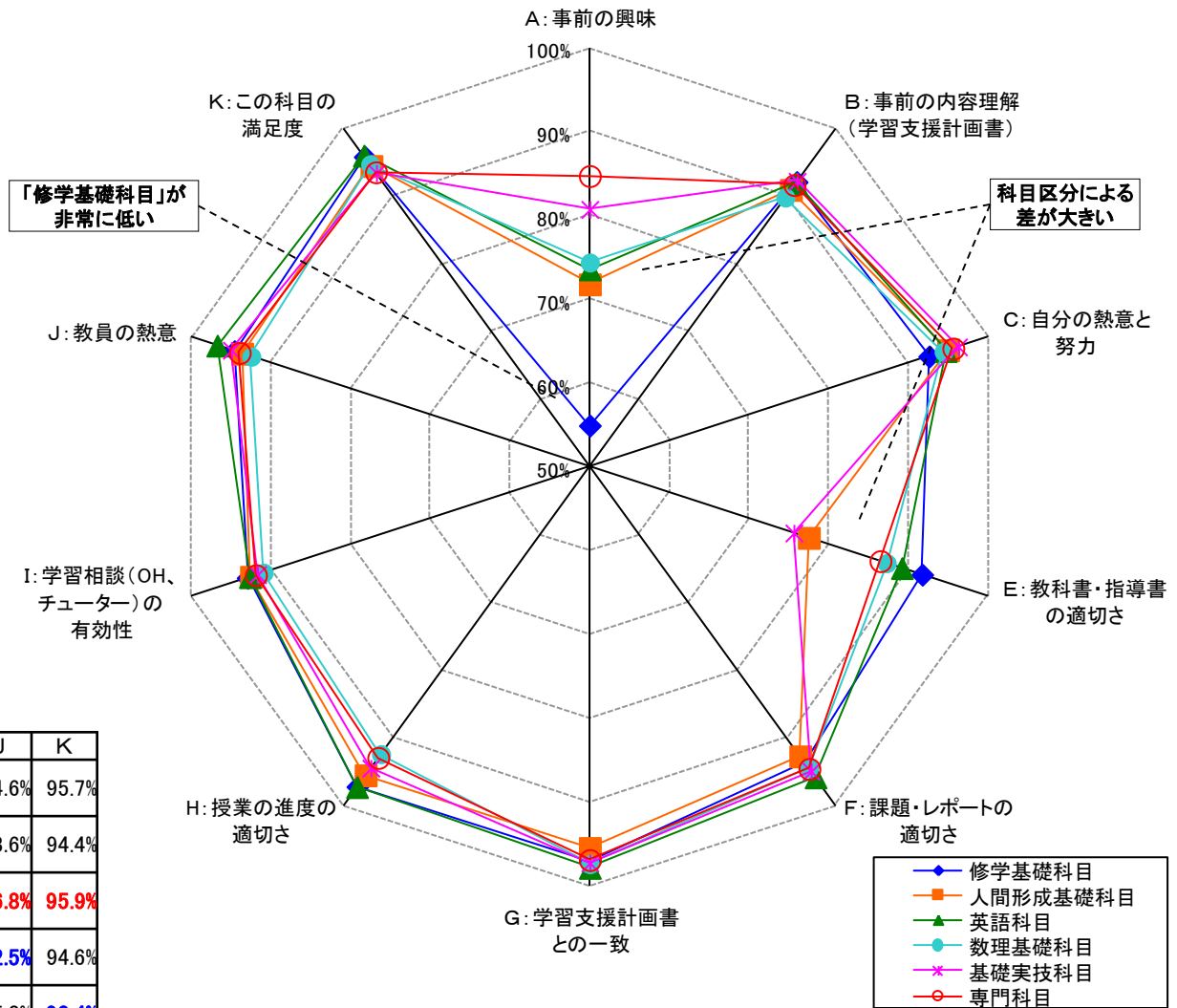


- 「J:教員の熱意」もすべての科目区分で肯定的な意見が9割を超えており、しっかりと教員の熱意を感じ取っているようであった。最も多かったのは「英語科目」の96.8%であったが、「感じ取れた」が65.5%で非常に多く、他の科目区分と比べても多さが目立っていた。次いで、「基礎実技科目」が95.0%、「修学基礎科目」が94.6%と続いていた。一方、最も少なかったのは「数理基礎科目」の92.5%であり、「感じ取れた」も50.4%と最も少なかったが、これも評価としては非常に高いと言える。
- 「K:この科目の満足度」もすべての科目区分で肯定的な意見が9割を超えており、満足度は非常に高かった。中でも最も満足度が高かったのは「英語科目」の95.9%であり、特に「満足している」が58.1%と多かった。そして、「修学基礎科目」が95.7%、「数理基礎科目」が94.6%と続いている、いずれも高い満足度であった。一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「基礎実技科目」の93.4%であったが、これも満足度としては非常に高いと言える。



- 肯定的な意見の割合を、科目区分別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 全体を見て目立っていたのは、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」での科目区分による差の大きさであった。特に「A:事前の興味」では「修学基礎科目」が非常に低い点が特徴的で、「専門科目」「基礎実技科目」が高かった。そして、「E:教科書・指導書の適切さ」では、「教科書・指導書はなかった」という回答が多い「人間形成基礎科目」と「基礎実技科目」が低かった。
- 上記の2項目以外では、科目区分による差は少なかったが、表の数値を見ると「英語科目」は5項目で最も高かった。一方、「数理基礎科目」は4項目で最も低かったが、差はそれほど大きなものではなかった。

■ 科目区分別比較レーダーチャート



■ 科目の評価比較

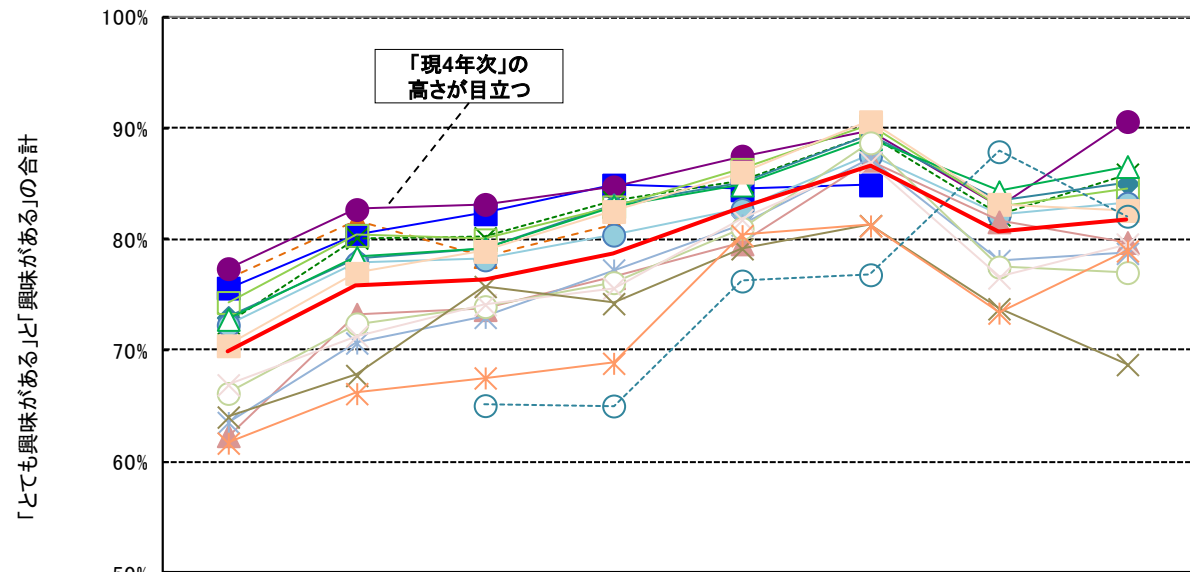
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	54.9%	92.0%	92.6%	91.7%	93.7%	97.2%	97.2%	93.0%	94.6%	95.7%
人間形成基礎科目	71.8%	90.9%	95.0%	77.5%	92.8%	95.5%	95.6%	92.5%	93.6%	94.4%
英語科目	73.6%	91.8%	94.7%	89.2%	95.9%	97.9%	97.3%	92.7%	96.8%	95.9%
数理基礎科目	74.4%	89.7%	94.4%	87.3%	94.5%	97.5%	92.4%	91.0%	92.5%	94.6%
基礎実技科目	80.7%	92.1%	96.3%	75.6%	95.0%	97.3%	94.5%	91.7%	95.0%	93.4%
専門科目	84.7%	91.6%	95.6%	86.5%	94.6%	97.0%	93.0%	91.9%	94.0%	93.5%

<6> 同一学生群の分析

<6-1> 同一学生群の変化に関する分析

- 同一学生群が学年が上がるにつれてどのような意識変化をしているのかを確認した。
- 学期は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制となったため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後学期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- 「A:事前の興味」の「全体平均」を見ると、「1年次-前学期」から「3年次-後学期」にかけては肯定的な意見が継続的に増加しており、授業に対する事前の興味が強くなっていることが確認できた。その後は「4年次-前学期」にかけて低下し、「4年次-後学期」まで横這いとなっていた。
- 以前は1年次から3年次にかけて肯定的な意見が少なく、「全体平均」を下回る学生群が多かったが、「H26卒業生」あたりから肯定的な意見が増えてきており、授業に対する事前の興味が強くなってきていると言える。
- 特に「現4年次」は1年次から3年次にかけて肯定的な意見の多さが目立っており、「4年次-後学期」には非常に高くなって卒業に至っていた。また、「現2年次」「現3年次」は入学直後は非常に高かったが、その後は目立つ高さではなくなっており、興味を維持させることも重要になってくるものと思われる。

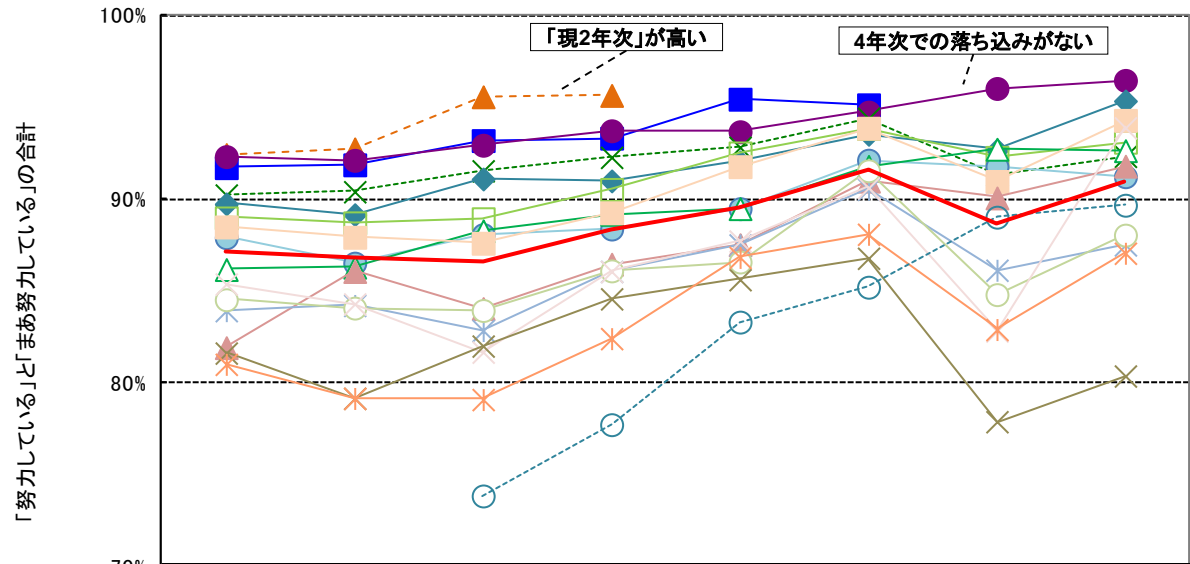
■ 学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化 同一学生群の変化



	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	76.4%	81.7%	78.5%	81.3%				
---■--- 現3年次	75.6%	80.4%	82.3%	84.9%	84.5%	84.9%		
---●--- 現4年次	77.4%	82.7%	83.2%	84.7%	87.5%	89.9%	83.0%	90.6%
---×--- R1卒業生	72.5%	80.1%	80.2%	83.4%	85.2%	89.4%	82.2%	85.9%
---◆--- H30卒業生	73.0%	78.2%	79.2%	83.1%	85.2%	89.5%	83.5%	85.0%
---□--- H29卒業生	74.3%	80.4%	80.0%	83.0%	86.3%	90.2%	83.0%	84.6%
---○--- H28卒業生	72.3%	77.9%	78.2%	80.4%	82.7%	87.5%	82.2%	83.3%
---△--- H27卒業生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%	84.9%	89.1%	84.3%	86.6%
---□--- H26卒業生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%	83.2%	82.6%
---▲--- H25卒業生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
---*--- H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
---○--- H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
---×--- H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
---×--- H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
---*--- H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
---○--- H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
---■--- 全体平均	70.0%	75.9%	76.4%	78.8%	82.8%	86.7%	80.7%	81.7%

- 「C:自分の熱意と努力」の「全体平均」は「1年次-前学期」から「2年次-前学期」にかけては横這いであり、そこから「3年次-後学期」にかけてゆるやかに向上し、「4年次-前学期」で低下した後、「4年次-後学期」で再び向上して卒業に至っていた。ただし、いずれの変化も小さく、差は最大でも5.0ポイントであった。
- 「H20卒業生」「H21卒業生」のように、以前は4年次で大きく低下する学生群も見られたが、最近の学生群の変化は小さく、肯定的な意見はほとんど85%から95%の間にとまっており、4年間を通して一定の熱意と努力を維持しているものと思われる。
- 特に調査時点の在學生は高さが目立っており、「現2年次」は2年次で肯定的な意見が過去最高となっている。また、「現4年次」は4年次での落ち込みがなく、非常に高い熱意と努力のまま卒業に至っていた。

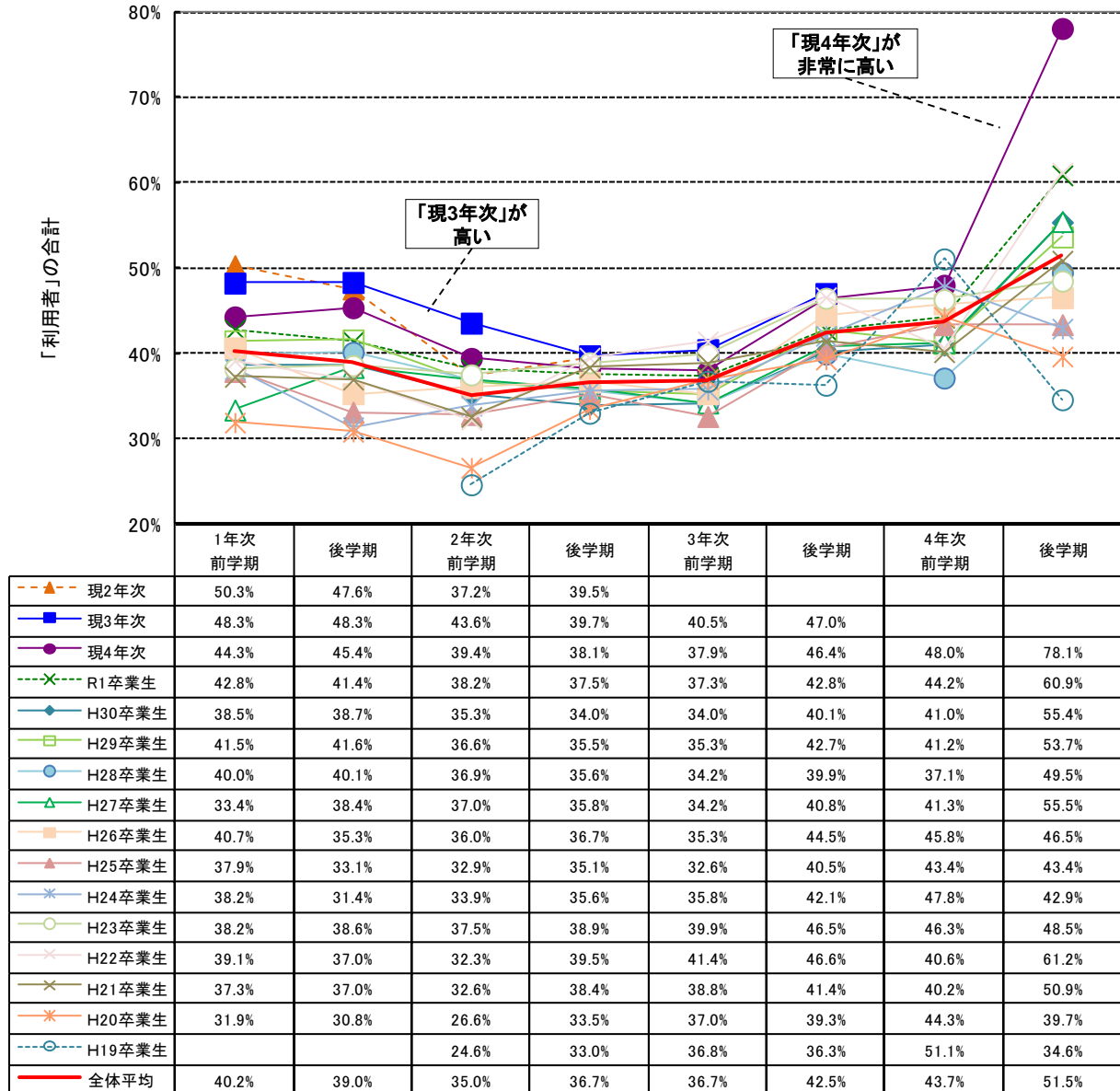
■ 学年毎・学期毎の「C:自分の熱意と努力」の変化 同一学生群の変化



	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	92.4%	92.7%	95.6%	95.6%				
---■--- 現3年次	91.7%	91.9%	93.2%	93.3%	95.4%	95.1%		
---●--- 現4年次	92.3%	92.1%	92.9%	93.7%	93.7%	94.7%	96.0%	96.5%
---×--- R1卒業生	90.2%	90.4%	91.5%	92.3%	92.8%	94.4%	91.3%	92.3%
---◆--- H30卒業生	89.7%	89.1%	91.1%	91.0%	92.0%	93.5%	92.7%	95.3%
---□--- H29卒業生	89.0%	88.7%	88.9%	90.5%	92.5%	93.8%	92.3%	93.1%
---○--- H28卒業生	87.9%	86.5%	88.1%	88.4%	89.5%	92.1%	91.8%	91.2%
---△--- H27卒業生	86.2%	86.3%	88.3%	89.2%	89.5%	91.8%	92.7%	92.6%
---■--- H26卒業生	88.5%	87.9%	87.6%	89.3%	91.8%	93.9%	91.0%	94.3%
---▲--- H25卒業生	81.9%	86.1%	84.0%	86.5%	87.5%	91.0%	90.1%	91.8%
---*--- H24卒業生	83.9%	84.2%	82.8%	86.1%	87.5%	90.5%	86.1%	87.5%
---○--- H23卒業生	84.5%	84.1%	83.9%	86.1%	86.6%	91.5%	84.8%	88.0%
---×--- H22卒業生	85.4%	84.3%	81.7%	86.0%	87.7%	90.6%	82.8%	93.9%
---×--- H21卒業生	81.6%	79.1%	82.0%	84.6%	85.6%	86.8%	77.9%	80.4%
---*--- H20卒業生	81.0%	79.1%	79.1%	82.4%	86.8%	88.1%	82.9%	87.0%
---○--- H19卒業生			73.8%	77.7%	83.3%	85.2%	89.0%	89.7%
---■--- 全体平均	87.1%	86.8%	86.5%	88.3%	89.5%	91.5%	88.7%	91.0%

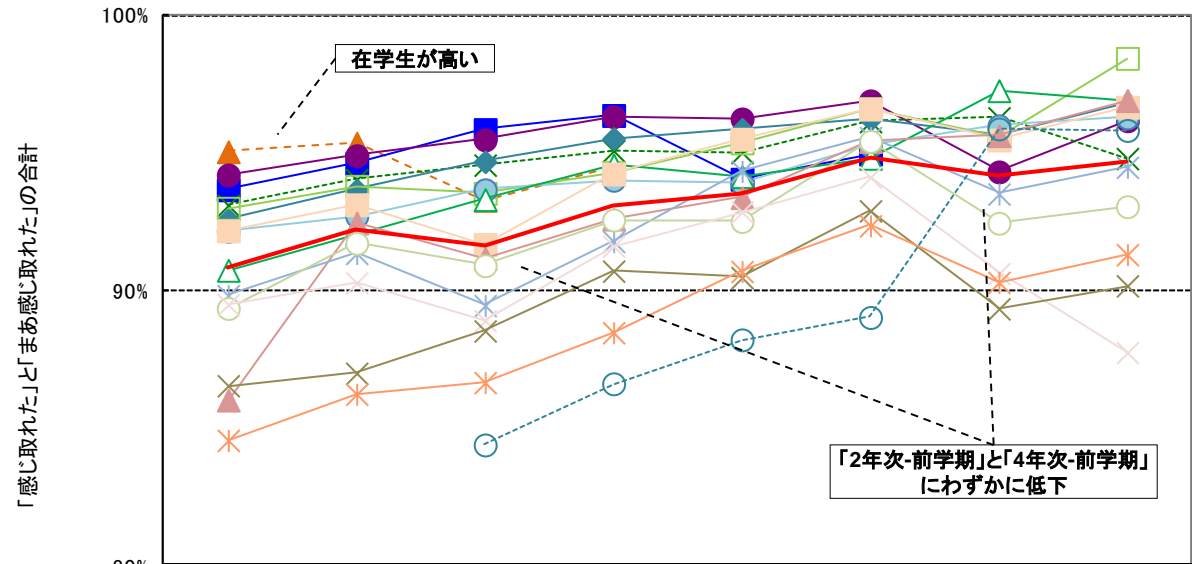
- 「I:学習相談の有効性」は内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を見ている。
- 「全体平均」を見ると、学習相談の利用者の割合は「1年次-前学期」から「2年次-前学期」にかけて減少し、その後は「4年次-後学期」にかけて徐々に増加して卒業に至っていた。割合としてはおおよそ40%から50%の間であり、それほど大きな変動ではなかった。また、他の指標のような「4年次-前学期」での落ち込みは見られなかった。
- 学生群の特徴を見ると、「2年次-後学期」から「3年次-後学期」にかけては学生群によるバラツキが非常に少なく、どの学生群においても一定の割合の利用者がいるようであった。
- 差は大きくはないものの、在学生の利用率がやや高く、特に「現3年次」は入学直後から「3年次-後学期」にかけて高い利用率となっていた。また、「現4年次」の利用率も高めに推移していたが、「4年次-後学期」の利用率が目立って高くなっていった。他の学生群を見ても「4年次-後学期」の利用率には学生群による差が大きくなっており、何らかの理由があるものと思われる。

■ 学年毎・学期毎の「I:学習相談の有効性」による
「学習相談利用者割合」の変化 同一学生群の変化



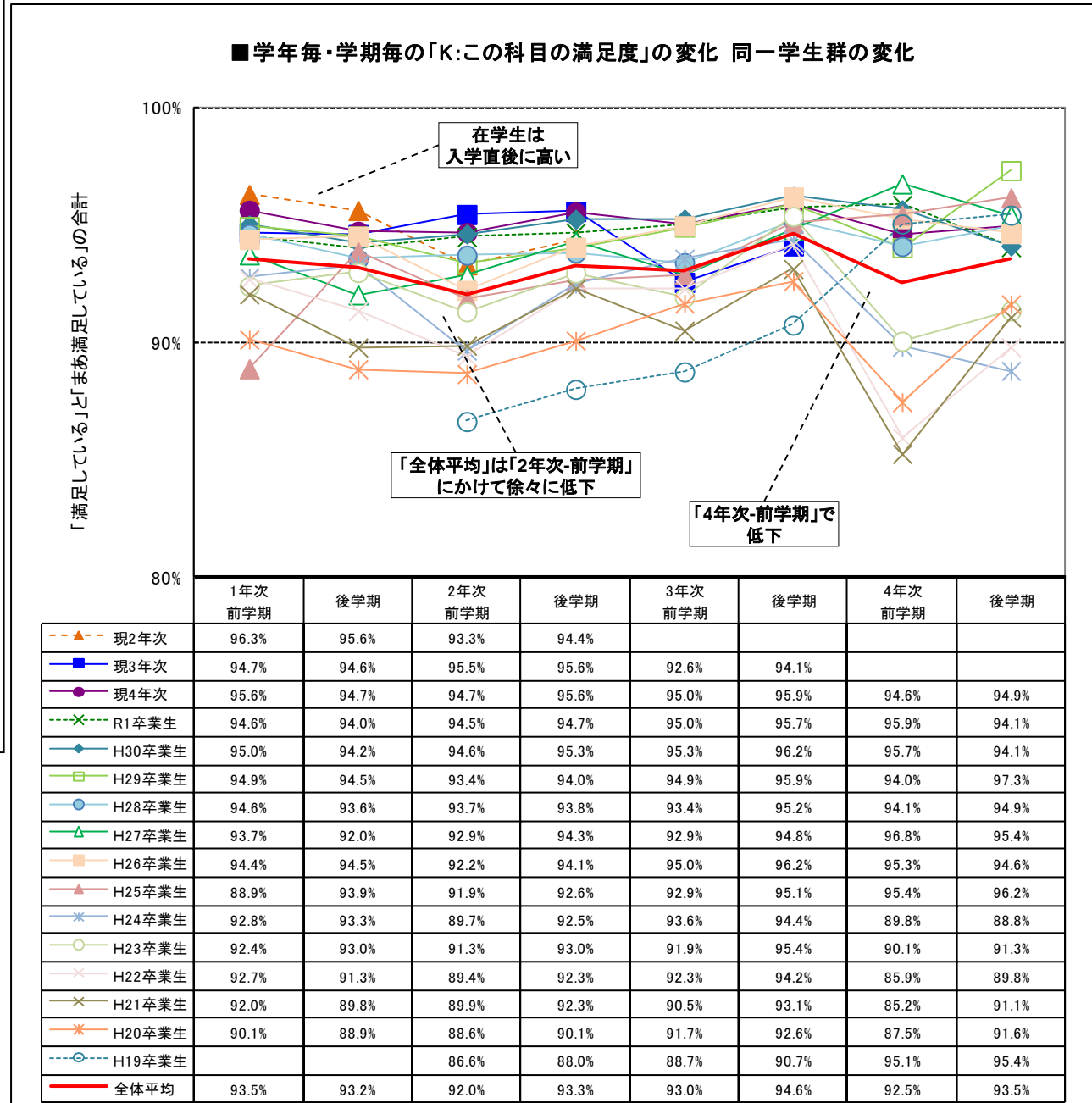
- 「J:教員の熱意」の「全体平均」は「2年次-前学期」と「4年次-前学期」にわずかに低下しているが、大きな流れとしては4年間を通して右肩上がりとなっており、高学年になるほど教員の熱意を感じているようであった。ただし、肯定的な意見の割合はおおよそ90%から95%の間となっており、常に高い状態であった。
- 学生群の特徴を見ると、他の指標と同様に「H26卒業生」あたりから肯定的な意見が増えて、学年による変化が少なくなってきたと言える。
- 調査時点の在學生は特に高さが目立っており、入学直後では「現2年次」をはじめとして、在學生全体が教員の熱意を強く感じていた。ただし、「現4年次」は「3年次-後学期」までは非常に高かったものの、「4年次-前学期」に大きく低下しており、「現3年次」は「3年次-前学期」に大きく低下していた。

■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	95.0%	95.4%	93.3%	94.5%				
---■--- 現3年次	93.7%	94.6%	95.9%	96.4%	94.1%	95.0%		
---●--- 現4年次	94.2%	94.9%	95.5%	96.3%	96.2%	96.9%	94.3%	96.2%
---×--- R1卒業生	93.1%	94.0%	94.6%	95.1%	95.0%	96.1%	96.3%	94.8%
---◆--- H30卒業生	92.6%	93.7%	94.7%	95.5%	95.9%	96.2%	95.7%	96.8%
---□--- H29卒業生	93.0%	93.8%	93.5%	94.3%	95.4%	96.6%	95.6%	98.4%
---○--- H28卒業生	92.2%	92.7%	93.7%	94.0%	93.9%	95.3%	96.0%	96.3%
---△--- H27卒業生	90.7%	92.1%	93.3%	94.6%	94.1%	94.8%	97.3%	96.9%
---◇--- H26卒業生	92.2%	93.1%	91.7%	94.2%	95.5%	96.6%	95.5%	96.7%
---▲--- H25卒業生	86.0%	92.5%	91.2%	92.6%	93.4%	95.4%	95.6%	96.9%
---*--- H24卒業生	89.8%	91.4%	89.5%	91.8%	94.3%	95.6%	93.5%	94.5%
---○--- H23卒業生	89.4%	91.7%	90.9%	92.6%	92.5%	95.4%	92.5%	93.1%
---×--- H22卒業生	89.5%	90.3%	88.9%	91.6%	92.9%	94.1%	90.6%	87.8%
---×--- H21卒業生	86.6%	87.0%	88.5%	90.7%	90.5%	92.9%	89.3%	90.2%
---*--- H20卒業生	84.6%	86.2%	86.7%	88.5%	90.7%	92.4%	90.3%	91.3%
---○--- H19卒業生			84.4%	86.6%	88.2%	89.0%	95.9%	95.8%
---■--- 全体平均	90.8%	92.2%	91.6%	93.1%	93.5%	94.8%	94.2%	94.7%

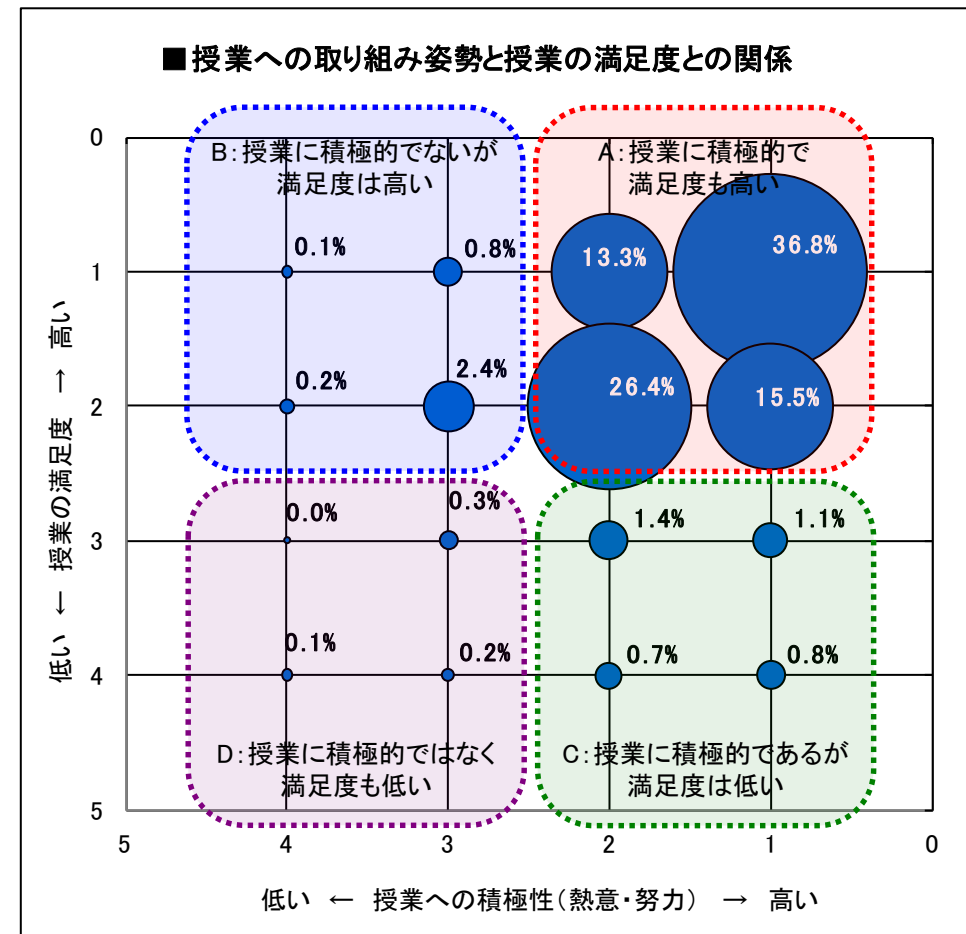
- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」を見ると、他の指標と同様に「2年次-前学期」にかけて低下した後に徐々に向上し、「4年次-前学期」で再び低下、その後は卒業に向けてわずかに向上していた。4年間を通して最も満足度が高かったのは「3年次-後学期」の94.6%で、最も低かったのは「2年次-前学期」の92.0%であったが、差は2.6ポイントと非常に小さく、4年間を通して満足度は高かった。
- 他の指標と同様に「H26卒業生」以降の学生群は満足度が高く、変動が少ないようであった。特に最近の学生では「4年次-前学期」での落ち込みがほとんど見られず、この点は大きな変化と言える。
- 満足度に関しても調査時点の在学生の高さが目立っており、入学直後である「1年次-前学期」を見ると「現2年次」の満足度が過去最高の96.3%であった。「現3年次」「現4年次」の満足度も高めではあったが、他の指標のように目立った高さではなく、「現3年次」は「3年次-前学期」に大きく低下するなどの特徴も見られた。



<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

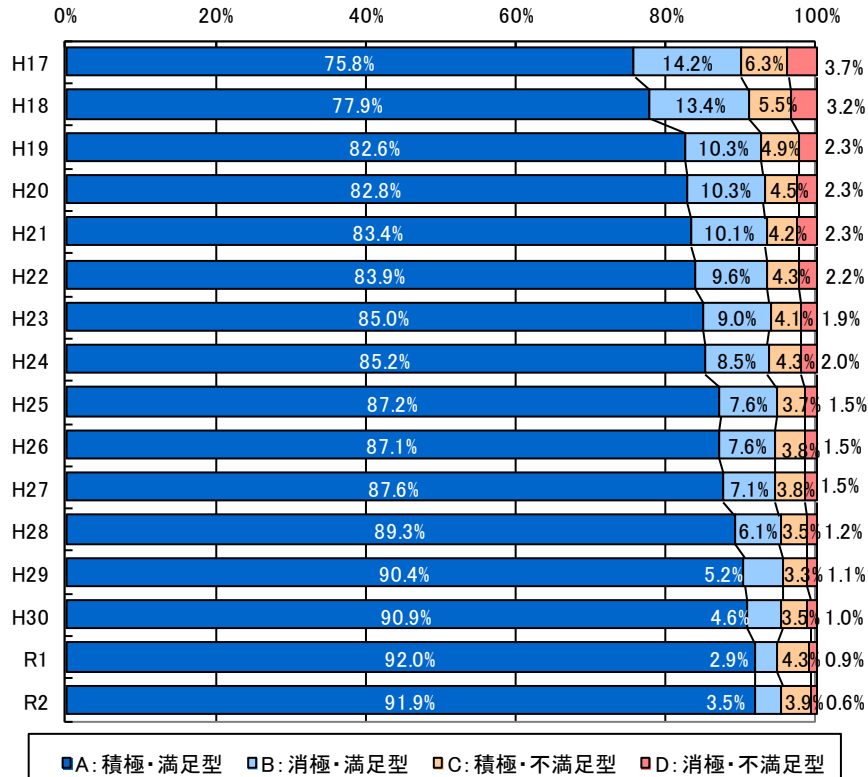
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」グループは91.9%と多く、ほとんどの学生は授業に対して積極的に取り組み、高い満足度を得ていた。特に「満足度」「積極性」がともに高い学生が36.8%であり、全体の1/3を超えていた。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」グループは3.5%であった。これは授業には積極的に取り組めていないが満足度は高いという学生群であり、教員の指導によって引っぱられている学生ではないかと思われる。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」グループは3.9%であった。これは授業に積極的に取り組んでいるにもかかわらず、満足度が低い学生群であり、期待はずれなどで積極性が失われやすいようにフォローしていく必要があると思われる。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」グループは0.6%とわずかであった。この学生群は非常に少ないものの、しっかりとフォローしていく必要がある学生群と言える。



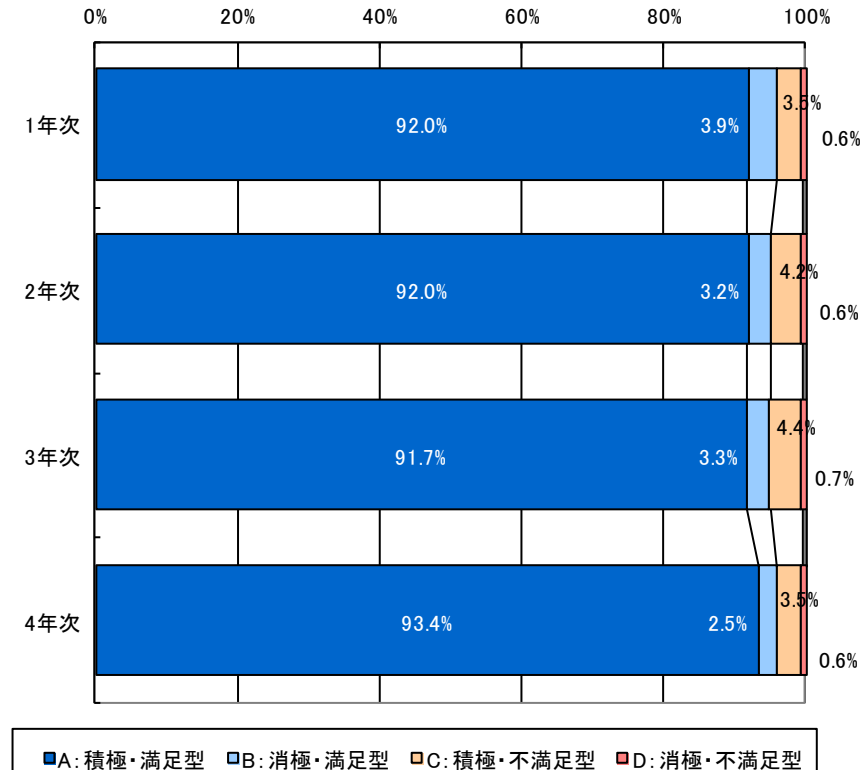
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	91.9%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	3.5%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	3.9%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	0.6%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で分類した4グループの経年変化を見ると、「A:積極・満足型」は前回は0.1ポイント下回っていた。このグループの割合は例外はあるものの、調査開始から継続的に増加傾向が続いていたが、今回は横這いであった。
- 「B:消極・満足型」は前回から0.6ポイントの増加、「C:積極・不満足型」は0.4ポイントの減少、「D:消極・不満足型」は0.3ポイントの減少となっていたが、いずれもわずかな変化であった
- 「A:積極・満足型」グループの割合を学年別に比較すると、「4年次」が93.4%と最も多く、次いで、「1年次」と「2年次」が92.0%、「3年次」が91.7%となっており、差は最大でも1.7ポイントと小さかった。また、他の3グループも学年による大きな差は見られなかった。

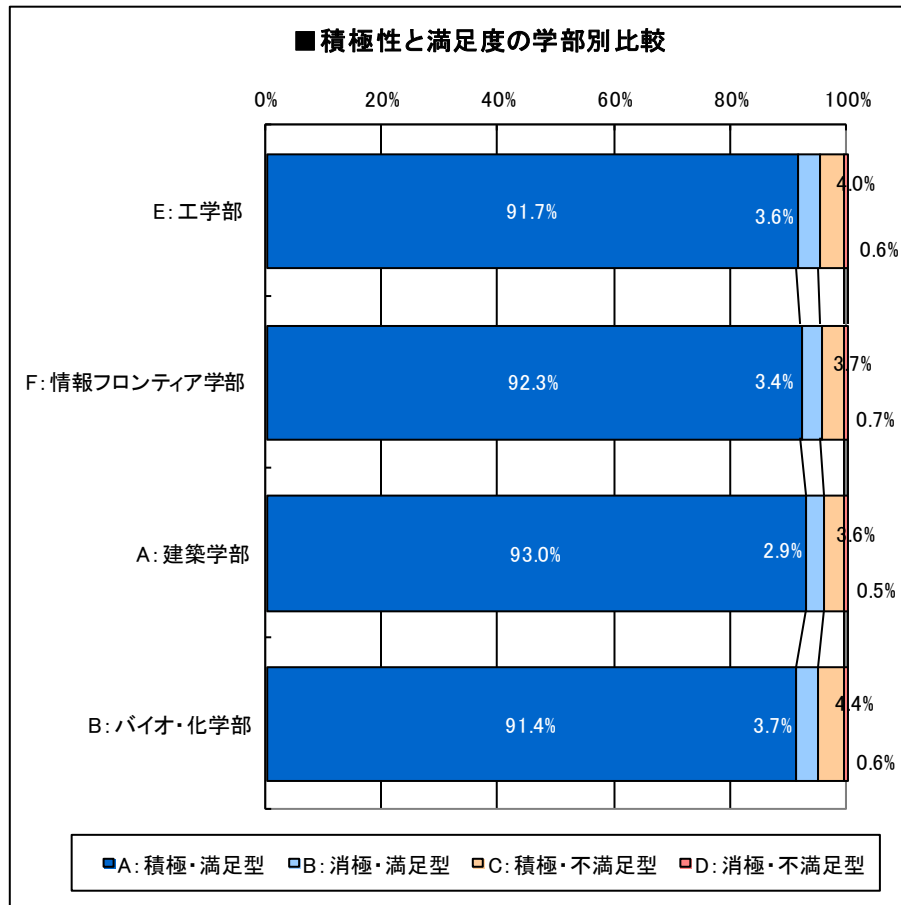
■ 積極性と満足度の経年変化



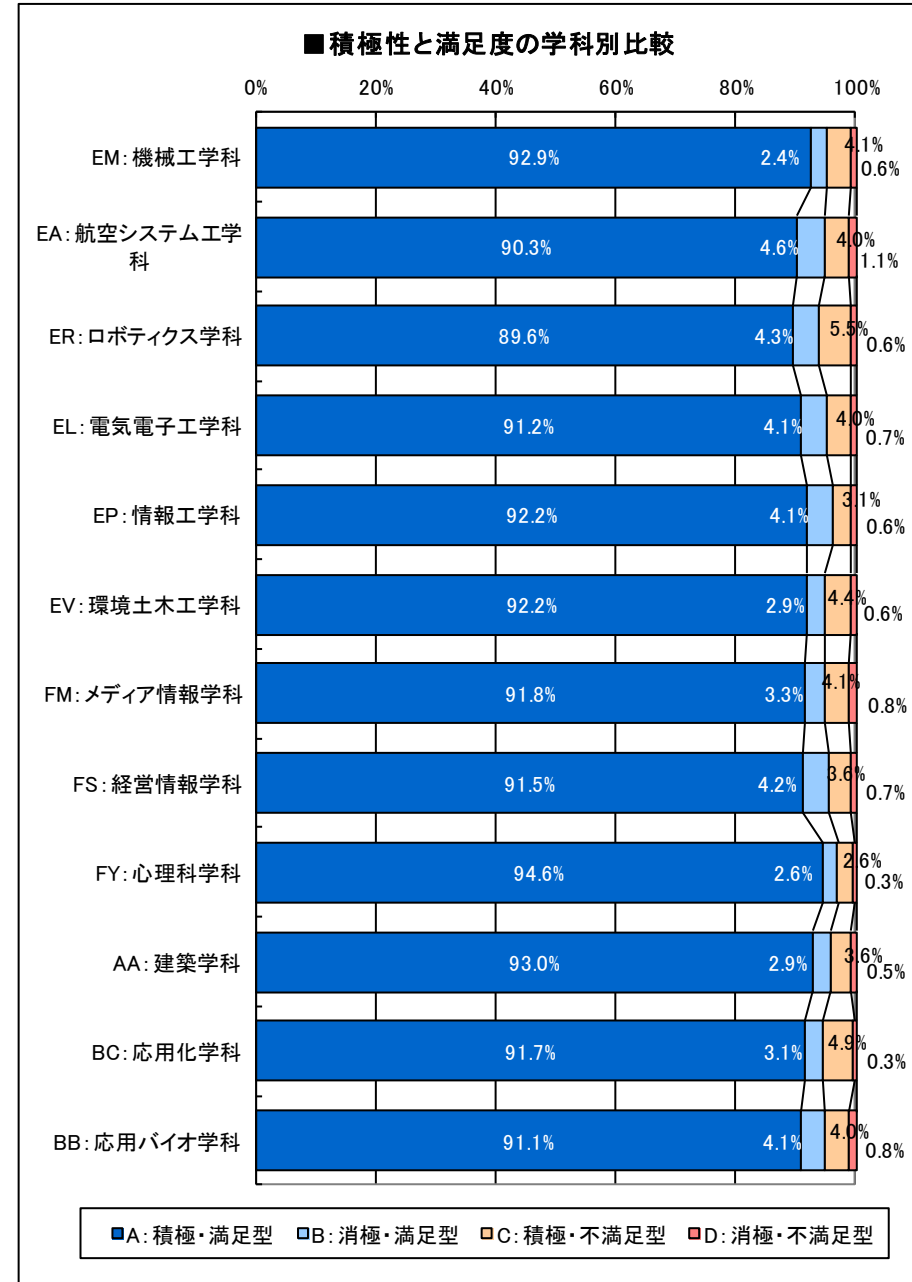
■ 積極性と満足度の学年別比較



- 学部別に比較したところ、「A:積極・満足型」グループが最も多かったのは「A:建築学部」の93.0%であった。次いで、「F:情報フロンティア学部」が92.3%、「E:工学部」が91.7%、「B:バイオ・化学部」が91.4%であり、差は最大でも1.6ポイントと小さかった。
- 他の3グループも学部による差はわずかであり、大きな特徴は見られなかった。

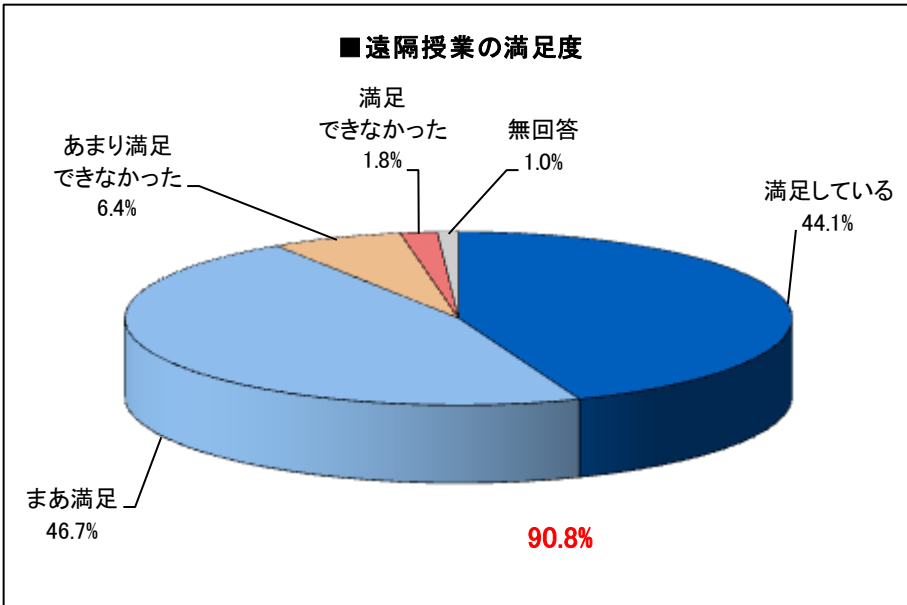
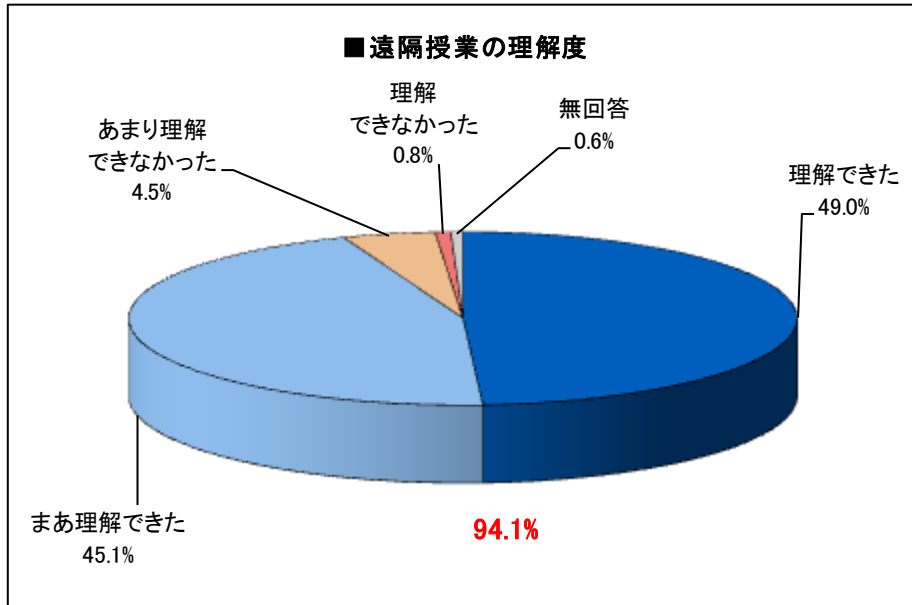
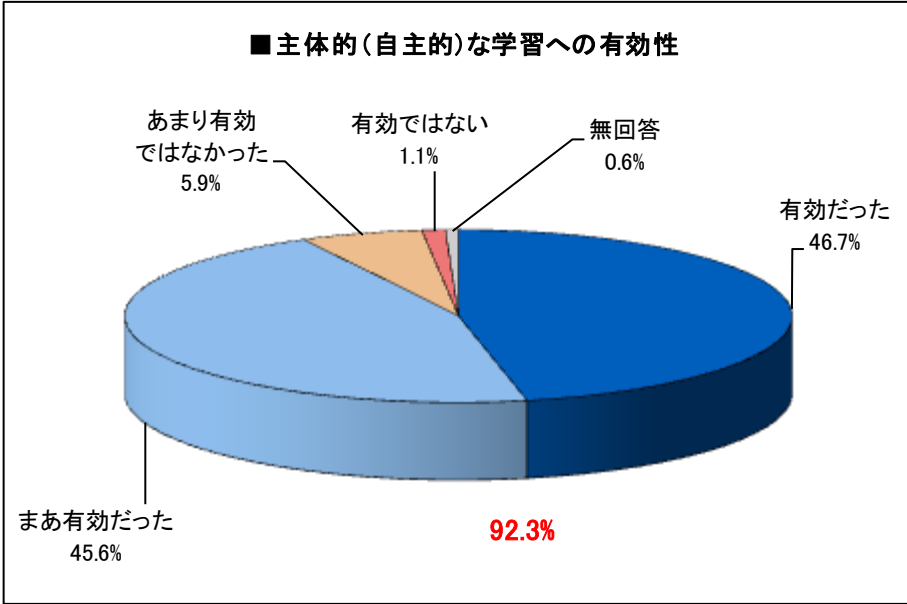


- 学科別の比較はで「A:積極・満足型」の割合が最も多かったのは「FY:心理科学科」の94.6%であった。次いで、「AA:建築学科」が93.0%、「EM:機械工学科」が92.9%、「EV:環境土木工学科」と「EP:情報工学科」が92.2%で続いていた。
- 一方、「A:積極・満足型」が最も少なかったのは、「ER:ロボティクス学科」の89.6%であり、最も多い「FY:心理科学科」との差は5.0ポイントであった。そして、「EA:航空システム工学科」が90.3%、「BB:応用バイオ学科」が91.1%と続いていたが、これらの学科の満足度も決して低いものではなかった。

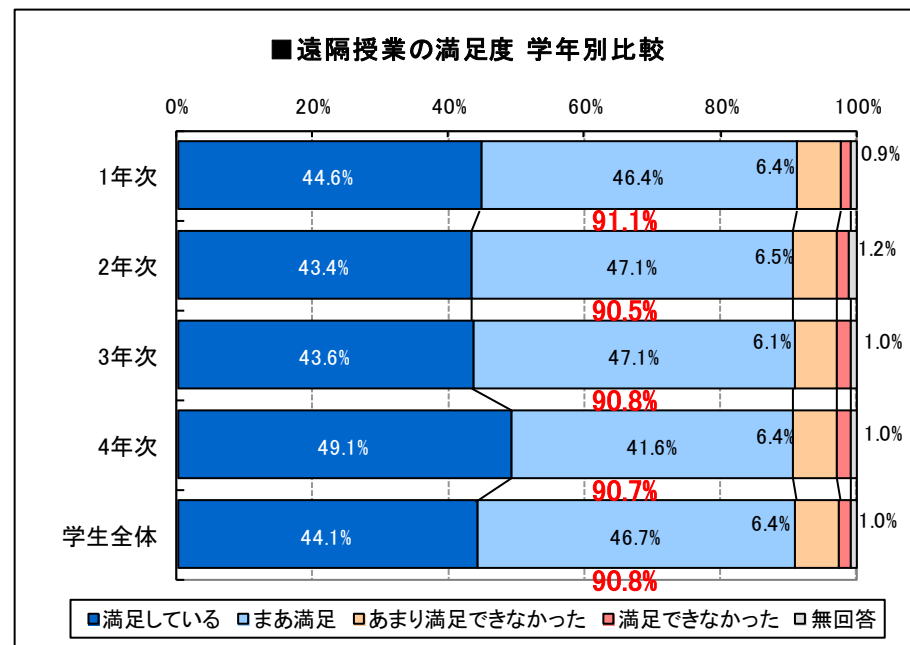
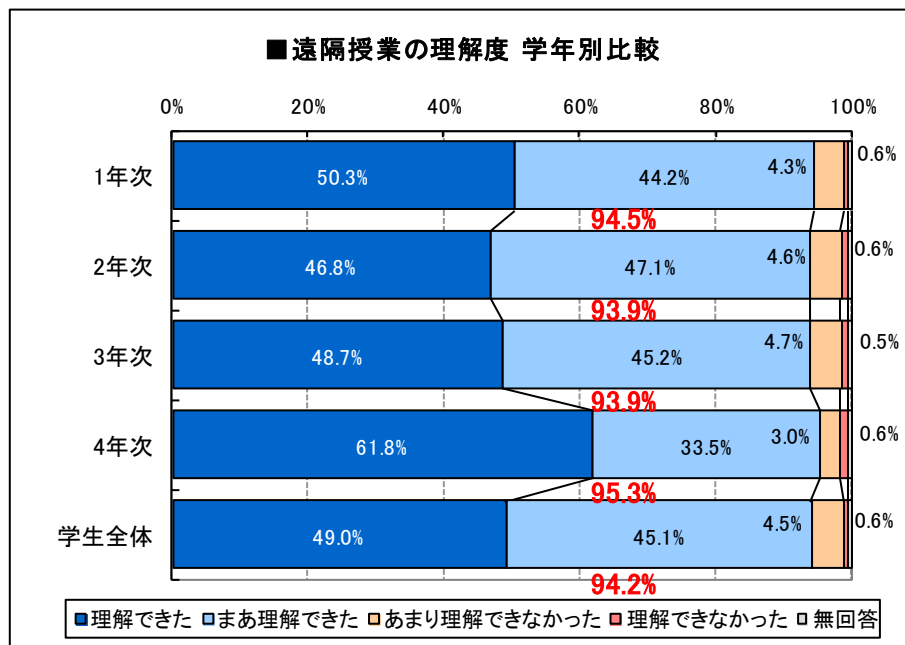
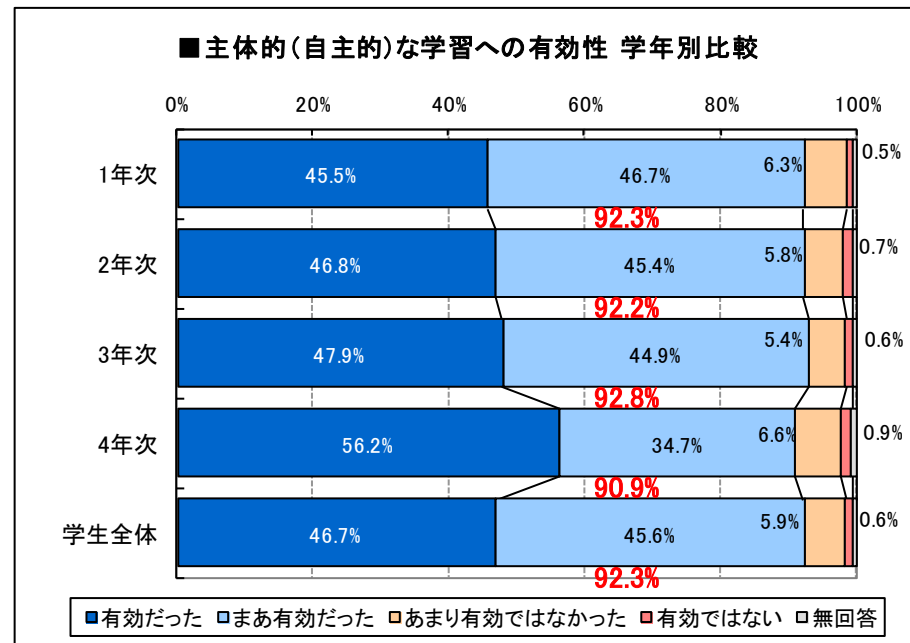


<8>遠隔授業の評価の分析

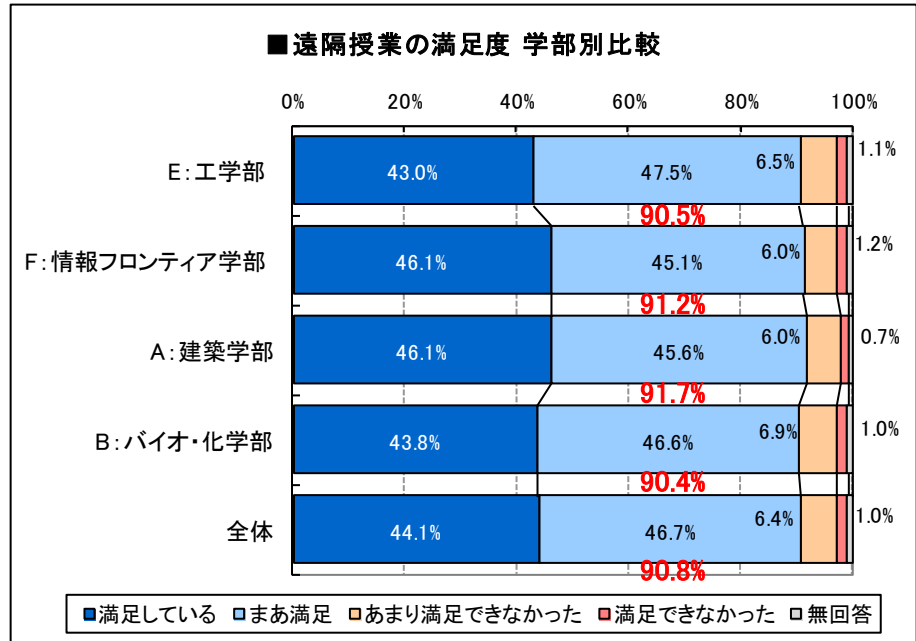
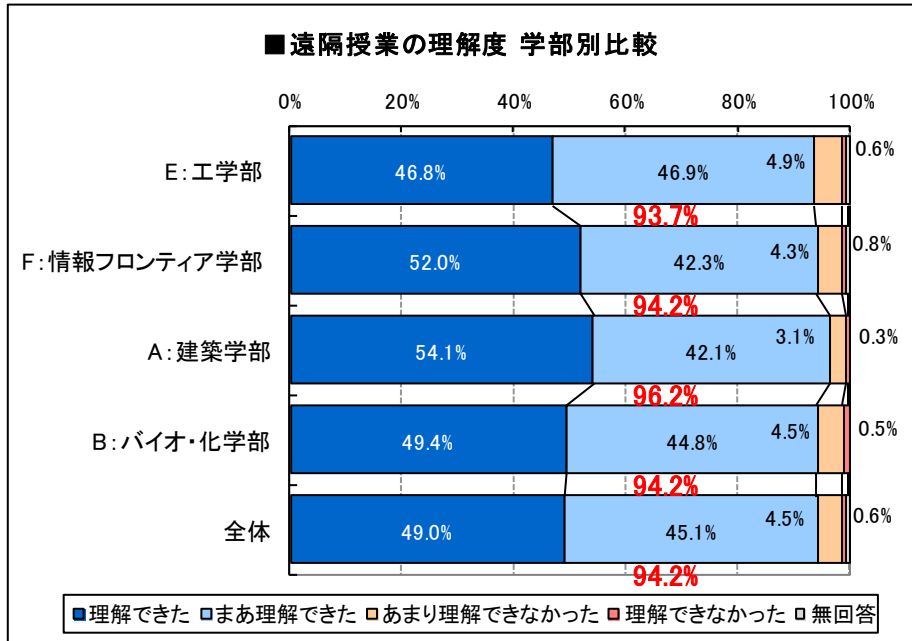
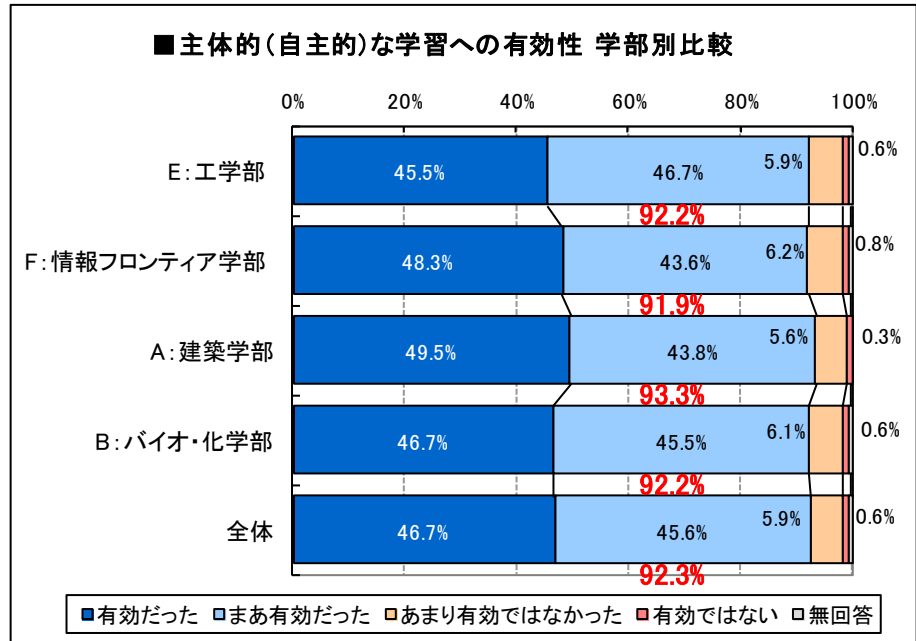
- 今回は「遠隔授業」に関する質問を3問加えているが、まず、「遠隔授業の理解度」を見ると、「理解できた」が約半数の49.0%、「まあ理解できた」が45.1%であり、合わせると94.1%が理解できたという回答となっていた。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」では、「有効だった」が46.7%、「まあ有効だった」が45.6%であり、合わせると92.3%が有効だと回答していた。
- 最終的な「遠隔授業の満足度」に対しては、「満足している」が44.1%、「まあ満足」が46.7%であり、合わせると満足度は90.8%となる。そして、「満足できなかった」は1.8%にとどまり、「あまり満足できなかった」は6.4%となっていた。



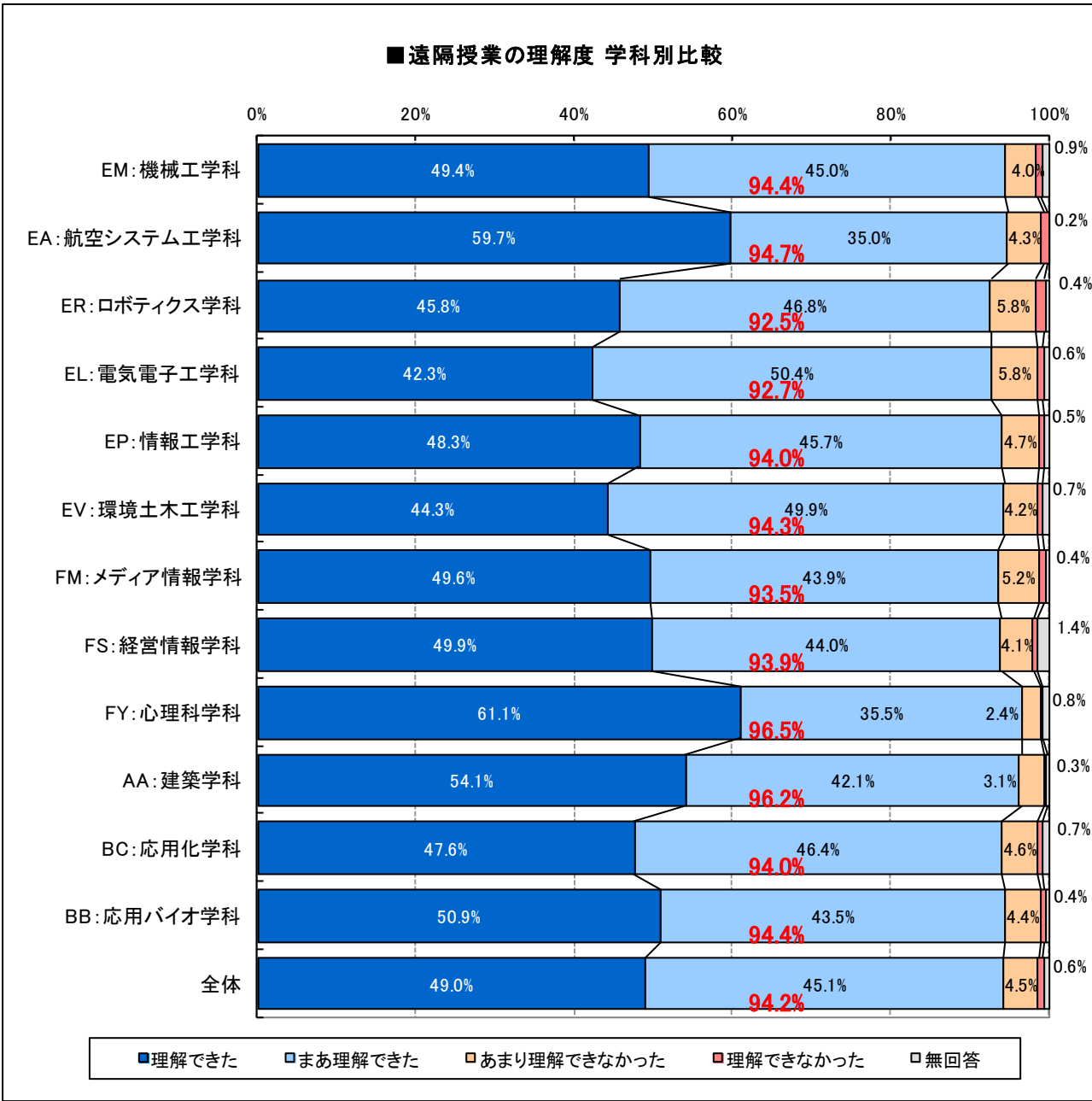
- 「遠隔授業の理解度」を学年別に比較すると、肯定的な意見が最も多かったのは「4年次」の95.3%であった。次いで、「1年次」が94.5%、「2年次」と「3年次」が93.9%であり、差は最大でも1.4ポイントと非常に少なかった。ただし、「理解できた」だけを見ると「4年次」が61.8%と目立って多く、他の学年との差が見られた。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」の肯定的な意見は「3年次」が92.8%と最も多く、次いで、「1年次」が92.3%、「2年次」が92.2%、「4年次」が90.9%で続いていた。ただし、「有効だった」だけを見ると「4年次」が多く、強く有効性を感じているようであり、わずかな差ではあるが、低学年ほど少ない傾向が見られた。
- 「遠隔授業の満足度」の肯定的な意見は「1年次」が91.1%と最も多かった。次いで、「3年次」が90.8%、「4年次」が90.7%、「2年次」が90.5%であり、差は最大でも0.6ポイントと少なく、遠隔授業の満足度に関しては学年による差はほとんどなかった。ただし、「満足している」だけを見ると「4年次」が多く、強く満足している学生が多いようであった。



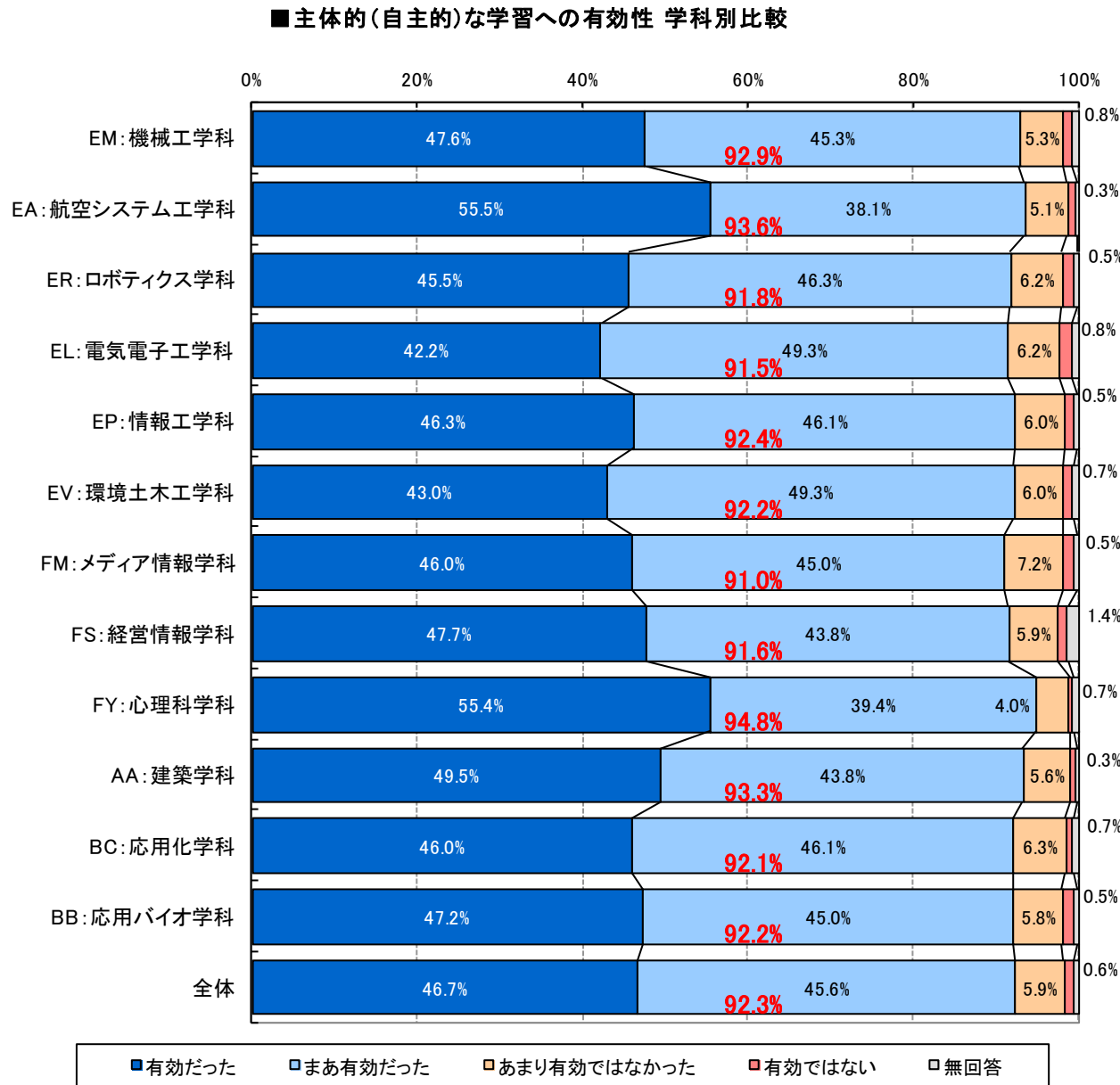
- 「遠隔授業の理解度」を学部別に比較すると、肯定的な意見が最も多かったのは「A: 建築学部」の96.2%であった。次いで、「F: 情報フロンティア学部」と「B: バイオ・化学部」が94.2%、「E: 工学部」が93.7%で続いており、差は最大で2.5ポイントと小さかった。ただし、「理解できた」だけを見ると、最も多い「A: 建築学部」の54.1%と、最も少ない「E: 工学部」の46.8%との差は7.3ポイントであった。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」で肯定的な意見が最も多かったのは「A: 建築学部」の93.3%で、「E: 工学部」と「B: バイオ・化学部」が92.2%、「F: 情報フロンティア学部」が91.9%で続き、差は最大で1.4ポイントであった。「有効だった」は「A: 建築学部」が49.5%で最も多く、差は最大で4.0ポイントであった。
- 「遠隔授業の満足度」で肯定的な意見が最も多かったのは「A: 建築学部」の91.7%であり、「F: 情報フロンティア学部」が91.2%、「E: 工学部」が90.5%、「B: バイオ・化学部」が90.4%で、差は最大で1.3ポイントであった。「満足している」は「F: 情報フロンティア学部」と「A: 建築学部」が46.1%と多く、最も少ない「E: 工学部」との差は最大で3.1ポイントであり、学部による満足度の差は小さかった。



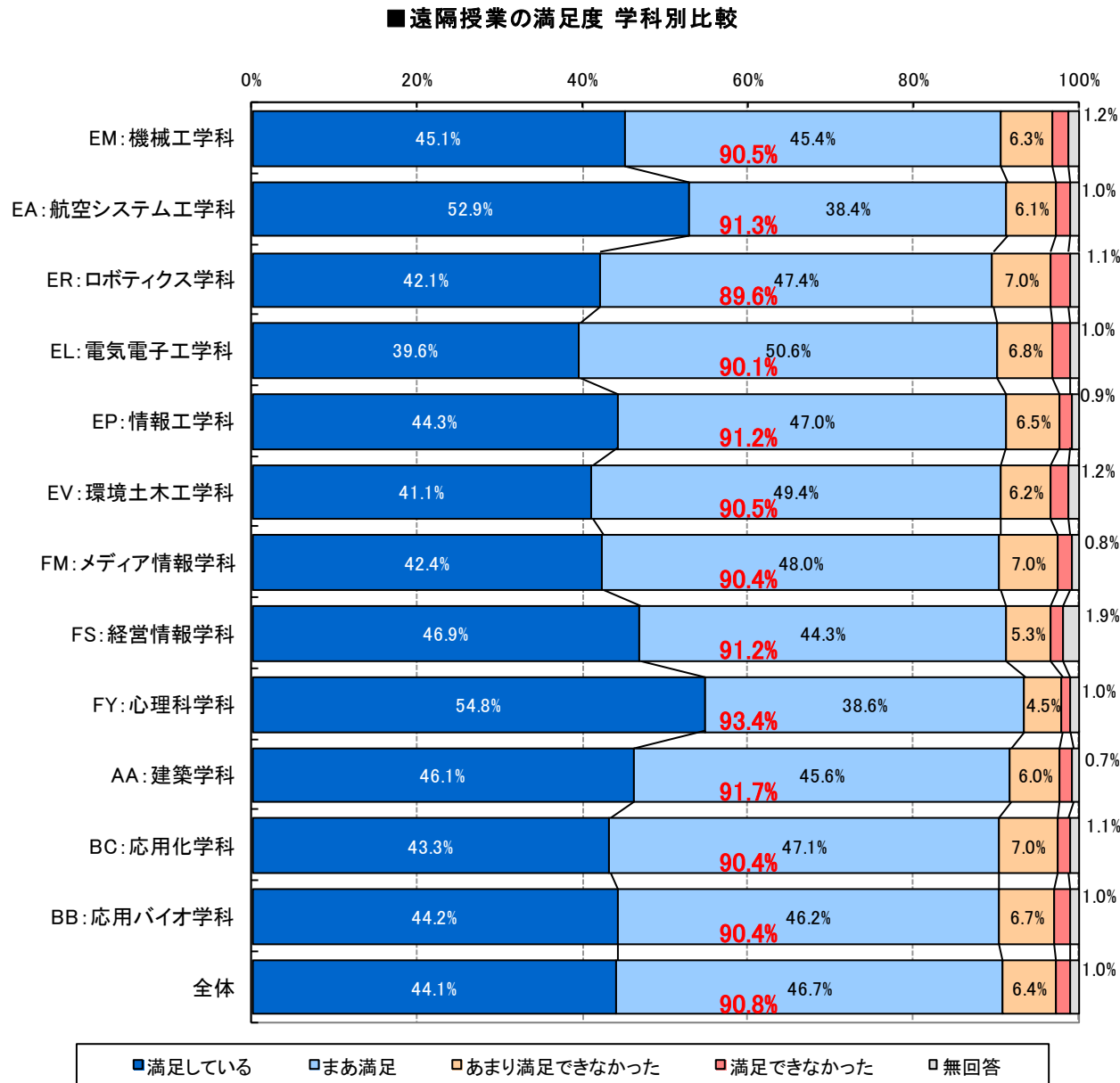
- 「遠隔授業の理解度」の学科別比較で肯定的な意見が最も多かったのは「FY:心理科学科」の96.5%であり、次いで、「AA:建築学科」が96.2%、「EA:航空システム工学科」が94.7%で続いていた。
- 一方、最も少なかったのは「ER:ロボティクス学科」の92.5%であった。
- 肯定的な意見の差は最大でも4.0ポイントと大きくなかったが、「理解できた」だけを見ると、最も多い「FY:心理科学科」の61.1%と、最も少ない「EL:電気電子工学科」の42.3%との差は18.8ポイントと大きな差がついていた。



- 「主体的(自主的)な学習への有効性」の学科別比較で肯定的な意見が最も多かったのは「FY:心理科学科」の94.8%であった。次いで、「EA:航空システム工学科」が93.6%、「AA:建築学科」が93.3%が続いていた。
- 一方、最も少なかったのは「FM:メディア情報学科」の91.0%であり、最も多い「FY:心理科学科」との差は3.8ポイントであった。
- 「有効だった」だけを見ると、「EA:航空システム工学科」が55.5%、「FY:心理科学科」が55.4%であり、上位の2学科がほぼ並んでいた。そして、最も少なかったのは「EL:電気電子工学科」の42.2%であり、「EA:航空システム工学科」との差は13.3ポイントであった。



- 「遠隔授業の満足度」の学科別比較で肯定的な意見が最も多かったのは「FY:心理科学科」の93.4%であった。この学科は遠隔授業に関する3つの質問のすべてで肯定的な意見が最多であった。
- 上記に次いで、「AA:建築学科」が91.7%、「EA:航空システム工学科」が91.3%であった。
- 一方、最も少なかったのは「ER:ロボティクス学科」の89.6%であり、この学科は「遠隔授業の理解度」でも最少であった。
- 満足度の差は最大でも3.8ポイントで、ほとんどの学科で満足度が90%を超えており、満足度としては決して低いものではなかった。ただし、「満足している」だけを見ると、差は最大で15.2ポイントであり、これは比較的大きな差と言える。



<9> 全体のまとめ

<9-1>全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

学生の8割が「興味」を持って授業に臨んでいた。そして、「教科書・指導書」「課題・レポート」「授業の進度」などの授業内容には9割が肯定的な意見であり、最終的には94.2%が授業に満足と答えていた。

- ◆ 授業の前段階として、「事前の興味」は79.0%、「事前の内容理解」は91.5%が肯定的な意見であった。
- ◆ 授業の内容として、「教科書・指導書の適切さ」では84.5%、「課題・レポートの適切さ」では94.4%、「学習支援計画書との一致」では96.9%、「授業の進度の適切さ」では94.1%、「学習相談の有効性」では92.4%が肯定的な意見であった。
- ◆ 学生の意識として、「自分の熱意と努力」を見ると、95.2%が肯定的な意見であり、94.1%が「教員の熱意」を感じていると答えていた。そして、最終的な「満足度」は94.2%であった。

【経年変化で確認できた事】

調査方法の変更のためか、肯定的な意見の合計は前回は下回る項目が多かった。ただし、強く肯定する意見はほとんどの項目で過去最高となり、強く満足している様子が見られた。

- ◆ 今回は調査方法がWebに変わったためか、多くの項目で前回よりも肯定的な意見が減少していた。
- ◆ 「自分の熱意と努力」と「課題・レポートの適切さ」は前回は上回って過去最高となり、「事前の内容理解」は前回と同じで過去最高であった。
- ◆ 上記の3項目以外はすべて前回は下回っていたが、内訳を見ると強く肯定する意見は前回は大きく上回り、過去最高となるものが多かった。
- ◆ 「満足度」の肯定的な意見の合計は前回は1.4ポイント下回っていたが、「満足している」だけを見ると前回は11.1ポイントと大きく上回って過去最高であり、他の項目でも同じ傾向が見られた。

【学年別比較で確認できた事】

高学年ほど授業に「興味」と「熱意と努力」を持って臨んでいた。そして、高学年ほど学習時間を割いている傾向が見られた。特に「4年次」が良い状態であり、強く満足しているようであった。

- ◆ 学年による差が目立っていたのは「事前の興味」であり、明らかに高学年ほど強い興味を持っている傾向が見られた。また、「事前の内容理解」と「学習相談の有効性」も差は少ないものの高学年ほど肯定的な意見が多く、「教科書・指導書の適切さ」にも学年による差が見られた。
- ◆ 肯定的な意見の合計で見ると、上記以外の項目では学年による差は見られなかったが、内訳を見ると「4年次」で強く肯定する意見が多く、「満足度」では他の学年とは10ポイント以上の差がついていた。
- ◆ 学習時間は高学年ほど長い傾向が見られた。特に「4年次」では「3時間以上」が39.1%を占めるなど、他の学年と大きな差がついていた。

【学部別・学科別比較で確認できた事】

学部による差は小さいが、「建築学部」で肯定的な意見が多かった。一方、「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」では「情報フロンティア学部」の低さが目立っていた。

- ◆ 全体的に学部による差はそれほど小さくなく、「建築学部」が8項目で最も肯定的な意見が多かった。一方、「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」では「情報フロンティア学部」の低さが目立っていた。
- ◆ 「工学部」の学科の差は少なかったが、「航空システム工学科」が4項目で最も高く、「機械工学科」が3項目、「情報工学科」が2項目、「ロボティクス学科」が1項目で最も高かった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」では1項目を除いて「心理科学科」の評価が最も高く、特に「事前の興味」の高さが目立っていた。
- ◆ 「バイオ・化学部」の2学科の差は非常に小さかった。

【科目区分別比較で確認できた事】

「事前の興味」では「修学基礎科目」が非常に低く、「専門科目」と「基礎実技科目」が高かった。そして、「英語科目」は「満足度」「教員の熱意」などで強く肯定する意見が多かった。

- ◆ 「事前の興味」では「修学基礎科目」が非常に低く、「専門科目」と「基礎実技科目」が高かった。そして、「人間形成基礎科目」と「基礎実技科目」は「教科書・指導書はなかった」という意見が多かった。
- ◆ 上記の2項目以外では科目区分による差は少なかったが、「英語科目」は5項目で最も高く、内訳を見ると「満足度」「教員の熱意」など、いくつかの項目で強く肯定する意見が多かった。
- ◆ 学習時間は「専門科目」「基礎実技科目」が長く、「英語科目」が短いという傾向が見られた。

【同一学生群で確認できた事】

「H26卒業生」あたりを境目として、授業の充実度が高いまま卒業に至る学生群が増加している。特に直近の学生は入学直後の充実度が高く、これを維持させることが重要だと思われる。

- ◆ 主要な項目を見ると、「H26卒業生」あたりを境目として学生の意識や行動が変わってきており、それ以降の学生は4年間を通して「事前の興味」「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が高く、「4年次-前学期」での低下が少なくなる傾向が見られた。
- ◆ 特に在学生の「自分の熱意と努力」は入学直後から非常に高く、「現4年次」は4年間を通して高かった。一方、「興味」や「満足度」は学年が上がると、以前の学生群との差が小さくなっていった。
- ◆ 「教員の熱意」と「満足度」はほとんどの学生群で4年間を通して9割以上が肯定的な意見であり、非常に充実しているようであった。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は前回から0.1ポイント低下して91.9%であった。「積極・満足型」が多かったのは学年別では「4年次」、学部別では「建築学部」であったが、いずれもバラツキは小さかった。

- ◆ 「積極・満足型」は前回は0.1ポイント下回って91.9%であった。そして、「満足度」と「積極性」がともに高い学生は36.8%であり、全体の1/3を超えていた。
- ◆ 「積極・満足型」の割合を学年別に比較すると、「4年次」が93.4%と最も多く、次いで、「1年次」と「2年次」が92.0%、「3年次」が91.7%となっており、差は最大で1.7ポイントと小さかった。
- ◆ 学部では「建築学部」が93.0%で最も多く、最も少ない「工学部」(91.7%)との差はで1.6ポイントであった。学科では「心理科学科」が94.6%で最も多く、最も少ない「ロボティクス学科」(89.6%)との差は5.0ポイントであった。

【遠隔授業の評価で確認できた事】

遠隔授業の評価は非常に高く、「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」のいずれも9割以上が肯定的な意見であった。そして、学年では「4年次」、学部では「建築学部」の評価がやや高かった。

- ◆ 「遠隔授業の理解度」では肯定的な意見が94.1%を占めており、同様に「主体的(自主的)な学習への有効性」は92.3%、「満足度」は90.8%で、遠隔授業の評価は非常に高いと言える。
- ◆ 肯定的な意見は3指標ともに学年による差が小さかったが、内訳を見ると「4年次」で強く肯定する意見が多かった。
- ◆ 学部別の評価の差も小さかったが、内訳を見ると「建築学部」で強く肯定する意見が多く、「満足度」では「情報フロンティア学部」も高かった。そして、学科別では3指標ともに「心理科学科」の評価が高く、「建築学科」「航空システム工学科」が続いていた。

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

- 学生の8割が「興味」を持って授業に臨んでいた。そして、「教科書・指導書」「課題・レポート」「授業の進度」などの授業内容には9割が肯定的な意見であり、最終的には94.2%が授業に満足と答えていた。
- 調査方法の変更のためか、肯定的な意見の合計は前回を下回る項目が多かった。ただし、強く肯定する意見はほとんどの項目で過去最高となり、強く満足している様子が見えた。
- 高学年ほど授業に「興味」と「熱意と努力」を持って臨んでいた。そして、高学年ほど学習時間を割いている傾向が見られた。特に「4年次」が良い状態であり、強く満足しているようであった。
- 学部による差は小さいが、「建築学部」で肯定的な意見が多かった。一方、「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」では「情報フロンティア学部」の低さが目立っていた。
- 「事前の興味」では「修学基礎科目」が非常に低く、「専門科目」と「基礎実技科目」が高かった。そして、「英語科目」は「満足度」「教員の熱意」などで強く肯定する意見が多かった。
- 「H26卒業生」あたりを境目として、授業の充実度が高いまま卒業に至る学生群が増加している。特に直近の学生は入学直後の充実度が高く、これを維持させることが重要だと思われる。
- 「積極・満足型」は前回から0.1ポイント低下して91.9%であった。「積極・満足型」が多かったのは学年別では「4年次」、学部別では「建築学部」であったが、いずれもバラツキは小さかった。
- 遠隔授業の評価は非常に高く、「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」のいずれも9割以上が肯定的な意見であった。そして、学年では「4年次」、学部では「建築学部」の評価がやや高かった。



- ❖ 満足度をはじめとして、多くの項目で評価が前回を下回っていた。ただし、Web調査になり積極的な学生の回答が多かったためか、回答の内訳を見ると、強く肯定する意見が増加しており、質的に見ると満足度はこれまでで最も良い評価と言える。
- ❖ 高学年ほど「興味」と「熱意と努力」を持って授業に臨んでおり、学習時間も長かった。特に「4年次」が良い状態であり、強く満足している様子が見えた。
- ❖ 「H26卒業生」あたりを境目として、授業の充実度が高いまま「中だるみ」がなく卒業に至る学生群が増加しているようであった。特に直近の学生は入学直後の充実度が高く、これを維持させることが重要だと思われる。
- ❖ 遠隔授業の評価は非常に高く、「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」ともに9割以上が肯定的な意見であった。